

HP Asset Manager

ソフトウェアバージョン : 5.20

ポートフォリオ

ドキュメントリリース日 : 01 October 2009
ソフトウェアリリース日 : October 2009



法的制限事項

著作権

(c) Copyright 1994-2009 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

限定保証条項

機密コンピュータソフトウェア。

所有、使用、または複製するには、HP からの有効なライセンスが必要です。

FAR 12.211 および 12.212 準拠。商用コンピュータソフトウェア、コンピュータソフトウェアマニュアル、技術データは、ベンダの標準商用ライセンスに基づき、米国政府にライセンス供与されています。

保証

HP 製品およびサービスに対する保証は、当該製品またはサービスに付帯する明示的保証条項でのみ規定されます。

本規定のいかなる部分も、他の保証を構成すると解釈されるものではありません。

HP は本書の技術上または編集上の誤謬、欠落についての責任を負わないものとします。

本書に含まれる内容は、予告なく変更される場合があります。

サードパーティ製ソフトウェアまたはオープンソースソフトウェアのライセンス契約の詳細、あるいはオープンソースソフトウェアのソースコードについては、以下のいずれかを参照してください。

- インストールCD-ROMの「ThirdParty」ディレクトリ内
- Asset Managerのインストール後にサードパーティまたはオープンソースツールのバイナリファイルを保存しているディレクトリ内
- 『**Open Source and Third-Party Software License Agreements**』ガイドに記載されているコンポーネントのURLを通じて

商標

- Adobe®, Adobe logo®, Acrobat® and Acrobat Logo® are trademarks of Adobe Systems Incorporated.
- Corel® and Corel logo® are trademarks or registered trademarks of Corel Corporation or Corel Corporation Limited.
- Java™ is a US trademark of Sun Microsystems, Inc.
- Microsoft®, Windows®, Windows NT®, Windows® XP, Windows Mobile® and Windows Vista® are U.S. registered trademarks of Microsoft Corporation.
- Oracle® is a registered trademark of Oracle Corporation and/or its affiliates.
- UNIX® is a registered trademark of The Open Group.

目次

はじめに	11
ポータルフォリオモジュールの対象ユーザ	11
ポータルフォリオモジュールの使用目的	12
このガイドの使用方法	12
1. 概要	15
3つの管理タイプ	15
ポータルフォリオ管理の主要テーブル	16
オーバーフローテーブル	18
ポータルフォリオ品目の説明とトラッキング情報	21
属性：作成と動作オプション	23
モデル：ポータルフォリオの構成	25
2. ポータルフォリオ品目	27
属性	27
モデル	29
ポータルフォリオ品目のユーザ	31
資産	33
ロット	36
トラッキングしないロット	40
資産に関する財務情報のトラッキング	42
ポータルフォリオ品目の移動	46

資産を契約に関連付ける	50
在庫	51
3. ITポートフォリオ	57
コンピュータ	57
コンピュータの標準セット	69
コンピュータ間の接続	70
モバイル機器	77
仮想環境	87
4. 電話機	95
電話機と機能	95
電話機の管理	96
5. ビジネスサービス	99
クライアント-リソース関係	99
Asset Managerにおけるビジネスサービスの表現	100
ビジネスサービスのリソースのダウンタイム	104
ビジネスサービスにリンクしたコスト	109
実用例	111
6. 作業指示	125
作業指示のタイプ	126
作業指示のプロセス	127
作業指示のトラッキング	128
作業指示の管理	129
7. プロジェクト	131
プロジェクトを作成する	131
HP Project and Portfolio Managementからのプロジェクトデータを同期する	132
8. 調整項目	139
調整項目とターゲット項目	139
調整項目を使用する	141
フィールドを調整する - 例	143
9. 用語解説	149

ポートフォリオ品目	149
プロジェクト	154
索引	155

図の一覧表

1.1. ポートフォリオ - データモデル	18
1.2. オーバーフローテーブル - データモデル	21
5.1. 実用例 - 「Asset Manager Web」ビジネスサービスの機能的表現	112
6.1. 作業指示のライフサイクル	127

表の一覧表

2.1. 属性の例	28
6.1. 作業指示時のステータス	127

はじめに

ポートフォリオモジュールの対象ユーザー

ポートフォリオモジュールの使用範囲は広く、企業のほとんどの部署に關与しています。

特に、以下のユーザーがポートフォリオモジュールを利用します。

- ポートフォリオ管理者
- 在庫管理者
- **Asset Manager**の導入を担当する技術者
- 財務管理者
- 購入者
- セキュリティ担当者
- 総務部
- ケーブル責任者
- ネットワーク責任者
- 電話機器の管理責任者

ポートフォリオモジュールは、**Asset Manager**のその他のモジュールの中心的な役割を果たします。このガイドでは、**Asset Manager**のユーザーに役立つポートフォリオモジュールの基本概念について説明します。

ポートフォリオモジュールの使用目的

ポートフォリオモジュールでは、次のタスクを実行できます。

- ポートフォリオを構成するすべての品目の詳細な実地棚卸を実行することができます。次のような情報を記録します。
 - 説明
 - 使用者と責任者
 - 設置場所
 - コストセンタ
- 次の管理方法で、ポートフォリオ品目を正確にトラッキングします。
 - 個別管理
 - 一括管理
 - 非個別管理

上記のタスクを実行すると、次のことができます。

- 各ポートフォリオ品目（任意管理項目、場所など）を指定する。
- 必要に応じて各ポートフォリオ品目をトラッキングする。
- ポートフォリオ品目を適切な管理モードで管理する。
- ポートフォリオ品目に対して作業指示を容易に実行する。
- ポートフォリオ品目の使用を要するプロジェクトを作成する。

このガイドの使用方法

「概要」の章

この章では、Asset Managerによって提案される各種ポートフォリオ管理スタイルについて説明します。ポートフォリオを構成するために入力する必要があるテーブルについて解説します。

Asset Managerの概要について学びます。

「ポートフォリオ品目」の章

この章では、ポートフォリオ品目の管理手順について説明します。ポートフォリオモジュールについて学びます。

「ITポートフォリオ」の章

この章では、ポートフォリオモジュールを使ってITポートフォリオを管理する方法について説明します。

コンピュータ、コンピュータ接続、およびIT構成の管理について学びます。

また、コンピュータの自動棚卸についても説明します。

「電話機」の章

この章では、ポートフォリオモジュールを使って電話機を管理する方法について説明します。

ポートフォリオモジュールを使った電話機の管理、および電話機のボタンに機能を割り当てる方法について学びます。

「ビジネスサービス」の章

この章では、Asset Managerのポートフォリオモジュールを使ってビジネスサービスを管理する方法について説明します。

ビジネスサービスおよびビジネスサービスを作り上げているクライアント-リソース関係を管理する方法について学びます。

「作業指示」の章

この章では、ポートフォリオに対して行われる作業指示の管理、およびポートフォリオ品目をプロジェクトに関連付ける方法について説明します。

「調整項目」の章

この章では、レコードのフィールドを調整する方法について説明します。

調整項目を使用する方法を説明するための、具体的なシナリオ例も記述しています。

「用語解説」の章

この章では、ポートフォリオモジュールに専用の主要な用語について説明します。用語集には、ポートフォリオモジュールを理解するための鍵となる用語の説明が記載されています。

各用語の定義について学びます。

1 概要

Asset Managerを使用することで、企業のポートフォリオ品目を管理することができます。ポートフォリオ品目には、有形の品目（コンピュータ、機器やツール、消耗品、サプライ品など）や無形の品目（ソフトウェアのインストールなど）があります。

Asset Managerでは、ポートフォリオ品目に関連する情報をそのライフサイクルを通じてトラッキングすることができます。最適な管理タイプを適用することで、高価値なポートフォリオ品目と低価値なポートフォリオ品目を区別し管理することが可能です。

3つの管理タイプ

Asset Managerには、ポートフォリオ品目の価値に適する以下の3つの管理タイプがあります。

- 個別管理（資産別）
- 一括管理（ロット別）
- 非個別管理（トラッキングしないロット別）

これらの管理タイプの相違点は、トラッキングのレベルの違いです。

[資産] テーブルに登録しているかどうかに応じて、トラッキング対象かどうかが決まります。[資産] テーブルの各レコードは、財務、技術、契約などの情報を含んでいます。[資産] テーブルにレコードのないポートフォリオ品目は、「トラッキングしないポートフォリオ品目」です。

Asset Managerでは、ポートフォリオ品目の管理レベルを上げることもできます。例えば、「トラッキングしないロット」を「トラッキングするロット」に変更できます。この結果、対応するレコードが「資産」テーブルに作成されます。

個別管理（資産別）

価値を持つポートフォリオ品目は「資産」にあたります。Asset Managerでは、資産は個別にトラッキングされます。例えば、資産「サーバ」には、設置場所、責任者、購入価格、減価償却方法などの情報が含まれています。これらの情報はこのサーバに固有の情報であり、いつでも容易にアクセスできます。理論的に、Asset Managerにおける「資産」は、[ポートフォリオ品目] テーブルの1レコードに対応し、このレコードは「資産」テーブルの1レコードにリンクされています。

一括管理（ロット別）

個別に管理する資産ほど高価値ではない品目は、ロット単位でトラッキングできます。ロットの場合、ロットの各要素をトラッキングするのではなく、ロット全体に関するトラッキング情報が資産テーブルに記録されます。ロット単位で管理すると、購入価格などのトラッキング情報の重複を避けることができます。理論的に、Asset Managerにおける「ロット」は、[資産] テーブルの1レコードに対応します。ただし、1つのロットが[ポートフォリオ品目] テーブルの複数のレコードに対応する場合があります。例えば、1ロットを複数のロットに分割し、複数の部署で使用する場合などです。

非個別管理（トラッキングしないロット別）

低価値のポートフォリオ品目（消耗品やサプライ品）は、「トラッキングしないロット」として管理されます。例えば、鉛筆やインクカートリッジなどがこれにあたります。トラッキングしないロットの場合、レコードは「資産」テーブルに作成されません。大半の場合、トラッキングしないロットはリンクしている品目を経由して、間接的にトラッキングされます。トラッキングしないロットは、トラッキングするロットにいつでも変更できます。

ポートフォリオ管理の主要テーブル

ポートフォリオ管理の主要テーブルは、次のとおりです。

- [モデル] (amModel) テーブルと [属性] (amNature) テーブル
上記の2つのテーブルはポートフォリオ品目作成の前提となるテーブルです。ポートフォリオ品目はモデルを基に作成され、モデルは属性を基に作成され

ます。[モデル] テーブルを使用して、ポートフォリオを階層構造で構成できます (▶ [ポートフォリオ品目 \[献 27\]](#))。

- [ポートフォリオ品目] (amPortfolio) テーブル

ポートフォリオ品目はすべて、このテーブルに記録されます。

ナビゲーションバーの [\[ポートフォリオ管理/ポートフォリオ品目\]](#) リンクをクリックして、ポートフォリオ品目のリストを表示します。

資産の詳細画面を使うと、ポートフォリオ品目の詳細情報にアクセスできます。

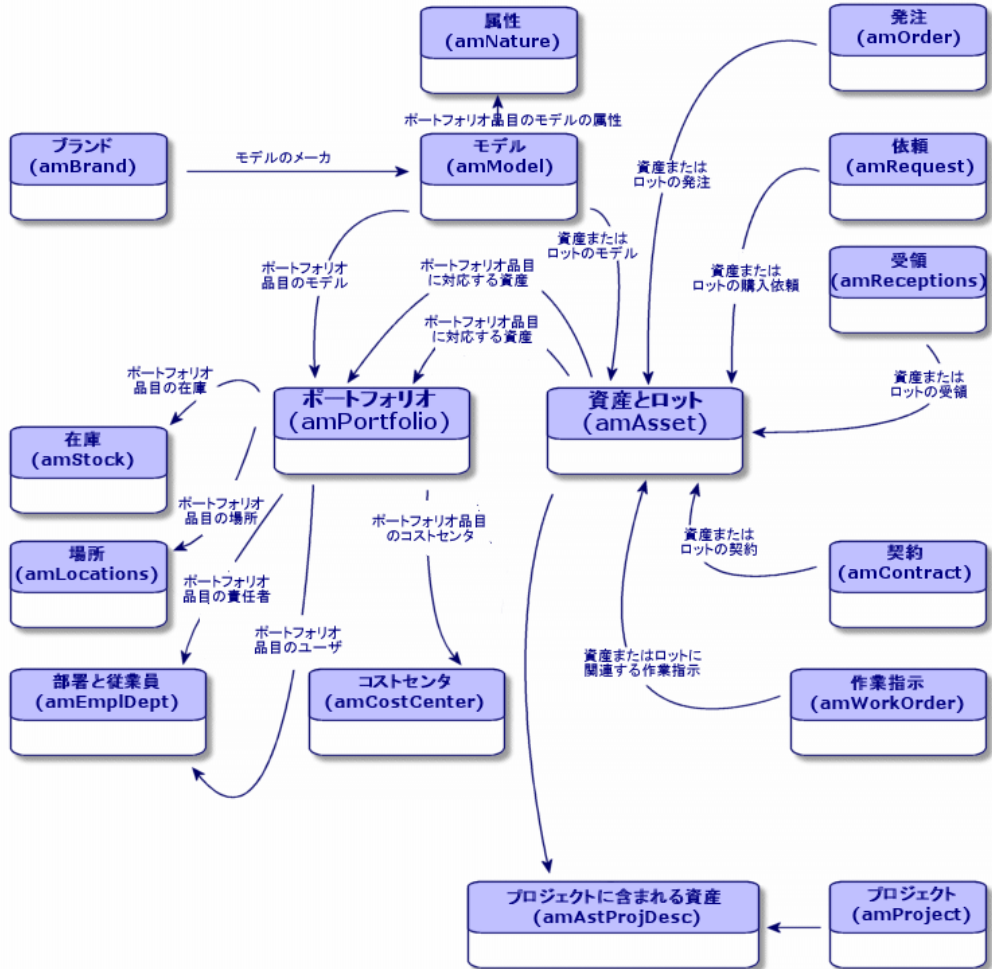
[ポートフォリオ品目] テーブルは、ポートフォリオ品目のコンテキスト情報を指定するために、以下のテーブルにリンクされます。

- [部署と従業員] (amEmplDept) テーブルは、ポートフォリオ品目の使用者および責任者に関する情報を含んでいます。
 - [場所] (amLocation) テーブルは、ポートフォリオ品目の設置場所に関する情報を含んでいます。
 - [コストセンタ] (amCostCenter) テーブルは、ポートフォリオ品目にリンクされている経費明細に関する情報を含んでいます。
- [資産] テーブル

ポートフォリオ品目が [資産] テーブルで参照されると、財務、技術、契約などの関連する詳細情報をトラッキングできます。これらの詳細情報は、資産テーブルにリンクしている複数のテーブルに記録されています。リンクされているテーブルの例は、次のとおりです。

- [契約] (amContract) テーブル
- [作業指示] (amWOrder) テーブル
- [プロジェクトに含まれる資産] (amAstProjDesc) テーブル
- [依頼] (amRequest) テーブル
- [発注] (amPOrder) テーブル
- [受領明細] (amReceiptLine) テーブル

図 1.1. ポートフォリオ - データモデル



オーバーフローテーブル

ポートフォリオ品目の中には、特定のフィールドを必要とする品目があります。例えば、コンピュータをトラッキング、管理する場合、多数の情報を保存する必要があります。このような情報を記録するために多数のフィールドをポートフォリオ品目のテーブルに追加すると、次のような状況が予想されます。

- Asset Managerのパフォーマンスが低下する。

- 大多数のポートフォリオ品目に不要なフィールドが追加される。

このような状況を回避するためには、通常専用テーブルを作成します。例えば、コンピュータに対応するポートフォリオ品目はまず [ポートフォリオ品目] テーブルに登録され、次に [コンピュータ] テーブルに登録されます。ただし、この結果同期プロセスが大変複雑になり、以下の事項を常時確認する必要が生じます。

- コンピュータが [ポートフォリオ品目] テーブルと [コンピュータ] テーブルの両方に記録されている。
- コンピュータがポートフォリオから削除された場合、[コンピュータ] テーブルからも削除される。
- その他。

このような複雑な同期プロセスを避けるために、Asset Managerでは「オーバーフローテーブル」を使用します。ポートフォリオ品目の各レコードに対して1つまたは複数のオーバーフローテーブルが指定されると、レコードが [ポートフォリオ品目] テーブルとオーバーフローテーブルの両方に同時に作成されます（例： [資産] テーブルと [コンピュータ] テーブル）。これらの2テーブルのうちの1つでレコードが作成または削除される度に、もう一方のテーブルにも変更が適用され、同期処理に要する時間が短縮されます。

オーバーフローテーブルを使用すると、Asset Managerに他のアプリケーションをさらに簡単に統合できます。例えば、Asset Managerが他のソフトウェア配布ツールと即時に統合され、この機能で必要なすべての情報が保存されます。この情報はすべて、コンピュータのオーバーフローテーブルに表示されます。

新たにオーバーフローテーブルを追加することもできます。これにより、データベースを大幅に変更することなく、Asset Managerの物理データモデルを拡張することが可能になります。

詳細については、『管理』ガイドの「データベースの標準記述ファイル」の章を参照してください。

オーバーフローテーブルの概要

ポートフォリオ品目をオーバーフローテーブルに登録するには、このポートフォリオ品目のモデルの属性で、適切なアクションを指定する必要があります（▶属性の作成基準 [献 23]）。

使用可能なオーバーフローテーブル

次のオーバーフローテーブルが使用可能です。

- [資産] (amAsset) テーブル

Asset Managerで大切なオーバーフローテーブルです。トラッキングしないロットに対応するポートフォリオ品目は、このテーブルに登録されません（▶トラッキングしないロット [献 40]）。



注意:

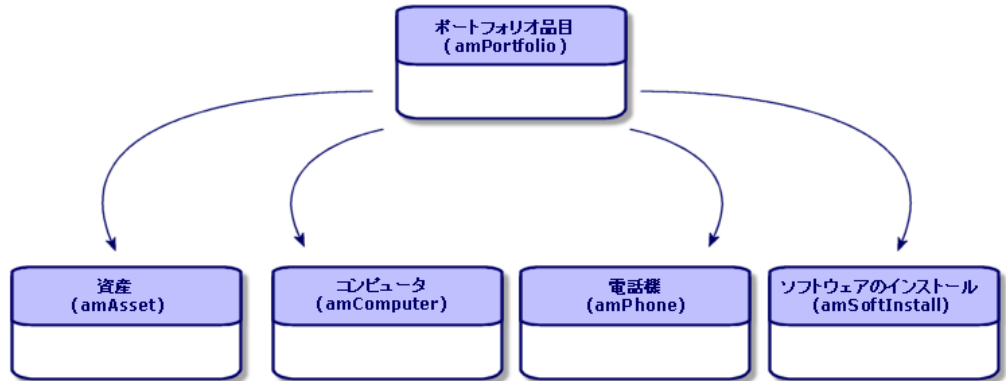
このテーブルに存在するオーバーフローリンク (PortfolioItems) は、ロットの作成のためのもので、外部キーを共有します。

このテーブルは、資産に関する詳細情報を記録します。

- 購入日
- ステータス
- 賃貸料
- 取得方法
- 固定資産の番号
- その他
- [コンピュータ] (amComputer) テーブル
このテーブルは、[資産] テーブルのオーバーフローテーブルです。コンピュータを作成すると、[ポートフォリオ品目] テーブル、[資産] テーブルおよび [コンピュータ] テーブルにレコードが作成されます。
特に、ソフトウェア配布ツールとの統合に関する情報を記録するのに使用します。
 - ソフトウェア配布識別子 (SWDID)
- [電話] (amPhone) テーブル
このテーブルは、[資産] テーブルのオーバーフローテーブルです。電話機を作成すると、[ポートフォリオ品目] テーブル、[資産] テーブルおよび [電話機] テーブルにレコードが作成されます。
電話関連の資産に関する情報を記録します。
 - ボイスメール
 - 内線
 - 番号
 - その他
- [ソフトウェアのインストール] (amSoftInstall) テーブル
[ソフトウェアのインストール] テーブルは、[ポートフォリオ品目] テーブルのオーバーフローテーブルです。ソフトウェアのインストールを作成すると、[ポートフォリオ品目] テーブルおよび [ソフトウェアのインストール] テーブルにレコードが作成されます。
[ソフトウェアのインストール] テーブルには、ソフトウェアのインストールに固有の以下の情報を保存します。
 - ライセンス番号
 - 認証
 - インストールの種類
 - ソフトウェアをインストールする度に消費されるポイント数 (「Microsoft Select」タイプのライセンスの場合)

- その他

図 1.2. オーバーフローテーブル - データモデル



ポートフォリオ品目の説明とトラッキング情報

Asset Managerでは、ポートフォリオ品目のコンテキスト情報を指定し、トラッキングすることができます。

コンテキスト情報の指定

ポートフォリオ管理の主要目的の1つは、ポートフォリオ品目にそのコンテキスト情報を関連付けることです。ポートフォリオに含まれる品目数に関係なく、正確に各品目のコンテキスト情報を指定する必要があります。Asset Managerは、各ポートフォリオ品目またはロットに関する次の情報を指定します。

- ポートフォリオにおけるステータス
- 責任者と使用者
- 設置場所
- コストセンタ
- リンクしているその他のポートフォリオ品目（関連資産、消耗品、用品）

ポートフォリオ品目の設置場所や使用状況を正確に把握すると、次のことができます

- ポートフォリオ品目の移動を効率的にモニタする（例：複数のコンピュータを別の部署に割り当てる）。

- 各部署のニーズを評価する（例：1部署につき必要なコピー機の台数を計算する）。
- 新たに取得したコンピュータ機器を均等に割り当てる。
- 割り当て済みのハードウェアの設置場所を即時確認する。
- 1人の従業員に同じ資産を2つ割り当てることを避ける（例：複数のノートパソコンを使用するコンサルタント）。
- ポートフォリオ品目にリンクしているコストセンタが再構成された場合、関連情報を適切に変更する。
- その他。

トラッキング

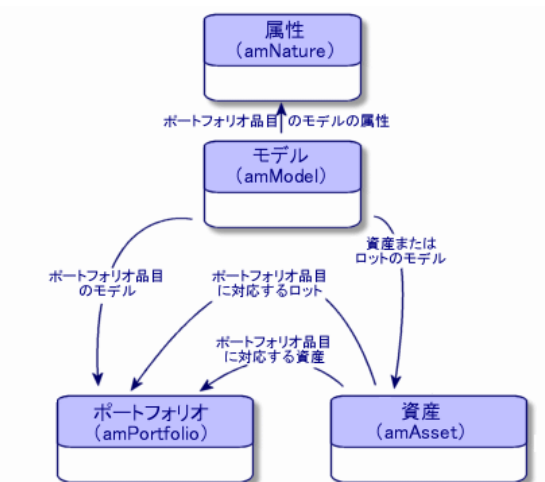
ポートフォリオ品目のトラッキングは必須です。**Asset Manager**では、ポートフォリオ品目の個別またはロット別のトラッキングを選択できます。精密にトラッキングする必要がないと見なされるポートフォリオ品目（事務用品や消耗品）に対しては、非個別管理（トラッキングしないロット別）を適用します。この場合、コンテキスト情報のみが記録されます。

資産またはロットをトラッキングすると、次のことができます。

- 資産またはロットを固定資産として管理する。
- 調達モジュールを使用する場合、リンクしている購入依頼、見積、発注および受領に関する情報を得る。
- 関連経費を把握する。
- リンクしているプロジェクトや作業指示を把握する。
- 取得方法を確認する（購入、リース、ローン）。

属性：作成と動作オプション

ポートフォリオ品目を適切に構成するためには、まずモデルを最適な方法で構成する必要があります。モデルは属性を基にして作成されるため、モデルを作成する前に属性を作成します。



モデルの属性では、モデルが継承するさまざまな規準を定義します。モデルを基にして、Asset Managerで管理されるポートフォリオ品目やその他の要素（契約、研修、作業指示、ケーブルなど）を作成します。

属性は、属性にリンクするモデルがどのテーブルにレコードを作成するかを指定します。例えば、属性「コンピュータ」は、次に「ポートフォリオ品目」テーブルにコンピュータを作成するのに必要なモデルを作成するために使われます。ポートフォリオ品目作成用の属性では、「管理条件」で第2の条件として指定する必要があります。

また、ポートフォリオ品目のモデル作成用の属性では、動作オプションを選択できます。例えば、属性「コンピュータ」で、動作オプション「接続可能」を選択すると、接続ポートに関連するタブページが使用可能になります。

属性の作成基準

属性の詳細画面で、この属性を基にするモデルがどのテーブルにレコードを作成するかを指定します。例えば、ポートフォリオ品目のモデルを作成するための属性や、契約のモデルを作成するための属性などがあります。

ポートフォリオ品目を作成するための属性に対しては、オーバーフローテーブル（[コンピュータ] テーブル、[ソフトウェアのインストール] テーブル、[電話機] テーブルなど）を指定できます。例えば、ある属性はポートフォリオ品目のモデルとコンピュータのモデルの作成に使用されると仮定します。この場合、この属性を基にしてポートフォリオ品目を作成すると、同時に[コンピュータ] テーブルにもレコードが作成されます（▶ [コンピュータの属性を作成する](#) [献 57]）。

詳細については、『[管理](#)』ガイドの「[データベースの標準記述ファイル](#)」の章を参照してください。

管理条件

管理条件を指定すると、ポートフォリオ品目の管理方法を定義できます。

ポートフォリオ品目の管理条件では、資産タグを使用するかどうかを指定します。資産タグの付いたポートフォリオ品目は、[ポートフォリオ品目] テーブルと[資産] テーブルに自動的に記録されます。以下の3種類の管理条件があります。

■ 固有資産タグ

固有資産タグが割り当てられているポートフォリオ品目は、個別にトラッキングされる資産にあたります。常時正確にトラッキングする必要のある価値の高いポートフォリオ品目に対して、この制限条件を適用することをお勧めします（例：サーバ、工作機械、コピー機）。

■ 固有/共有資産タグ

同じ資産タグを共有するポートフォリオ品目の集まりは、「トラッキングするロット」と呼ばれ、ロット単位で管理されます。個別にトラッキングする必要のない同一のポートフォリオ品目を管理するために、この管理条件を使用することをお勧めします（例：椅子100脚のロット、安全ヘルメット20個のロット）。

■ 個別管理しない

ポートフォリオ品目の属性で「個別管理しない」を管理条件として選択すると、資産タグの有無を自由に選択できます。資産タグを持たないポートフォリオ品目は、精密なトラッキングを必要としないポートフォリオ品目です。このようなポートフォリオ品目は、「トラッキングしないロット」と呼ばれ、[資産] テーブルには記録されません。例えば、低価値の事務用品（鉛筆、消しゴム、クリップ）や、消耗品（消耗品のロットは、消耗品を消費するポートフォリオ品目経由でトラッキングされます）などにこの管理条件を適用します。

属性における動作オプション

品目の属性で1つまたは複数の動作オプションを選択することにより、それらの品目のテーブルで特定のフィールドおよびタブの使用の可否が決まります。例えば、ポートフォリオ品目の属性で[ライセンス]を選択すると、[モデル] テー

ブルに【ライセンス】タブが表示されます。Asset Managerでは、以下の動作オプションを使用できます。

- ソフトウェアをインストール
- 接続可能
- 消耗品
- ケーブルデバイス
- ライセンス

モデル：ポートフォリオの構成

ポートフォリオ品目のモデルを作成すると、このポートフォリオ品目の作成時に継承される情報を指定することができます。例えば、名前、ブランド、コンピュータに特有の技術情報などです。

モデルは階層構造で構成されています。一般的なモデルを使って、具体的なモデルを統括します。各企業のポートフォリオの管理方法を反映した方法で、モデルを作成、分類する必要があります。

2 ポートフォリオ品目

この章では、ポートフォリオ品目の管理方法、および次のテーブルのレコードの編集方法について説明します。

- [属性] (amNature) テーブル
- [モデル] (amModel) テーブル
- [ポートフォリオ品目] (amPortfolio) テーブル
- [資産] (amAsset) テーブル
- [コンピュータ] (amComputer) テーブル
- [ソフトウェアのインストール] (amSoftInstall) テーブル
- [電話] (amPhone) テーブル

属性

ポートフォリオ品目用のモデルを作成するためには、まず属性を定義する必要があります。属性ではポートフォリオ品目の管理条件を定義します。企業で適用するポートフォリオ品目の管理タイプの数と同じ数だけ属性を作成します。例えば、ソフトウェアを「資産」、「ロット」、および「トラッキングしないロット」として管理する場合、「ソフトウェア」、「ソフトウェア (ロット)」、および「ソフトウェア (トラッキングしないロット)」という3つの属性を作成します。

属性のリストを表示するには、ナビゲーションバーの **[ポートフォリオ管理/属性]** リンクをクリックします。

ポートフォリオ品目の属性を作成する

ポートフォリオ品目のモデルの属性を作成するには：

- 1 属性を表示します（ナビゲーションバーの[ポートフォリオ管理/属性]リンク）。
- 2 [新規作成] をクリックします。
- 3 [名前] フィールドに入力します。
- 4 必要に応じて、[コード] フィールドの値を変更します。
デフォルトでは、[コード] フィールドには[名前] フィールドの値が入力されます。このフィールドには、レコードを個別に識別するためのコードを入力します。Asset Managerと他のデータベース間でデータをインポート/エクスポートする際に、このコードがレコードの識別キーとして使われます。
- 5 [作成] フィールドで[ポートフォリオ品目] を選択します。
- 6 電話機のモデルまたはコンピュータのモデル用の属性を作成する場合は、[オーバーフローテーブル] フィールドで[電話] または[コンピュータ] を選択します。
- 7 管理条件を選択します。
- 8 必要に応じて、[動作オプション] オプションを選択します。
- 9 [作成] をクリックして、作成を確定します。

属性の例

ポートフォリオ品目と同じ数だけ属性を作成することをお勧めします。次の表は、属性の例を示しています。

表 2.1. 属性の例

名前	オーバーフローテーブル	管理条件	動作オプション
全般			
資産	なし	固有資産タグ	オプションなし
ロット	なし	資産タグ	オプションなし
トラッキングしない ロット	なし	個別管理しない	オプションなし
消耗品	なし	個別管理しない	消耗品
原料	なし	資産タグ	オプションなし
IT			
コンピュータ	コンピュータ	固有資産タグ	<ul style="list-style-type: none">■ ソフトウェアをインストール■ 接続可能
コンピュータ (ロット)	なし	資産タグ	オプションなし

名前	オーバーフローテーブル	管理条件	動作オプション
ソフトウェアのインストール	ソフトウェアのインストール	固有資産タグ	オプションなし
ソフトウェアのインストール (ロット)	ソフトウェアのインストール	資産タグ	オプションなし
ソフトウェアのインストール (トラッキングしないロット)	ソフトウェアのインストール	個別管理しない	オプションなし
ライセンス	なし	固有資産タグ	■ ライセンス
ライセンス (ロット)	なし	資産タグ	■ ライセンス
ライセンス (トラッキングしないロット)	なし	個別管理しない	■ ライセンス
コンピュータの標準セット	コンピュータ	資産タグ	■ ソフトウェアをインストール ■ 接続可能
その他			
ケーブルデバイス	なし	固有資産タグ	■ ケーブルデバイス
電話機	電話	固有資産タグ	オプションなし

モデル

モデルは、ポートフォリオ品目を分類するために使用されます。モデルは、属性を基にして作成されます。必要に応じて、一般的なモデルまたはより具体的なモデルを作成します。

ソフトウェアのモデルを構成する場合の例

以下の例では、ソフトウェアのモデルを構成する方法について説明します。

- 1 ソフトウェアの全モデルは、ポートフォリオ品目を作成する属性を基に作成されています。ソフトウェアの管理方法に応じて、管理条件（個別管理、一括管理、非個別管理）を選択します。
- 2 一般的なモデル「ソフトウェア」モデルを作成します。
- 3 従属モデルを使って、用途別にソフトウェアを分類します（例：オフィスオートメーション、ERP、プロジェクト管理など）。
- 4 従属モデル「オフィスオートメーション」用に、特定のアプリケーションのモデルを作成します（例：ワードプロセッサ、スプレッドシート、DTP、ファイル管理など）。
- 5 モデルの階層構造の最下層に作成されるモデル（例：ソフトウェア/オフィスオートメーション/ワードプロセッサ/Microsoft Word 2001）が [ポートフォリオ品目] テーブルでソフトウェアを入力する際に使用されます。

モデルのリストを表示するには、ナビゲーションバーの [ポートフォリオ管理/モデル] リンクをクリックします。

ポートフォリオ品目のモデルを作成する

モデルを作成するには：

- 1 [新規作成] をクリックします。
- 2 [全般] タブページで [属性] フィールドに入力します。
- 3 [名前] フィールドに入力します。
- 4 [親モデル] フィールドに親モデルを入力します。
例：[オフィスオートメーション] を作成する場合は、[親モデル] フィールドに「ソフトウェア」と入力します。
- 5 特定のモデルを作成する場合は、[ブランド] フィールドに入力します。
例：モデル「**Word 2001**」を作成する場合、[ブランド] フィールドに「**Microsoft**」と入力します。
- 6 ロットの場合は、使用する単位を選択します。
- 7 作成するモデルを購入依頼で使用する場合は、[購入依頼用に承認済] オプションを選択します。必要に応じて、承認日と承認レベルを入力します。
- 8 [作成] をクリックして、作成を確定します。
- 9 モデルを基にするポートフォリオ品目が継承する情報を、適切なタブページで入力します。

ロットで使用する単位

ロットのモデルを作成する場合、モデルの単位の指定が必要な場合があります。例えば、砂のロットのモデルを作成する場合、単位「トン」を使用します。

単位を作成するには、ポートフォリオで使用する測定項目（次元）用に、基準単位をあらかじめ作成する必要があります。次元には、**温度**、**寸法**、**質量**などがあります。まず基準単位を作成し、その基準単位に対する他の単位をいくつでも作成（基準単位との変換係数を指定する）できます。例えば、次元「**質量**」の基準単位「**キログラム**」と単位「**トン**」を作成したと仮定します。この場合、「トン」の変換係数は**1000**です（ $1000\text{kg} = 1\text{t}$ ）。

ポートフォリオ品目のモデルで選択された単位は、[ポートフォリオ品目] テーブルと [資産] テーブルの [数量] フィールドの右横に記号で表示されます。

基準単位を作成する

基準単位を作成するには：

- 1 単位を表示します（ナビゲーションバーの [管理/システム/単位] リンク）。
- 2 [新規作成] をクリックします。
- 3 [名前]、[次元]、[記号] フィールドに入力します（例：キログラム、質量、Kg）。

- 4 【変換係数】フィールドに「1」と入力します。
- 5 【作成】をクリックして、作成を確定します。

単位を作成する

単位を作成するには：

- 1 単位を表示します（ナビゲーションバーの【管理／システム／単位】リンク）。
- 2 【新規作成】をクリックします。
- 3 【名前】、【次元】、【記号】フィールドに入力します（例：ポンド、質量、Lb）。
次元を選択すると、【変換係数】フィールドの隣にあるフィールドに、この次元の基準単位の記号が表示されます。
- 4 基準単位を作成する単位に変換するための係数を【変換係数】フィールドに入力します。例えば、ポンドの場合は「0.454」と入力します（1ポンド = 0.454キログラム）。
- 5 【作成】をクリックして、作成を確定します。

単位の表示



注意:

この操作は、Windowsクライアントでのみ実行できます。

使いやすくするために、単位画面をカスタマイズし、仮想階層を作成することをお勧めします。

例えば、単位の次元で情報をまとめることができます。

- 1 単位を表示します（ナビゲーションバーの【管理／システム／単位】リンク）。
- 2 【次元】フィールドを右クリックします。
- 3 ショートカットメニューから【このフィールドでグループ分け】を選択します。
リストは次元でソートされ、各次元が階層の1レベルを定義します。

ポートフォリオ品目のユーザ

各ポートフォリオ品目について、ユーザ管理の2つのモードのどちらかを選択する必要があります。

- シングルユーザの割り当て
- 主要ユーザと二次ユーザの割り当て

シングルユーザの割り当て

- 1 ポートフォリオ品目の詳細を表示します。
- 2 [全般] タブを表示します。
- 3 [共有ポートフォリオ品目] ボックス (bUsers) のチェックを解除します。
- 4 [ユーザ] リンク (User) に値を入力します。

主要ユーザと二次ユーザの割り当て

- 1 ポートフォリオ品目の詳細を表示します。
- 2 [全般] タブを表示します。
- 3 [共有ポートフォリオ品目] ボックス (bUsers) をチェックします。
- 4 [ユーザ] リンク (User) に値を入力します。

重要項目:

特定のプロセスはこのリンクに基づき、[ユーザ] タブの [ユーザ] リンク (Users) に基づかないので、このリンクは重要な役割を果たします。
例えば、導入作業指示のデフォルトの依頼者は、[ユーザ] (User) リンクによって決定されます。

- 5 [ユーザ] タブページを表示します。
- 6 二次ユーザの追加

ヒント:

[ユーザ] (User) リンクのレベルで選択されているユーザを追加することが役に立ちます。
[ユーザ] リンク内の値は、[ユーザ] タブのリンクによって自動的に更新されません。

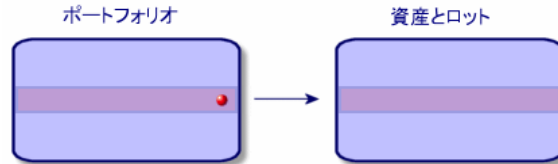
ポートフォリオ品目のすべてのユーザを検索

ポートフォリオ品目のすべてのユーザを検索するとき (フィルタや依頼など)、以下のリンクの参照を考慮してください。

- ユーザ (User - [全般] タブ内)
- ユーザ (Users - [ユーザ] タブ内)

資産

Asset Managerでは「資産」は固有資産タグの付いたポートフォリオ品目にあたります。資産の属性では、管理条件が「固有資産タグ」に指定されています（▶管理条件 [献 24]）。この管理条件は、「個別管理」に対応します。データベース上では、「資産」は、[資産] テーブルの1レコードと [ポートフォリオ品目] テーブルの1レコードで参照されます。



注意:

[資産] テーブルのレコードで、[ポートフォリオ] タブをクリックすると、対応するポートフォリオ品目の詳細情報を参照できます。

資産のリストを表示するには、ナビゲーションバーの [ポートフォリオ管理/資産] リンクをクリックします。

資産を作成する

資産を作成するには：

- 1 資産を表示します（ナビゲーションバーの [ポートフォリオ管理/資産] リンク）。

- 2 [新規作成] をクリックします。

[全般] タブページで新規レコードに資産タグが割り当てられます。

- 3 [モデル] フィールドでモデルを選択します。

資産のモデルは、管理条件 [固有資産タグ] を指定する属性を基に作成されています（▶管理条件 [献 24]）。

選択されたモデルで接頭コードが指定されている場合、この接頭コードが資産タグでも使用されます。

- 4 [作成] をクリックして、作成を確定します。

- 5 必要に応じて、資産に関するトラッキング情報を各タブページで入力します。

[全般]、[ポートフォリオ]、[プロジェクト] タブを除く全タブページは以下の分野に関連するトラッキング情報を含んでいます。

- 財務分野
 - コスト
 - 取得方法
 - 固定資産
 - ▶ 資産に関する財務情報のトラッキング [献 42].
- IT分野
 - ライセンス
 - 接続
 - ポート
 - ▶ ITポートフォリオ [献 57].
- 契約分野
 - 契約
 - メンテナンス
 - ▶ 資産を契約に関連付ける [献 50]および『契約』ガイド。
- ケーブル分野
 - スロット
 - ピン/ターミナル
 - トレース
 - ポート
 - ▶ 『ケーブル』ガイド。

資産にポートフォリオ品目を関連付ける

ポートフォリオ品目が資産である場合、これに他のポートフォリオ品目を関連付けることができます。資産に関連付けられるポートフォリオ品目は、次のカテゴリに分類できます。

- 消耗品

消耗品はポートフォリオ品目であり、基になるモデルの属性で【消耗品】オプションが選択されています。

動作オプションの詳細については、「属性：作成と動作オプション [献 23]」のセクションを参照してください。
- ソフトウェアのインストール

ソフトウェアのインストールは、ポートフォリオ品目であり、基になるモデルの属性の詳細画面にある【オーバーフローテーブル】 (seOverflowTbl) フィールドで【ソフトウェアのインストール】が選択されています。

▶ 『ソフトウェア資産』ガイド。
- ライセンス

ライセンスはポートフォリオ品目であり、基になるモデルの属性で【ライセンス】オプションが選択されています。

- ▶ 『ソフトウェア資産』ガイド。

資産にポートフォリオ品目を関連付ける

資産にポートフォリオ品目を関連付けるには、次の場合に応じて複数の方法があります。

- データベースにポートフォリオ品目が既に存在する場合
- 関連付ける時にポートフォリオ品目を仮作成する場合
- ポートフォリオ品目が在庫にあるロットで、ロットに含まれている一部の品目のみを関連付ける場合


リストの左側にデフォルトで表示されるフィルタオプションを使用すると、資産に関連付けられているポートフォリオ品目に対して属性別に（消耗品、ライセンス、ソフトウェアのインストール）フィルタを適用できます。

【開始】フィールドと【終了】フィールドを使用すると、関連付けを行った日付に応じてフィルタを適用できます。

既存のポートフォリオ品目を資産に関連付けるには：

- 1 ポートフォリオ品目を表示します（ナビゲーションバーの【ポートフォリオ管理／ポートフォリオ品目】リンク）。
- 2 資産に関連付けるポートフォリオ品目を選択します。
- 3 【親レコード】（Parent）リンクで関連付け先の資産を選択します。
- 4 【変更】をクリックします。

仮作成のポートフォリオ品目を資産に関連付けるには：

- 1 資産を表示します（ナビゲーションバーの【ポートフォリオ管理／資産】リンク）。
- 2 ポートフォリオ品目の関連付け先となる資産を選択します。
- 3 【ポートフォリオ】タブページの【コンポーネント】サブタブページを選択します。
- 4  をクリックします。
- 5 資産に関連付けるポートフォリオ品目を作成します。
- 6 【追加】をクリックします。

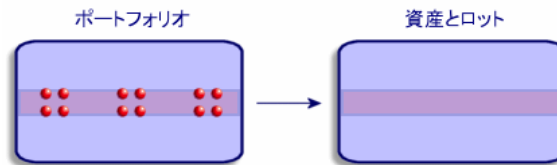
在庫にあるロットに含まれている一部のアイテムを資産に関連付けるには：

- 1 ポートフォリオ品目を表示します（ナビゲーションバーの【ポートフォリオ管理／ポートフォリオ品目】リンク）。
- 2 在庫中のポートフォリオ品目の関連付け先となる資産を選択します。
- 3 【在庫】をクリックします。
- 4 【在庫の品目を追加】ウィザードが表示されます。
- 5 【在庫の品目を選択】画面で、資産に関連付けるロットを選択します。

- 6 [次へ] をクリックします。
- 7 [数量] ページで、資産に関連付けるロットのアイテムの数量を選択します。
必要に応じて他のフィールドにも入力します。
- 8 [完了] をクリックします。

ロット

Asset Managerでは、「ロット」は資産タグの付いたポートフォリオ品目にあたります。資産の属性では、管理条件が「資産タグ」に指定されています（▶管理条件 [献 24]）。この管理条件は、個別（固定資産タグ）ではなく「一括管理」に対応します。ロットとは、同一の品物の集まりです（例：安全ヘルメット1000個のロット）。ロットには、可算のロット（キーボード、セメント袋のロット）と不可算のロット（セメント、砂、灯油）があります。不可算の品目の単位にはキログラム、トン、リットル、メートルなどが使用されます。ロットが作成されると、[資産] テーブルと [ポートフォリオ品目] テーブルにそれぞれ1レコードが作成されます。



注意:

[資産] テーブルのレコードで、[ポートフォリオ] タブをクリックすると、対応するポートフォリオ品目の詳細情報を参照できます。

あるロットを複数のロットに分割した場合、[ポートフォリオ品目] テーブルには複数のレコードが作成されます。ただし、分割されたロットはすべて、[資産] テーブルの単一のレコードにリンクされたまま変わりません（▶ロットを分割 [献 38]）。

資産のリストを表示するには、ナビゲーションバーの [ポートフォリオ管理/資産] リンクをクリックします。

ロットを作成する

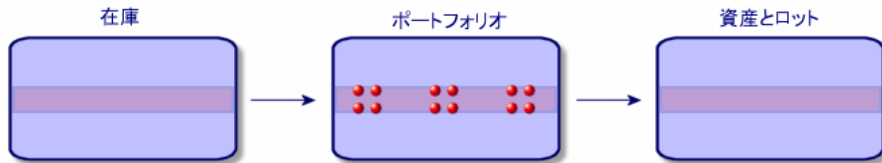
ロットを作成するには：

- 1 資産を表示します（ナビゲーションバーの[ポートフォリオ管理/資産]リンク）。
- 2 [新規作成] をクリックします。
[全般] タブページで新規レコードに資産タグが割り当てられます。
- 3 [モデル] フィールドでモデルを選択します。
資産のモデルは、管理条件 [資産タグ] が指定されている属性を基に作成されています（▶管理条件 [献 24]）。
選択されたモデルで接頭コードが指定されている場合、この接頭コードがロットの資産タグでも使用されます。
- 4 ロットの数量を指定します。
ロットを定義するために、ロットで使用する基準単位を選択します（▶ロットで使用する単位 [献 30]）。
- 5 [作成] をクリックして、作成を確定します。
- 6 必要に応じて、ロットに関するトラッキング情報を各タブページに入力します。
[全般]、[ポートフォリオ]、および[プロジェクト] タブを除く全タブページは、以下の分野に関連するトラッキング情報を含んでいます。
 - 財務分野
 - コスト
 - 取得方法
 - 固定資産
 - ▶資産に関する財務情報のトラッキング [献 42]
 - IT分野
 - ライセンス
 - 接続
 - ポート
 - ▶ITポートフォリオ [献 57].
 - 契約分野
 - 契約
 - メンテナンス
 - ▶資産を契約に関連付ける [献 50]および『契約』ガイド。
 - ケーブル分野
 - スロット
 - ピン/ターミナル
 - トレース
 - ポート
 - ▶『ケーブル』ガイド。

ロットを分割

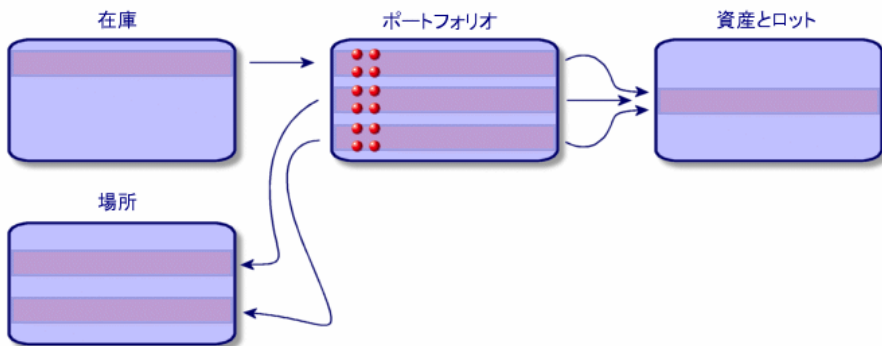
ロットを分割すると、元のロットのレコード（[資産] テーブル）から、[ポートフォリオ品目] テーブルに複数のレコードを作成できます。

例：椅子12脚のロットを受領して在庫に入庫します。[資産] テーブルに1レコードを作成します。データベース上では、[資産] テーブルと[ポートフォリオ品目] テーブルそれぞれに1レコードが作成されます。このロットを在庫に入庫します。



次にこのロットを、椅子4脚を含む3つのロットに分割します。1つのロット（椅子4脚）を在庫に保管したままにし、残りの2つのロットを2つの場所（AとB）に割り当てます。この場合、ロットに対応するレコードとして、[資産] テーブルにある1つのレコードに変更はありません。しかし、[ポートフォリオ品目] テーブルでは、次の3つのロットに対応するレコードにリンクされます。

- 在庫に残す椅子4脚のロット
- 場所Aに割り当てられた椅子4脚のロット
- 場所Bに割り当てられた椅子4脚のロット



ロットを分割する

次の2とおりの方法でロットを分割できます。

- [ロットの分割] ウィザードを使用する。
- [資産] テーブルから [ポートフォリオ品目] テーブルに複数のリンクを作成する。

【ロットの分割】ウィザードを使用する

【ロットの分割】ウィザードを使用するには：

- 1 ポートフォリオ品目のリストを表示します。
- 2 分割するロットを選択します。
- 3 【分割】をクリックします。
- 4 【ロットの分割】ウィザードの画面が表示されます。

抽出数	1
割当	使用中
ユーザ	安西 博子
責任者	木村 敦子
在庫	大阪事務所の在庫
場所	/札幌事務所/ビル02/2階/
親レコード	1 Compaq Deskpro 4000S (DKTC)

- 5 【抽出数】フィールドに新しいロットに含める数量を入力します。
- 6 新しいロットに関する情報を入力します（場所、ユーザ、責任者など）
- 7 【完了】をクリックします

【ポートフォリオ品目】テーブルでは、元のロットの数量が新しいロットの数量分減少しているはずですが、また同じテーブルに新しいロットのレコードが作成されています。

【資産】テーブルから【ポートフォリオ品目】テーブルに複数のリンクを作成する

【資産】テーブルから【ポートフォリオ品目】テーブルに複数のリンクを作成するには：

- 1 資産のリストを表示します。
- 2 ロットのレコードを選択します。
- 3 【ポートフォリオ】タブを選択し、【ポートフォリオ品目】テーブルに向けてリンクを作成します。

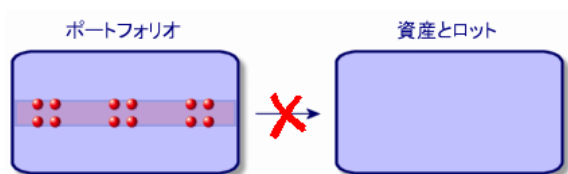
Windowsクライアント：【資産とロット】テーブルのレコードが、【ポートフォリオ品目】テーブルの複数のレコードにリンクされた後は、これらのリンクをリスト形式で表示することを推奨します。（【ポートフォリオ】タブ

ページ内にマウスカーソルを置いてから、右クリックして [リスト形式で表示] メニューを選択します)。

トラッキングしないロット

「トラッキングしないロット」とは、管理条件が [個別管理しない] を指定している属性を基に作成されているポートフォリオ品目です。(▶管理条件 [献 24])。この管理条件は、非個別管理に対応します。

トラッキングしないロットは、[ポートフォリオ品目] テーブルのみに記録されます。これにより、トラッキングしないロットの場所、ユーザ、責任者、コストセンタなどのコンテキスト情報が指定されます。トラッキングしないロットは [資産] テーブルでは参照されないため、財務情報、技術情報、契約情報は関連付けられていません。低価値のポートフォリオ品目 (消耗品やサプライ品) は、トラッキングしないロットとして管理されます。例えば、鉛筆やインクカートリッジなどがこれにあたります。消耗品は、これを消費するポートフォリオ品目を經由して、間接的にトラッキングされます。



ナビゲーションバーの [ポートフォリオ管理/ポートフォリオ品目] リンクをクリックして、ポートフォリオ品目のリストを表示します。

トラッキングしないロットを作成する

トラッキングしないロットを作成するには：

- 1 ポートフォリオ品目を表示します (ナビゲーションバーの [ポートフォリオ管理/ポートフォリオ品目] リンク)。
- 2 [新規作成] をクリックします。
この新しいレコードにはコードが割り当てられます。
- 3 [モデル] フィールドでモデルを選択します。
- 4 トラッキングしないロットに含まれる数量を指定します。
ロットを定義するために、ロットで使用する基準単位を選択します (▶ロットで使用する単位 [献 30])。
- 5 [作成] をクリックして、作成を確定します。

- 必要に応じて、ロットに関するコンテキスト情報を各タブのページに入力します（▶ポートフォリオ品目のコンテキスト情報を指定する [献 47]）。

消耗品

「消耗品」とは、一旦資産に関連付けると、その関連付けが解除できないポートフォリオ品目を指します。「消耗品」は、管理条件が**【個別管理しない】**に指定されている属性を基に作成されます。また、属性の動作オプションを**【消耗品】**に指定する必要があります。（▶管理条件 [献 24]）

- ▶資産にポートフォリオ品目を関連付ける [献 34]

トラッキングしないロットを分割する

トラッキングしないロットを分割するには：

- ポートフォリオ品目のリストを表示します。
- 分割するロットを選択します。
- 【分割】** をクリックします。
- 【ロットの分割】** ウィザードの画面が表示されます。

抽出数	1
割当	使用中
ユーザ	安西 博子
責任者	木村 敦子
在庫	大阪事務所の在庫
場所	/札幌事務所/ビル02/2階/
親しコード	1 Compaq Deskpro 4000S (DKTC)

- 【抽出数】** フィールドに新しいロットに含める数量を入力します。
- 新しいロットに関する情報を入力します（場所、ユーザ、責任者など）
- 【完了】** をクリックします。

【ポートフォリオ品目】テーブルでは、元のロットの数量が新しいロットの数量分減少しているはずですが、また同じテーブルに新しいロットのレコードが作成されています。

トラッキングしないロットをトラッキングするロットに変える

トラッキングしないロットをトラッキングするロットに変更する必要があるかもしれませんが。例えば、複数のプロジェクトに、複数の見本市で使用する機のロットをリンクすると仮定します。この場合、このロットに対応するレコードを「資産」テーブルに作成します。

トラッキングしないロットを変換するには：

- 1 ポートフォリオ品目のリストを表示します。
- 2 トラッキングしないロットを選択します。
- 3 「タグ」をクリックします。

この結果、ロットに対応するレコードが「資産」テーブルに作成され、これに資産タグが割り当てられます。資産タグは、「資産」テーブルのレコードのみに割り当てられる識別用の情報です。

資産に関する財務情報のトラッキング

資産に関する財務情報のトラッキングでは、次の情報が記録されます。

- 資産の取得方法
どの方法（購入、リースまたはローン）でメールサーバを取得したか？
- 資産に関連する経費
部署Aのコピー機のために50リームのコピー用紙を含むロットを何度注文したか？
- 固定資産の詳細情報
どの減価償却方法を社用車に適用するか？

財務情報をトラッキング（表示、編集）するには、資産のリストを表示し、次の3つのタブの1つを選択します。

- 「取得」 (Acquisition)
- 「コスト」
- 「固定資産」



注意:

ここで指す「資産」は、「資産」テーブルに登録されている資産とロットの両方を総称的に意味します。

資産の取得

「取得」タブページでは、主に資産の取得に関する情報が表示され、このタブページの情報の大半は、サブタブページに分類されています。

取得方法

Asset Managerでは、資産の4つの取得方法を管理できます。

- 購入
- レンタル
- リース
- ローン

選択した取得方法に応じて、次の表示情報が変わります。

- 資産の詳細画面にある特定のタブページ
- [取得] タブページの特定のフィールド
- [取得] タブページの特定のサブタブページ

デフォルトの[取得方法] (SQL名: seAcquMethod) は、[購入] です。他には、[レンタル]、[リース]、[ローン] が選択できます。

資産の取得に関連する契約

選択した取得方法に関係なく、[調達] サブタブページで契約を取得に関連付けることができます。選択した契約は、資産の詳細画面の[契約] タブページに表示されます。



警告:

契約の選択を確定すると、資産の[取得方法] (SQL名: seAcquMethod) が、契約の詳細画面の[全般] タブページにある[取得方法] (SQL名: seAcquMethod) フィールドで指定したファイナンス情報を表示するように自動的に変更されます。

資産またはロットの取得に関連する会社

[調達] サブタブページでは、次のことを選択できます。

- レンタルまたはリース資産の場合は[貸主コード] (SQL名: LessorCode)
- ローン資産の場合は[貸主]

賃貸料に関する追加情報用のサブタブページ

選択した取得方法に関係なく、[取得] タブページに賃貸料情報用のサブタブページを追加できます。サブタブのラベル部分をマウスの右ボタンでクリックして、ポップアップメニューから[リンクレコードの追加]を選択します。


ここでは、幅広い意味で賃貸料という用語を使います。例えば、保険手数料、メンテナンス契約の支払いなど、定期的に支払う金額と考えます。

これらのサブタブページは、リース賃貸料の情報を入力するサブタブページと似ています。

資産のコスト

資産の詳細画面の【コスト】タブページには、資産に関連する経費明細のリストが表示されます。

専用フィルタが、リストの上部に表示されます。

フィルタで経費明細を検索した後に  ボタンを使うと、リストに表示されている経費明細のコストの合計を計算できます。

固定資産を定義する

このセクションでは、次の事項について説明します。

- 固定資産の詳細情報を入力する
- 固定資産の会計情報を資産と関連付ける

固定資産の詳細情報を入力する

資産の減価償却の詳細情報を入力および計算する

資産の減価償却に関する情報は、資産の詳細画面の【固定資産】タブページにあります。

このタブページは、【取得】タブの【取得方法】（SQL名：seAcquMethod）フィールドが【購入】に設定されている場合のみ表示されます。

このタブページには、2種類の情報が表示されます。



- 画面左側には、資産の減価償却と残存価額の計算に使うフィールドとリンクが表示されます。
- 画面右側のリストには、資産をAsset Managerにインポートした後に、資産に関連付けられた【固定資産】（SQL名：amFixedAsset）テーブルのレコードが表示されます。

減価償却の計算式は、【減価償却の計算式】（SQL名：amDeprScheme）テーブルで定義します。

資産に適用する減価償却の計算方法は、【減価償却方法】（SQL名：DeprScheme）フィールド（リンク）を使って選択します。

減価償却の計算式を定義する

減価償却の計算式を定義するには：

- 資産の詳細画面で次の操作を行います。
 - 1 【固定資産】タブページを表示します。
 - 2 【減価償却方法】（DeprScheme）フィールドの右側の  ボタン（Windowsクライアントの場合）、または  ボタン（Webクライアントの場合）をクリックします。
- 【管理／画面一覧】メニューを選択します。

**注意:**

この操作は、Windowsクライアントでのみ実行できます。

- 1 [減価償却方法のリスト] (SQL名: amDeprScheme) を選択します。
- 2 [新規作成] をクリックします。
- 3 [全般] タブページに入力します。
- 4 [スクリプト] タブページで計算スクリプトを作成します。

スクリプトには、次のフィールドを使って減価償却値を計算するように指定します。

- [減価償却の計算式] テーブル
 - [期間] (SQL名: tsDeprDur) フィールド
 - [係数] (SQL名: fCoeff) フィールド
 - [償却率] (SQL名: pRate) フィールド
- [資産] (SQL名: amAsset) テーブル
 - [開始日] (SQL名: dStartAcqu) フィールド
 - [減価償却基準] (SQL名: mDeprBasis) フィールド
 - [見積日] (SQL名: dDeprRecalc) フィールド

計算された結果によって、[減価償却] (SQL名: mDeprVal) フィールドの値が変わります。

**注意:**

[残存価額] (SQL名: mNetValue) フィールドは、[減価償却基準] フィールドまたは[減価償却] フィールド、あるいはその両方が変更されるとAsset Managerにより自動的に再計算されます。

定額法による減価償却の単純な計算スクリプトの例を示します。

```
Dim iNbOfDays As Integer
iNbOfDays = amDateDiff([dDeprRecalc],[dStartAcqu])
If (iNbOfDays <= 0) Or ([DeprScheme.tsDeprDur] <= 0) Then
Set [mDeprVal] = 0
ElseIf (iNbOfDays >= [DeprScheme.tsDeprDur]) Then
Set [mDeprVal] = [mDeprBasis]
Else
Set [mDeprVal] = [mDeprBasis] * iNbOfDays / [DeprScheme.tsDeprDur]
End If
Set [dDeprRecalc] = amDate -> Set [dDeprRecalc] = amDate()
```

[減価償却] フィールドの値は、参照フィールドが変更されると、Asset Managerの自動処理機能によって自動的に再計算されます。

複数の資産の減価償却を見積る

選択した複数の資産の [減価償却] フィールドの値を同じ日付で計算して更新するには、更新する資産を同時に選択した後で、 [見積日] フィールドの値を変更します。

この処理を実行する [スクリプト] [タイプ] のアクション (SQL名: seActionType) を作成することもできます。次のようなスクリプトを使います。

```
Set [dDeprRecalc] = amDate
```

[減価償却] フィールドの値は、Asset Managerのデフォルトの自動処理機能によって更新されます。

複数の資産に対して、定期的に上記のアクションをトリガするワークフローを作成することもできます。

固定資産の会計情報を資産と関連付ける

次の2つの方法があります。

資産の詳細画面で設定

- 1 [固定資産] タブページを表示します。
- 2 資産に関連する固定資産を追加または削除します。
または、別のウィンドウで固定資産のリストを表示して、資産に関連させる固定資産を選択し、資産の [固定資産] タブページのリストにドラッグして追加することもできます。

固定資産の詳細画面で設定

- 1 [資産] タブページを表示します。
- 2 資産に関連する固定資産を追加または削除します。
または、別のウィンドウで資産のリストを表示して、固定資産に関連させる資産を選択し、固定資産の [資産] タブページのリストにドラッグして追加することもできます。

ポートフォリオ品目の移動

[ポートフォリオ品目] テーブルを使って、ポートフォリオ品目の移動を管理できます。

Asset Managerでは、各ポートフォリオ品目のコンテキスト情報を変更できます。また、他のテーブルで情報を変更すると、この変更事項は、[ポートフォリオ品目] テーブルに自動的に適用されます。例えば、コピー機Aが部署Bに割り当てられたと仮定します。[ポートフォリオ品目] テーブルでこのコピー機のレコードを表示すると、この場所変更を把握することができます。また、[ポート

フォリオ品目] テーブルでは、納品待ちの注文品をどの従業員が予約しているかもわかります。

[ポートフォリオ品目] テーブルでは、ポートフォリオ品目の移動を管理するために、特に以下の2つのタブページを使用します。

- [全般] タブページでは、ポートフォリオ品目の移動をトラッキングします。
- [予約] タブページでは、未割り当てのポートフォリオ品目を予約できます。

ポートフォリオ品目のコンテキスト情報を指定する

[ポートフォリオ品目] テーブルにある [全般] タブページのフィールドに入力すると、ポートフォリオ品目のコンテキスト情報を指定できます。以下のコンテキスト情報を入力できます。

- 割り当て
- 使用開始日と棚卸日
- ユーザ
- 責任者
- 設置場所（未割り当てのポートフォリオ品目の場合は在庫場所）
- コストセンタ

デフォルトで使用されるコンテキスト情報では不十分であると判断する場合は、新しいフィールドや任意管理項目を追加できます。任意管理項目の追加に関しては、Asset Managerの『主要テーブル』ガイドの「任意管理項目の使用方法」の章、および『管理』ガイドの「データベースのカスタマイズ」の章を参照してください。

[ポートフォリオ品目] テーブルでは、ロットを分割することができます。[ロットを分割 [献 38]] ウィザードを使って、ロットに新しい場所、部署、コストセンタなどを指定できます。[ロットを分割 [献 38]] ウィザードを使って作成したロットは、[資産] テーブルの同じレコードにリンクされたままになります。この結果、異なるコンテキスト情報を持つ複数の品目をまとめてトラッキングできます。

▶ ロット [献 36]

ポートフォリオ品目を予約する

ポートフォリオ品目を予約できるのは、ポートフォリオ品目の詳細画面の [全般] タブページにある [割り当て] (SQL名: seAssignment) フィールドが、[在庫中] または [納品待ち] に設定されている場合だけです。

ポートフォリオ品目は、次のいくつかの方法で予約できます。

ポートフォリオ品目の詳細画面で設定

ポートフォリオ品目を予約するには：



- 1 ポートフォリオ品目を表示します（ナビゲーションバーの【ポートフォリオ管理/ポートフォリオ品目】リンク）。
 - 2 選択されたポートフォリオ品目の依頼明細を入力します。
 - 3 予約する資産の詳細画面の【予約】タブページを表示します。
 - 4 予約の開始および終了日と、予約する人を指定します。
- 予約を削除するには、【割り当て】フィールドの値を変更するか、予約に関連するフィールドの値を削除します。

購入依頼の詳細画面で設定


購入依頼には、次のポートフォリオ品目を指定できます。

- 【ポートフォリオ品目】テーブルにまだ存在しない、発注予定のポートフォリオ品目
- 購入依頼を介して予約されるポートフォリオ品目。これらのポートフォリオ品目は既に【ポートフォリオ品目】テーブルに作成されており、上で定義した条件を満たしたものです。

購入依頼からポートフォリオ品目を予約するには：

- 1 購入依頼の詳細画面を表示します。
- 2 【明細】タブをクリックして、依頼内容の明細を表示します。
- 3 【予約】タブを選択します。
- 4  をクリックします。
- 5 表示されるウィンドウには、【割り当て】（SQL名：seAssignment）フィールドが【在庫中】または【納品待ち】に設定されているポートフォリオ品目が表示されます。
- 6 条件を満たすポートフォリオ品目が既にデータベース内にある場合は、そのポートフォリオ品目を選択してから【選択】ボタンをクリックして予約します。希望するポートフォリオ品目がない場合は、【新規作成】ボタンをクリックして新しいポートフォリオ品目を作成します。作成するポートフォリオ品目の【割り当て】フィールドには、【在庫中】または【納品待ち】が表示されます。必要なフィールドに情報を入力してから、【追加】ボタンをクリックしてポートフォリオ品目を作成し、次に【選択】ボタンをクリックしてそのポートフォリオ品目を予約します。
- 7 依頼の明細の詳細画面で【変更】をクリックして、予約を確定します。
- 8 必要に応じて、依頼の明細の詳細画面の【予約】タブページで  ボタンをクリックし、ポートフォリオ品目の詳細画面の【全般】タブページにある【予約終了日】（SQL名：dReservEnd）フィールドに値を入力します。

依頼から作成したポートフォリオ品目の予約を削除するには：

- 1 依頼の明細の詳細画面の【予約】タブページで予約するポートフォリオ品目を選択します。
- 2  をクリックして、予約するポートフォリオ品目を削除します。

在庫管理への影響

ポートフォリオ品目を予約すると、このポートフォリオ品目の在庫管理に影響します。予約したポートフォリオ品目は、在庫としてカウントされなくなります（▶ 在庫規則の作成 [献 52]）。

注意:

予約したポートフォリオ品目の割り当て先の在庫は、ポートフォリオ品目の詳細画面の [全般] タブページにある [在庫]（SQL名：Stock）フィールドに示されます。

ポートフォリオ品目の寿命を管理する

ポートフォリオ品目が使われなくなった場合（処分、廃棄、盗難、売却など）は、データベースで各ポートフォリオ品目のステータスを現状に合わせて変更し、そのままデータベースに残しておくで便利です。

ポートフォリオ品目の寿命を管理するには：

- 1 使わなくなったポートフォリオ品目を選択します。
- 2 [全般] タブページにある [割り当て]（SQL名：seAssignment）フィールドを [除却済（または消費済）] に設定します。
- 3 必要に応じて、[親レコード]（SQL名：Parent）フィールドのテキストを削除して、親資産からこのポートフォリオ品目を切り離します。
- 4 必要に応じて、[固定資産]、[契約]、[メンテナンス]、[取得]、[接続]、および [プロジェクト] タブページの情報も更新します。

注意:

あるポートフォリオ品目のレコードを削除すると、そのポートフォリオ品目に関する情報はすべて失われます。このため、使用期間が終了しても、情報（減価償却、履歴、メンテナンスなど）を保存する必要があるポートフォリオ品目は、ステータスを「除却済」に変更することをお勧めします。

ポートフォリオ品目をサプライヤに返却する

ポートフォリオ品目の配達を受領したものの、問題がある場合（例えば、ポートフォリオ品目が損傷している場合）には、次の手順に従います。

- 1 問題のポートフォリオ品目を選択します。
- 2 [割り当て]（SQL名：seAssignment）フィールドを [サプライヤに返却] に設定します。

このステータスは一時的（ポートフォリオ品目の処理方法が一時的に不明）です。

- ポートフォリオ品目が修理済みで回収済みの場合：【割り当て】フィールドを【使用中】に設定します。
ポートフォリオ品目の識別子（【資産タグ】フィールド）に変更はありません。
- ポートフォリオ品目が別のポートフォリオ品目に置き換えられた場合：【割り当て】フィールドを【除却済（または消費済）】に設定し、新しいポートフォリオ品目を（新しい識別子で）作成します。
- ポートフォリオ品目がサプライヤに返却される場合：【割り当て】フィールドを【除却済（または消費済）】に設定します。

ポートフォリオ品目を一時的に業者に委託する

ポートフォリオ品目が、修理、予防整備または更新のために一時的に業者に委託される場合には、次の手順に従います。

- 1 問題のポートフォリオを選択します。
- 2 【割り当て】（SQL名：seAssignment）フィールドを【メンテナンスのため返却】に設定します。

そのポートフォリオ品目は、後日ポートフォリオに戻す必要があります。

ポートフォリオ品目を紛失に設定する

ポートフォリオ品目が見つからない場合には、次の手順に従います。

- 1 問題のポートフォリオを選択します。
- 2 【割り当て】（SQL名：seAssignment）フィールドを【紛失】に設定します。

ソフトウェアのインストールで、その【棚卸日】（dtInvent）フィールドの値が、コンピュータの【前回のソフトウェアスキャン】（dtSoftScan）フィールドの値よりも過去の場合に、この値を選択することを推奨します。

資産を契約に関連付ける

資産を1つ、または複数の契約に関連付けることができます。

資産の詳細画面の【契約】タブページと【取得】タブページに、資産に関連付けられている契約のリストが表示されます。

注意:

ここで指す「資産」は、【資産】テーブルに登録されている資産とロットの両方を総称的に意味します。

[契約] タブページ

資産の詳細画面の [契約] タブページには、資産に関連する契約のリストが表示されます。

専用フィルタは、タブページの上部に表示されます。

このフィルタを使うと、以下の3条件に応じて契約を表示できます。

- フィルタ [すべて] は、すべての契約を表示します。
- フィルタ [有効] は、一定の期間で有効な契約を表示します。
- フィルタ [失効] は、有効期限の切れた契約を表示します。

関連契約は、属性、会社、開始日、終了日、資産の追加日別に表示／分類されています。

契約を追加する時、または契約明細を表示する時、契約明細の詳細画面が開きます。

- 希望する契約を選択してから、契約に資産を追加した日付と削除予定日を指定します。
- [権限] と [使用権利数] フィールドにも必要に応じて値を入力します。

[取得] タブページ

契約内容に応じて資産を取得できます。

資産の詳細画面の [取得] タブページでは、次のいずれかの方法で取得した資産に契約を関連付けることができます。

- 購入
- レンタル
- リース
- ローン

取得方法に応じて表示されるサブタブページを使って、取得契約の詳細を指定できます。

資産に関連する契約の作成と管理に関する詳細については、『契約』ガイドを参照してください。

在庫

在庫には、在庫に入っているポートフォリオ品目および納品待ちのポートフォリオ品目が含まれます。

ポートフォリオ品目の詳細画面で、[全般] タブページに [割り当て] (SQL名: seAssignment) フィールドが [在庫中] または [納品待ち] に設定されています。たとえば、最近購入したポートフォリオ品目で、ユーザにはまだ割り当

てられていないポートフォリオ品目。これらのポートフォリオ品目は、在庫の詳細画面の【ポートフォリオ】タブページに表示されます。

Asset Managerでは、自動購入依頼をトリガする規則を在庫に関連付けて、在庫を補充することができます。再発注レベルは、Asset Manager Serverがモニタします。



警告:

使用するモニタ機能を有効にするには、クライアントまたはサーバのコンピュータでAsset Manager Automated Process Managerを稼動している必要があります。

Asset Managerで作成できる在庫数に制限はありません。

在庫テーブルを表示するには、ナビゲーションバーの【ポートフォリオ管理／拡張ポートフォリオ／在庫】リンクをクリックします。


在庫規則の作成

Asset Managerでは、在庫に自動購入依頼をトリガする規則を関連付けて、消費されるポートフォリオ品目の在庫を補充することができます。

これらの規則は、在庫の詳細画面の【管理】タブページで定義します。それぞれの規則にはモデルが関連付けられており、そのモデルを基にするポートフォリオ品目の在庫が一定数を下回ると、自動的に再発注されます。

各在庫明細の再発注状況は、Asset Manager Automated Process Managerがモニタします。

在庫規則を作成するには：

- 1 【管理】タブをクリックします。
- 2  をクリックします。
- 3 【規則の定義】画面が表示されます。
- 4 在庫規則の適用対象となるポートフォリオ品目のモデルを指定します（例：プリンタのインクカートリッジ）。
- 5 【発注点】フィールドで、購入依頼の作成をトリガする在庫数の下限を指定します（例：5）。
- 6 【発注数】フィールドには、上記の下限を下回ったときに発注するポートフォリオ品目の数量を指定します。

ポートフォリオ品目が資産またはロットの場合、Asset Manager Automated Process Managerは購入依頼（【数量】フィールドの値=5）を作成します。この購入依頼から発注した品物を受領すると、以下が処理されます。

- 資産の場合、【ポートフォリオ品目】テーブルにレコード5が作成されます。
- ロットの場合、【ポートフォリオ品目】テーブルにインクカートリッジ5個を含むロットのレコードが1つ作成されます。

各モデルの在庫は、次のようにして自動的に管理されます。

- 1 在庫の詳細画面の【ポートフォリオ】タブページの情報を元に、Asset Manager Automated Process Managerが現在の在庫数を計算します。
ロットに対応するポートフォリオ品目の場合、Asset Manager Automated Process Managerはロットに含まれる【数量】（フィールド）の値を確認します。
- 2 現在の在庫数が、在庫規則の詳細画面の【発注点】（SQL名：IReordLevel）フィールドで指定した数量を下回ると、Asset Manager Automated Process Managerは購入依頼を自動的に作成します。
- 3 依頼した全数量が受領されない間、Asset Manager Serverは依頼元の在庫規則をチェックしないため、新しい依頼は作成されません。
- 4 全依頼数が受領されると、Asset Manager Serverは次の処理を実行します。
 - 在庫数を再調整します。
 - 在庫規則の詳細画面の【依頼明細】（SQL名：ReqLine）フィールドの内容を消去します。
 - 在庫規則を再度有効にします。

注意:

在庫テーブルの数量をチェックする頻度を定義するには、Asset Manager Automated Process Managerを使います。

現在の在庫数の計算方法

特定のモデルの在庫規則をチェックし、実際に使用できる在庫数を割り出すために、Asset Manager Automated Process Managerは、在庫の詳細画面の【ポートフォリオ】タブページにある同モデルを基にしたポートフォリオ品目の数を計算します。

未予約のポートフォリオ品目のみが数えられます。

再発注依頼を作成する

必要に応じて、Asset Manager Automated Process Managerが、次の情報を元に各在庫規則に従って再発注依頼を作成します。

- 在庫の詳細画面の【自動依頼】タブページで定義されている購入依頼の詳細
- 購入依頼時の再発注数（在庫規則の詳細画面の【発注数】（SQL名：IQtyToOrder）フィールド）

この方法で在庫数をモニタした結果、自動的に作成された購入依頼の発注明細が受領されると、在庫数が調整されます。

在庫の管理プロセス

このセクションの内容は、次のとおりです。




- 在庫内のポートフォリオ品目のリスト
- ポートフォリオ品目を在庫に入庫する
- 在庫からポートフォリオ品目を出庫する

在庫内のポートフォリオ品目のリスト

在庫の詳細画面の【ポートフォリオ】タブページには、在庫内のすべてのポートフォリオ品目のリストが表示されます。

フィルタ

在庫のポートフォリオ品目のリストの上には、次の3つのフィルタが表示されません。

-  1番目のシンプルフィルタ
-  2番目のシンプルフィルタ
-  3番目のシンプルフィルタ

フィルタ間では、「AND」条件（SQLによる）が適用されます。

在庫のポートフォリオ品目のリストをツリー構造で表示する

在庫のポートフォリオ品目のリストをツリー構造で表示する場合は、次の点に注意してください。

- 在庫のポートフォリオ品目に従属ポートフォリオ品目が関連付けられていて、その従属ポートフォリオ品目が在庫にない場合は、従属ポートフォリオ品目は表示されません。
- 在庫のポートフォリオ品目が別のポートフォリオ品目の従属ポートフォリオ品目である場合は、その親ポートフォリオ品目も表示されます。ただしその親ポートフォリオ品目が在庫にない場合は、淡色で表示されます。

ポートフォリオ品目を在庫に入庫する


ポートフォリオ品目を在庫に入庫するには、次の方法があります。

ポートフォリオ品目の詳細画面で指定

ポートフォリオ品目の詳細画面の【全般】タブページで、次のように指定します。

- 1 【割り当て】（SQL名：seAssignment）フィールドを【在庫中】に設定します。
- 2 【在庫】（SQL名：Stock）フィールドで在庫名を選択します。

在庫の詳細画面で指定

在庫の詳細画面の【ポートフォリオ】タブページの  ボタンを使って、ポートフォリオ品目を追加します。

発注の詳細画面で指定

ポートフォリオ品目を作成する明細を使うと、在庫内にポートフォリオ品目を作成できます。手順は次のとおりです。

- 1 発注のテーブルで適切な発注を選択します（ナビゲーションバーの【調達／発注】リンク）。
- 2 ポートフォリオ品目を作成する発注明細の【購入】タブページの【配達先在庫】（SQL名：Stock）フィールドに、在庫名が表示されることを確認します。表示されない場合は、このフィールドに入力します。
- 3 納品待ちのポートフォリオ品目を作成するには、まず発注の【ステータス】フィールドの値が【承認済】または【発注済】であることを確認します。次に【作成】ボタンをクリックすると、ポートフォリオ品目が【ポートフォリオ品目】テーブルに作成されます。

このようにして作成したポートフォリオ品目の詳細情報は、次のようになります。

- ポートフォリオ品目の詳細画面の【全般】タブページ／【割り当て】フィールドは、【納品待ち】に設定されます。
- 【在庫】フィールド（ポートフォリオ品目の詳細画面の【全般】タブページ）には、ポートフォリオ品目の発注の明細の【購入】タブページ／【配達先在庫】フィールドで指定した在庫と同じ在庫名が表示されます。

在庫からポートフォリオ品目を出庫する

特定の在庫からポートフォリオ品目を出庫するには、次の方法があります。

ポートフォリオ品目の詳細画面で指定

ポートフォリオ品目の詳細画面の【予約】タブページで、次のように指定します。

- 1 ポートフォリオ品目のリストを「リストと詳細」モードで表示します。
- 2 在庫から出庫するすべての資産を選択します。
- 3 【割り当て】（SQL名：seAssignment）フィールドを【使用中】に設定します。
- 4 ポートフォリオ品目のユーザと責任者が、在庫から出庫するすべての資産に共通している場合は、ユーザを選択します。
- 5 設置場所が在庫から出庫するすべてのポートフォリオ品目に共通している場合は、複数のポートフォリオ品目を選択したまま必要に応じて設置場所のフィールドに指定します。

在庫の詳細画面で指定

- 1 在庫の詳細画面の【ポートフォリオ】タブページを選択します。
- 2 在庫から出庫するポートフォリオ品目をすべて選択します。
- 3 リストの右側にある ボタンを押します。ここでポートフォリオ品目を削除すると、ポートフォリオ品目の詳細画面の【割り当て】フィールドが【使用中】に設定されます。

または

- 1 在庫の詳細画面の【ポートフォリオ】タブページを選択します。
- 2 在庫から除去する品目それぞれの詳細を表示します。
- 3 各ポートフォリオ品目の詳細画面の【全般】タブページ／【割り当て】フィールドを【使用中】に設定します。
- 4 ポートフォリオ品目のユーザ、責任者、および設置場所を選択します。

3 ITポートフォリオ

Asset Managerは、ITポートフォリオの管理に最適です。Asset Managerでは、さまざまなフィールドやテーブルを使って、ITポートフォリオの各コンピュータ（コンピュータ、ワークステーション、ノートブックコンピュータ、サーバなど）を管理できます。

コンピュータ

コンピュータを管理するには、個別管理タイプの管理方法をお勧めします。この管理方法では、コンピュータのモデルで技術情報を定義できます。

個別管理タイプを選択する場合のみ、[ポートフォリオ品目] テーブル、[資産] テーブル、および [電話] テーブルの各々にレコードが作成されます (▶オーバーフローテーブル [献 18]) 。

コンピュータの属性を作成する

個別に管理するコンピュータの属性を作成するには：

- 1 属性を表示します (ナビゲーションバーの [ポートフォリオ管理/属性] リンク)。
- 2 [新規作成] をクリックします。
- 3 作成する属性の名前 (例：コンピュータ) とコード (例：コンピュータ) を入力します。

- 4 【作成】フィールドで【ポートフォリオ品目】を選択します。
- 5 【オーバーフローテーブル】フィールドで【コンピュータ】を選択します。
【コンピュータ】テーブルは、ソフトウェア配布ツールをAsset Managerと統合するのに使用されます。
- 6 【ソフトウェアをインストール】オプションと【接続可能】オプションを選択します。
- 7 【作成】をクリックして、作成を確定します。

コンピュータのモデルを作成する

コンピュータのモデルを作成するには、普通のモデルを作成する手順に従います（▶モデル [献 29]）。コンピュータに特有の属性を選択する必要があります（▶コンピュータの属性を作成する [献 57]）。

【ポートフォリオ品目】テーブルは【モデル】テーブルを基にして構成されるため、一般的なモデルをまず作成するようをお勧めします。例えば、モデル「**コンピュータ**」を作成し、その従属モデルとして「**デスクトップコンピュータ**」、「**ポータブルコンピュータ**」、「**サーバ**」を作成します。さらに、各従属モデルに属するモデルを作成し、これらのモデルを基にしてポートフォリオのコンピュータを作成します。

例：コンピュータのモデルを作成する

ここでは、以下の特性を持つコンピュータのモデルを作成します。

- HP VECTRA VL 800コンピュータ
- Intel(R) Pentium(R) 4 1.3 GHzプロセッサ
- 128 MB RDRAM
- 40GBのハードドライブ
- 3.5"、1.44MBのディスクドライブ
- DVD-ROM 12x/40x
- HPマルチメディアキーボード
- HPオプティカルマウス

このコンピュータのモデルを作成するには：

- 1 モデルを表示します（ナビゲーションバーの【ポートフォリオ管理／モデル】リンク）。
- 2 【新規作成】をクリックします。
- 3 【名前】フィールドに「**VECTRA VL 800**」と入力します。
- 4 【ブランド】フィールドに「**Hewlett-Packard**」と入力します。
- 5 【親モデル】フィールドで、「**デスクトップ**」を選択します。

- 6 **【全般】** タブページの **【属性】** フィールドで、コンピュータのモデルを作成するのに適した属性を選択します (▶ **コンピュータの属性を作成する** [献 57]) 。
- 7 **【ハードウェア】** タブページでコンピュータに関する情報を入力します。
 - **【CPU】** フィールドに「**プロセッサ**」と入力します。
 - **【CPU速度】** フィールドに「**1300**」と入力します (デフォルト単位はメガヘルツです) 。
 - **【メモリ】** フィールドに、「**128**」と入力します。
 - **【ディスク容量】** フィールドに「**40000**」と入力します。
- 8 **【作成】** をクリックして、作成を確定します。
- 9 上記の手順に従って、コンピュータのコンポーネント用のモデルを作成します。
 - ディスクドライブ
 - DVDドライブ
 - キーボード
 - マウス

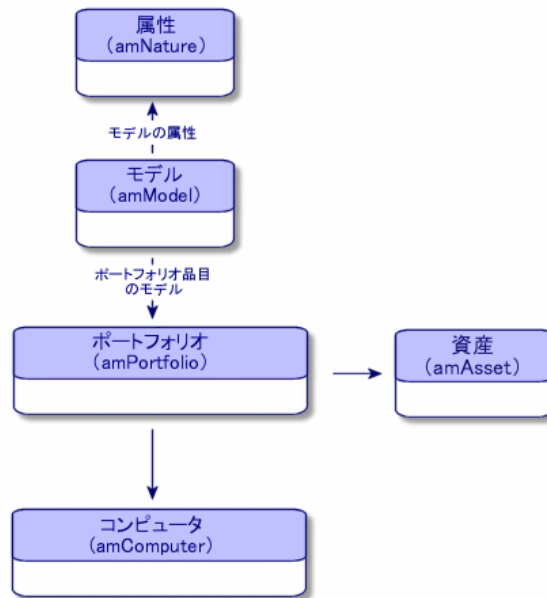
あるモデルを別のモデルに関連付けることはできません。ただし、コンピュータ「**VECTRA VL 800**」を作成した後に、コンポーネントのモデルを基にした資産を同コンピュータに関連付けることは可能です (▶ **資産にポートフォリオ品目を関連付ける** [献 34]) 。

コンピュータを手動で作成する

コンピュータは、以下の3つのテーブルに記録されます。

- **【ポートフォリオ品目】** (**amPortfolio**) テーブル
- **【資産とロット】** (**amAsset**) テーブル
- **【コンピュータ】** (**amComputer**) テーブル

以下の図は、コンピュータに関連するテーブルを示します。



コンピュータの作成方法は、資産の作成方法に類似しているため、詳しくは「資産を作成する [献 33]」のセクションを参照してください。ポートフォリオ品目をコンピュータに関連付ける方法については、「資産にポートフォリオ品目を関連付ける [献 35]」のセクションを参照してください。コンピュータに関連付けられる資産とは、周辺機器（キーボード、プリンタ、各種ドライブ）、ソフトウェアアプリケーション、消耗品を指します。

コンピュータを自動で作成する

コンピュータのポートフォリオのステータスを反映する最も効率的で信頼性の高い方法は、HP Discovery and Dependency Mapping Inventoryのような自動ネットワーク棚卸ツールを使用することです。

注意:

他の棚卸ツールも使用できます。必要な変更をHP Connect-Itシナリオに加えて、Asset Manager Automated Process Managerモジュールがその棚卸ソフトウェアと連動するようにします。

それらのツールは、ポートフォリオに存在するコンピュータを識別するのに使用します。棚卸されたコンピュータは、Asset Managerデータベースに移動できません。

HP Discovery and Dependency Mapping Inventoryを使用して、作成された棚卸データベースをインポートするよう環境設定する

- 1 HP Discovery and Dependency Mapping Inventoryを使ってソフトウェア棚卸を実行します。Asset Manager 5.2に付属のHP Connect-Itサポート一覧表で指定されたバージョンを使用します (www.hp.com/go/hpsupport を参照)。
- 2 Asset Manager 5.2で提供されるバージョンのHP Connect-Itをインストールします。
- 3 HP Connect-It scenario builderを起動します。
- 4 シナリオ「edac.scn」（HP Connect-Itインストール先フォルダの「scenario\ed\ed<HP Discovery and Dependency Mapping Inventoryバージョン番号>\ed<HP Discovery and Dependency Mapping Inventoryバージョン番号>ac<Asset Managerバージョン番号>」サブフォルダ内）を開きます（[File/Open]メニュー）。
例：「C:\Program Files\HP\Connect-It <バージョン番号> <言語>\scenario\ed\ed25ac52」。
- 5 [Enterprise Discovery] コネクタを設定します（シナリオ方式でコネクタを選択し、ショートカットメニューの [Configure connector...]）。
[Select a connection type] ウィザードページで、接続タイプを選択してから、ウィザード内の関連ページに入力します。
- 6 [Asset Management] コネクタを設定します（シナリオ方式でコネクタを選択し、ショートカットメニューの [Configure connector...]）。
設定ウィザードの [Define the connection parameters] ページを入力します。
- 7 変更内容を保存して、HP Connect-Itを終了します。
- 8 Asset Manager Automated Process Managerを開始します。
- 9 Asset Managerデータベースに接続します（[ファイル/データベースに接続]）。
- 10 モジュールを表示します（[ツール/モジュールの設定]メニュー）。
- 11 Enterprise Discovery棚卸結果を使用してデータベースを更新モジュール (EdAc)を選択します。
- 12 [有効] チェックボックスをオンにします。
- 13 [ユーザデータ] フィールドを次のように変更します。

```
"$connectit_exedir$/conitsvc.exe" -once -wpplog '$connectit_exedir$/scenario/ed/ed2ac$version$/edac.scn' -dc:'Asset Management.SERVER'=$cnx$
```

```
-dc:'Asset Management.LOGIN'=$login$ -dc:'Asset Management.TEXTPA  
SSWORD'=$pwd$
```

数値2をインストール済HP Discovery and Dependency Mapping Inventoryバージョン番号に置き換えてください。

- 14 **Enterprise Discovery**棚卸結果を使用してデータベースを更新モジュールの更新頻度を定義します（[検証スケジュール] フレーム）。
- 15 変更を保存します（[変更] ボタン）。
- 16 Asset Manager Automated Process Managerを終了します。

HP Discovery and Dependency Mapping Inventory棚卸データベースをインポートする

棚卸データベースをインポートする

Asset Manager Automated Process Managerは、適切なモジュールが動作中にバックグラウンドで実行すると、HP Discovery and Dependency Mapping Inventory棚卸データベースから情報を自動的にインポートします。

棚卸データベースからインポートされる情報

棚卸データベースには、棚卸されるすべてのコンピュータが含まれています。棚卸される各コンピュータには、コンポーネント（画面、プリンタなど）と識別済みソフトウェアが添付されています。

Asset Managerデータベースでのインポート結果

すべてのコンピュータ、コンピュータ上で識別されるコンピュータコンポーネントおよびソフトウェアに対してポートフォリオ品目が作成されます。

Asset ManagerでHP Discovery and Dependency Mapping Inventoryデータベースのコンピュータを表示する

コンピュータの詳細から、コンピュータのURLアドレスをクリックすると、ユーザはHP Discovery and Dependency Mapping Inventoryデータベースにあるコンピュータの詳細を表示できます。

準備タスク

Internet ExplorerでHP Discovery and Dependency Mapping Inventoryデータベースにアクセスできるようにする

HP Discovery and Dependency Mapping Inventoryデータベースのコンピュータの詳細を表示するユーザは、Internet ExplorerでHP Discovery and Dependency Mapping Inventoryデータベースにアクセスする必要があります。

データベースにポートフォリオ - 専門分野データをインポートする

統合が正しく機能するためには、ポートフォリオ - 専門分野データをインポートする必要があります。

データベース作成時の専門分野データのインポート

『管理』ガイドの「**Asset Manager**データベースの作成、変更、削除」、**「Asset Manager Application Designer**を使ってデータベース構造を作成する」の章に記述されている手順に従います。

[インポートするデータ] ページで、[ポートフォリオ - 専門分野データ] オプションを選択します。

専門分野データの既存データベースへのインポート

次の操作を行います。

- 1 **Asset Manager Application Designer**を実行します。
- 2 [ファイル/開く] メニューを選択します。
- 3 [データベース記述ファイルを開く (新規データベースの作成)] オプションを選択します。
- 4 「gbbase.xml」ファイルを選択します。このファイルは、**Asset Manager**のインストールフォルダの「config」サブフォルダにあります。
- 5 データベース作成ウィザードを開始します ([アクション/データベースの作成] メニュー)。
- 6 ウィザードのページに次のように入力します (ウィザードページ間の移動は [次へ] ボタン、[戻る] ボタンを使用します)。

[SQLスクリプトの生成/データベースの作成] ページ：

フィールド	値
データベース	専門分野データのインポート先にするデータベースへの接続を選択します。
作成	専門分野データをインポートします。
高度な作成オプションを使用	このオプションは選択しないでください。

[作成パラメータ] ページ：

フィールド	値
パスワード	管理者のパスワードを入力します。
	<p>注意:</p> <p>Asset Managerデータベース管理者は、[名前] (Name) フィールドがAdminに設定された [従業員と部署] (amEmplDept) テーブル内のレコードです。</p> <p>データベース接続ログインは [ログイン] (UserLogin) フィールドに格納されます。管理者名は「Admin」です。</p> <p>パスワードは [パスワード] フィールド (LoginPassword) に保存されます。</p>

[インポートするデータ] ページ:

フィールド	値
使用可能データ	[ポートフォリオ - 専門分野データ] オプションを選択します
エラー発生時にインポートを中止	問題が発生した場合にインポートを中止するには、このオプションを選択します。
ログファイル	エラーや警告などすべてのインポート操作を記録するファイルの完全名。

- 7 ウィザードを使用して定義されたオプションを実行します（[完了] ボタン）。

HP Discovery and Dependency Mapping Inventory WebクライアントのURLアドレスを宣言する

- 1 Asset Manager WindowsクライアントまたはWebクライアントを起動します。
- 2 [アプリケーションサーバのURLアドレスの編集...] ウィザード (BstBackEndOpt) を起動します (ナビゲーションバーの [管理/アプリケーションサーバのURLアドレスの編集...] リンク)。
- 3 次のようにウィザードに入力します。

フィールド	値
[アプリケーションサーバのプロパティの追加/変更] ページ	
追加するアプリケーションサーバ名	ページの下部分で、[アプリケーション] 列が「 ED 」に等しいラインが存在しない場合には、フィールドに値「 ED 」を入力して [アプリケーションサーバの追加] をクリックしてください。

フィールド	値
アプリケーションのリスト、 [アプリケーション] 列が「ED」に等しいライン、 [サーバのURLアドレス] 列	http または https://<HP Discovery and Dependency Mapping Inventory サーバ名>:<HP Discovery and Dependency Mapping Inventoryの使用するポート>
[概要] ページ	ページの内容を確認します。
[完了] をクリックします	
Windowsクライアント: [OK] をクリックします	

- 4 Windowsクライアント: データベースに再接続します ([ファイル/データベースに接続] メニュー) 。

Asset Managerデータベースでコンピュータを作成する

- 1 Asset Manager WindowsクライアントまたはWebクライアントを起動します。
- 2 コンピュータを表示します (ポートフォリオ管理/IT/IT機器/コンピュータメニュー) 。
- 3 コンピュータの詳細を、特に以下のフィールドとリンクに記入します。

フィールドまたはリンクの名前	フィールドまたはリンクのSQL名	値
[ネットワーク] タブ		
物理アドレス	PhysicalAddress	<p>HP Discovery and Dependency Mapping Inventoryデータベースのコンピュータ識別子。</p> <p>識別子の入力形式は、AB-CD-EF-GH-IJ-KLです。</p> <p>HP Discovery and Dependency Mapping Inventoryデータベースのコンピュータを検索するためには、識別子を入力する必要があります。</p>

Asset ManagerでHP Discovery and Dependency Mapping Inventoryデータベースのコンピュータを表示する

- 1 Asset Manager WindowsクライアントまたはWebクライアントを起動します。
- 2 コンピュータを表示します (ナビゲーションバーの [ポートフォリオ管理/IT/IT機器/コンピュータ] リンク) 。
- 3 HP Discovery and Dependency Mapping Inventory データベースで表示するコンピュータを選びます。
- 4 [ハードウェア] タブを表示します。
- 5 [**Enterprise Discoveryの詳細を表示**] メニューをクリックします。

Windowsクライアント：デフォルトのインターネットブラウザが起動し、**【Enterprise Discoveryの詳細を表示】**メニューに関連付けられているURLアドレスに対応するページが表示されます。

Webクライアント：**【Enterprise Discoveryの詳細を表示】**メニューに関連付けられているURLアドレスに対応するページがWebクライアントに表示されます。

動作の仕組み

Asset Managerは、特殊フィールド **【Enterprise Discovery】** (sysCoreWebED) を使用して、ラベルが **【Enterprise Discoveryの詳細を表示】** である**HREF**属性の**HTML<A>**アンカーを生成します。これが、連結によって生成されたURLアドレスを指し示します。

- テキスト文字列
- **【アプリケーションサーバのURLアドレスの編集...】** ウィザード (BstBackEndOpt) で定義したHP Discovery and Dependency Mapping InventoryのURLアドレス
- コンピュータの**【物理アドレス】** フィールド

【Enterprise Discoveryの詳細を表示】メニューをクリックすると、Asset ManagerはURLアドレスを処理します。

HP Service Managerデータベース中のコンピュータに関するインシデント、変更および問題を表示する

コンピュータの詳細から、HP Service Managerデータベース内の、コンピュータに対して宣言したインシデント、変更および問題のリストを表示できます。

準備タスク

Internet ExplorerでHP Service ManagerデータベースにアクセスできるようにするHP Service Managerデータベースにあるコンピュータの詳細を表示するユーザは、Internet ExplorerでHP Service Managerデータベースにアクセスする必要があります。

データベースにポートフォリオ - 専門分野データをインポートする

統合が正しく機能するためには、ポートフォリオ - 専門分野データをインポートする必要があります。

- ▶ データベースにポートフォリオ - 専門分野データをインポートする [献 63]

HP Service Manager WebクライアントのURLアドレスを宣言する

- 1 Asset Manager WindowsクライアントまたはWebクライアントを起動します。

- 2 [アプリケーションサーバのURLアドレスの編集...] ウィザード (BstBackEndOpt) を起動します (ナビゲーションバーの [管理/アプリケーションサーバのURLアドレスの編集...] リンク)。
- 3 次のようにウィザードに入力します。

フィールド	値
[アプリケーションサーバのプロパティの追加/変更] ページ	
追加するアプリケーションサーバ名	ページの下部分に [アプリケーション] 列が「HP Service Manager」に一致する行が存在しない場合は、フィールドに値「HP Service Manager」を入力して [アプリケーションサーバの追加] をクリックしてください。
アプリケーションのリスト、 [アプリケーション] 列が「HP Service Manager」に一致する行、 [サーバのURLアドレス] 列	http または https://<HP Service Managerサーバ名>:<HP Service Managerの使用するポート>
[概要] ページ	ページの内容を確認します。
[完了] をクリックします	
Windowsクライアント: [OK] をクリックします	

- 4 Windowsクライアント: データベースに再接続します ([ファイル/データベースに接続] メニュー)。

Asset ManagerとHP Service Managerデータベースでコンピュータを作成する

Asset Manager データベースで選択されたコンピュータが、HP Service Manager データベースで見つかるようにするには、以下のフィールドに対して同じ方法で識別されるようにする必要があります。

	テーブル	フィールド
Asset Manager	[コンピュータ] (amComputer) テーブル	名前 (Name)
HP Service Manager	computer	logical.name

Asset ManagerデータベースとHP Service Managerデータベースの間で照合更新を自動化するためには、Asset ManagerとHP Service Managerの間、またはスキャンツールとAsset Managerの間、および同じスキャンツールとHP Service Manager間で使われているHP Connect-Itの統合シナリオが使用できます。

Asset Manager Windowsクライアントで、HP Service Managerデータベースのコンピュータのインシデント、変更および問題を表示する。

- 1 Windowsクライアントを起動します。
- 2 コンピュータを表示します (ナビゲーションバーの [ポートフォリオ管理/IT/IT機器/コンピュータ] リンク)。

- 3 コンピュータの詳細画面を表示します。
- 4 次のいずれかのタスクを実行します。

目標	実行するアクション
HP Service Managerのインシデントの表示	次のいずれかのタスクを実行します。 <ul style="list-style-type: none"> ■ [HP Service Manager] ボタンをクリックします。 ■ 状況依存アクション（ショートカットメニューの[アクション]）から[HP Service Managerのインシデントの表示]を選択します。
HP Service Managerの変更の表示	状況依存アクション（ショートカットメニューの [アクション] ）から [HP Service Managerの変更の表示] を選択します。
HP Service Managerの問題の表示	状況依存アクション（ショートカットメニューの [アクション] ）から [HP Service Managerの問題の表示] を選択します。

Asset Manager Webクライアントで、HP Service Managerデータベース中のコンピュータに関するインシデント、変更および問題を表示する。

- 1 Webクライアントを起動します。
- 2 コンピュータのリストを表示します（ナビゲーションバーの**[ポートフォリオ管理/IT/IT機器/コンピュータ]**リンク）。
- 3 リストからコンピュータを選択します（左側の列のチェックボックス）。
- 4 次のいずれかのタスクを実行します。

目標	[状況依存アクション] リストから次の値を選択します。
HP Service Managerのインシデントの表示	HP Service Managerのインシデントの表示
HP Service Managerの変更の表示	HP Service Managerの変更の表示
HP Service Managerの問題の表示	HP Service Managerの問題の表示

動作の仕組み

URLアドレスを生成するために、Asset Managerは次の特殊フィールド（ナビゲーションバーの**[管理/システム/特殊フィールド]**リンク）を使用します。

- HP Service Managerの変更（sysCoreWebSCChanges）
- HP Service Managerの問題（sysCoreWebSCProblems）
- HP Service Managerのインシデント（sysCoreWebSCTickets）

HP Service Manager Webクライアントで適切なページを開くために、Asset Managerは次のアクション（ナビゲーションバーの【管理／アクション】リンク）を使用します。

- HP Service Managerの変更の表示（BstSCChanges）
- HP Service Managerの問題の表示（BstSCProblems）
- HP Service Managerのインシデントの表示（BstSCTickets）
- HP Service Managerのインシデントの表示（BstHP Service ManagerTickets）

これらのアクションは、特殊フィールドを用いて、表示するHP Service ManagerページのURLを取得します。

コンピュータの標準セット

コンピュータの標準セット（バンドル商品）には、CPU、基本周辺機器、基本ソフトウェアが含まれています。

必要に応じて、標準セットを個別の資産として管理するか、または標準セットの各コンポーネントを別々の資産として管理するかを選択できます。

標準セットを個別の資産として管理する

標準セットを個別の資産として管理するには、これに対応するモデルをまず作成します。次にこのモデルを基にして標準セットを作成します。そして最後に、標準セットに消耗品、ソフトウェア、周辺機器を関連付けます。

利点

標準セットを個別の資産として管理すると、入力作業を軽減できます。また、標準セットは、[資産] テーブルの1レコードのみに対応するので、財務情報のトラッキングに関連するコストを減少できます（減価償却、固有の取得価格、会計の簡素化など）。ただし、標準セットのあるコンポーネントを大幅に変更する場合には（削除、更新）、複雑な調整プロセスを実行しなければなりません。

標準セットのコンポーネントを関連資産として管理する

標準セットのコンポーネントを関連資産として管理するには、次の操作を実行します。

- 1 関連資産に対応するレコードを作成する（▶ [資産を作成する \[献 33\]](#)）。
- 2 標準セットのコンポーネントの中から、主要コンポーネントを選択する（例：CPU）。
- 3 主要コンポーネントにその他のコンポーネントを関連付ける（▶ [資産にポートフォリオ品目を関連付ける \[献 34\]](#)）。

利点

標準セットのコンポーネントを関連資産として管理すると、各コンポーネントを正確にトラッキングできます。キーボードを交換する場合、古いキーボードへのリンクを削除し、新しいキーボードへのリンクを作成します。

コンピュータ間の接続

Asset Managerでは、コンピュータ間の接続情報を指定できます。

Asset Managerで使う接続テンプレートでは、AとBの2台のコンピュータ間の一般的な接続情報を指定できます。このテンプレートをカスタマイズすると、すべての接続タイプ、特にクライアント/サーバタイプの情報を指定できます。「接続」の概念は、Asset Managerの次の画面で使われます。

- モデルの詳細画面（amModel）、または資産の詳細画面（amAsset）の【ポート】タブページ
- 接続タイプのリスト（amCnxType）

前提条件

接続情報は、資産の詳細画面の【ポート】タブページに入力されています。このタブページを表示するには、資産のモデルの属性の詳細画面で、【接続可能】オプションを選択する必要があります（▶ [属性における動作オプション \[献 24\]](#) および [属性 \[献 27\]](#)）。

注意:

コンピュータには任意の数のポートを設定でき、各ポートには固有の番号が付けられます。1つのポートで1つのコンピュータに接続できます。

ポート

コンピュータ間の接続はポートを使って行います。コンピュータAのポートとコンピュータBのポートが接続されたときに接続が有効になります。これは双方向の接続で、接続している両方のコンピュータの詳細画面の【ポート】タブページに接続状況が表示されます。このページで次の接続状況を確認できます。

- 使用中（別のコンピュータのポートまたは同じコンピュータの別のポートに接続している）。この場合は次のように表示されます。

<コンピュータ> <ポート番号> - <ポート番号> <コンピュータ>

例えば、コンピュータAとコンピュータBが接続されている場合は、それぞれの詳細画面に次のように表示されます。

- コンピュータAの接続状況

```
<コンピュータA> <コンピュータAが使用しているポート番号> - <コンピュータBが使用しているポート番号> <コンピュータB>
```

- コンピュータBの接続状況

```
<コンピュータB> <コンピュータBが使用しているポート番号> - <コンピュータAが使用しているポート番号> <コンピュータA>
```

- 空き（接続に使用できる）。この場合は次のように表示されます。

```
<コンピュータ> <ポート番号> -
```

接続を作成する

ここでは、2つのコンピュータ間の接続を作成する方法について、例を使って説明します。接続するコンピュータの片方をサーバ、もう片方をクライアントとして定義します。接続例の手順は、次のとおりです。

- 1 接続を作成する
- 2 接続するコンピュータを作成する
- 3 コンピュータ間の接続を作成する
- 4 接続に関する追加情報を提供する

接続を作成する

接続タイプを作成すると、次のフィールドで2つのタイプのポートの関係を定義します。

- **【タイプ】**（SQL名：Type）。ソースポートを指定します。
- **【ターゲットポートのタイプ】**（SQL名：TargetType）。ソースポートに接続するリモートポート（ターゲットポート）を指定します。

これは1方向の接続です。特定のポートでソースポートのタイプを選択すると、接続先ポート（ターゲットポート）のタイプも自動的に選択されます。先にターゲットポートのタイプを選択した場合は、接続先のコンピュータのソースポートのタイプは自動的に選択されません。このため、双方向の接続テンプレートを作成するには、2種類の対称接続を作成する必要があります。例えば、クライアント/サーバ接続の場合は次のようになります。

- 「クライアント」タイプから「サーバ」タイプへ
- 「サーバ」タイプから「クライアント」タイプへ

ここでは、双方向のクライアント/サーバ接続テンプレートを作成します。コンピュータAとコンピュータB間の接続の作成時にこのテンプレートを選択すると、自動的に次のように処理されます。

- コンピュータAのポートタイプが「クライアント」の場合は、接続先のコンピュータBのポートタイプが「サーバ」になる。

- コンピュータAのポートタイプが「サーバ」の場合は、接続先のコンピュータBのポートタイプが「クライアント」になる。

 **注意:**

この自動処理機能は、接続を直接作成した場合のみ起動されます。

接続タイプの画面を開く

接続タイプを表示します（ナビゲーションバーの【管理／接続タイプ】リンク）。

クライアント／サーバタイプの接続を作成する

次の手順に従って、クライアント／サーバタイプの接続を作成します。

- 1 【新規作成】をクリックします。
- 2 【ソースポートのタイプ】フィールドを「クライアント」に設定します。
- 3 【ターゲットポートのタイプ】フィールドを「サーバ」に設定します。
- 4 必要に応じて、【説明】（SQL名：memDescription）フィールドに説明を入力します。
- 5 【作成】をクリックして、作成を確定します。

サーバ／クライアントタイプの接続を作成する

次の手順に従って、サーバ／クライアントタイプの接続を作成します。

- 1 【新規作成】をクリックします。
- 2 【ソースポートのタイプ】フィールドを「サーバ」に設定します。
- 3 【ターゲットポートのタイプ】を「クライアント」に設定します。
- 4 必要に応じて、【説明】（SQL名：memDescription）フィールドに説明を入力します。
- 5 【作成】をクリックして、作成を確定します。

接続するコンピュータを作成する

手順1 - コンピュータのモデルを作成する

サーバのモデルとクライアントのモデルを作成する方法については、「例：コンピュータのモデルを作成する [献 58]」のセクションを参照してください。

コンピュータ2台の各モデルを作成する際に、【ポート】タブページのフィールドに入力します。ここで入力される値は、これらのモデルを基にして作成されるコンピュータにより継承されます。

次の表は、サーバのモデルとクライアントのモデルで入力する情報の例です。

サーバ	クライアント
<ul style="list-style-type: none"> ■ Sun Microsystems Sun Fire 15K ■ UltraSparc III 64-bit 900 MHz 	<ul style="list-style-type: none"> ■ HP VECTRA VL 800コンピュータ ■ Intel(R) Pentium(R) 4 1.3 GHzプロセッサ ■ 128 MB RDRAM ■ 40GBのハードドライブ

サーバのモデルとクライアントのモデルを作成したら、次に「資産」テーブルに2台のコンピュータを作成します（▶ 資産を作成する [献 33]）。

手順2 - 「資産」テーブルでコンピュータを作成する

資産を表示します（ナビゲーションバーの「ポートフォリオ管理/資産」リンク）。

前の手順で作成した2つのモデルをそれぞれ使って、2つの新規資産を作成します。「作成」をクリックして、これらの資産の作成を確定します。

コンピュータ間の接続を作成する

接続の作成方法


2つのコンピュータ間で接続を作成するには、次の2つの方法があります。

- まず該当する各コンピュータでポートを作成し、これらのポートをリンクして接続を作成する。接続の作成には、この方法をお勧めします。
- 2つのコンピュータの1台から直接接続を作成する。

ここでは、両方の方法で2つのコンピュータを接続してみます。

各コンピュータでポートを作成し、これらのポートをリンクする


資産のテーブルのレコードリストからコンピュータ「Sun Fire 15K」を選択し、資産の詳細画面の「ポート」タブをクリックします。次に、このコンピュータに空のポートを作成します。

- 1  ボタンをクリックします。コンピュータ「Sun Fire 15K」に接続ポートを追加するための画面が表示されます。
- 2 ここでは、空の「サーバ」タイプポートを作成するため、接続先のコンピュータとポートを指定する「接続先資産」（SQL名：TargetAsset）および「接続先ポート」（SQL名：TargetPorts）フィールドには何も入力しません。
- 3 「ポートタイプ」（SQL名：Type）フィールドを「サーバ」に設定します。
- 4 「作成」をクリックして、作成を確定します。
- 5 「ポート」タブページに、ポート情報が次のように表示されます。

1


コンピュータ「VECTRA VL 800」でも同じようにしてポートを作成します。

- 1 コンピュータ「VECTRA VL 800」を選択し、詳細画面の「ポート」タブをクリックします。

- 2  をクリックします。このコンピュータに接続ポートを作成するための画面が表示されます。
- 3 [ポートタイプ] フィールドを「クライアント」に設定し、他のフィールドは空欄のままにしておきます。
- 4 [作成] をクリックして、作成を確定します。
- 5 [ポート] タブページに、ポート情報が次のように表示されます。


1

あとは、これら2つのポートを接続するだけです。これはどちらのコンピュータで実行してもかまいません。

- 1 サーバ「**Sun Fire 15K**」を選択し、[ポート] タブをクリックします。
- 2 ポート「1」を選択し、 をクリックします。
- 3 [接続先資産] (SQL名: TargetAsset) フィールドでクライアント「**VECTRA VL 800**」を選択します。
- 4 [接続先ポート] フィールドでは、ドロップダウンリストでこのコンピュータのすべての空きポートを表示できます。



注意:

 ボタンをクリックして、表示されたポートのリストから直接ポートを選択することもできます。このリストからポートを選択すると、[接続先資産] (SQL名: TargetAsset) フィールドに自動的に接続先コンピュータが入力されます。

- 5 [変更] または [閉じる] をクリックします。
- 6 コンピュータ「**Sun Fire 15K**」の詳細画面に、接続状況が次のように表示されます。

1 - 1 (<接続先資産の資産タグ>)

コンピュータ「**VECTRA VL 800**」の詳細画面にも次のように表示され、2つのコンピュータが相互に接続されていることを確認できます。


1 - 1 (<接続先資産の資産タグ>)

- 7 これで接続が確立されました。


コンピュータに直接接続を作成する



注意:

前に作成したコンピュータを複製して接続を作成する場合は、複製したコンピュータの [ポート] タブページのエントリを削除する必要があります。削除するには、エントリを選択し、 ボタンをクリックします。



[資産] テーブルのレコードリストからコンピュータ「Sun Fire 15K」を選択し、その詳細画面の【ポート】タブをクリックします。次に、コンピュータ「Sun Fire 15K」への接続を作成します。

- 1  ボタンをクリックします。コンピュータ「Sun Fire 15K」に接続ポートを作成するための画面が表示されます。
- 2 【接続先資産】（SQL名：TargetAsset）フィールドを「VECTRA VL 800」に設定します。
- 3 【ポートタイプ】を「サーバ」に設定します。
- 4 【追加】をクリックします。

自動的に次のポートと接続が作成されます。

- コンピュータ「Sun Fire 15K」に「サーバ」タイプのポート
- コンピュータ「VECTRA VL 800」に「クライアント」タイプのポート
- これら2つのポート間の接続

接続に関する追加情報

Asset Managerでは、接続の詳細画面で接続に関する情報を追加できます。資産の詳細画面で、【ポート】タブをクリックして既存の接続を選択し、 ボタンをクリックします。接続の詳細画面が表示されます。【接続】（SQL名：Connection）フィールドを使って、追加情報を定義します。 ボタンをクリックすると、接続の詳細画面が表示されます。

注意:

接続の詳細画面のフィールドには、自動計算機能は関連付けられていません。この画面で値を指定しても、接続に関連する経費に経費明細が作成されることはありません。

接続を管理する

ここでは、接続の管理方法について説明します。内容は次のとおりです。

- 接続数を表示する
- 2つのコンピュータ間の接続を終了する
- 接続しているコンピュータを削除する
- 接続のポート割り当てを変更する

接続数を表示する

資産の詳細画面の【ポート】タブページには、コンピュータ資産の接続に関する基本的な情報が表示されます。【最大接続数】（SQL名：sMaxCnxCount）および【現在の接続数】（SQL名：sCnxCount）フィールドは、コンピュータの可能接続数と実際の接続数を示します。接続を追加または削除すると、Asset Managerにより【現在の接続数】（SQL名：sCnxCount）フィールドが更新されます。



注意:

【最大接続数】フィールドの値は、接続数を示します。このフィールドにより自動処理機能がトリガされることはありません。実際の接続数が最大接続数を超えても、接続を追加することができます。

2つのコンピュータ間の接続を削除する

接続を削除するには、次の手順に従います。

- 1 接続している2つのコンピュータ資産のどちらかの資産の詳細画面を表示します。
- 2 【ポート】タブをクリックし、削除する接続を選択します。☒ボタンをクリックします。
- 3 接続の詳細画面が表示されます。
- 4 【接続先資産】（SQL名：TargetAsset）または【接続先ポート】（SQL名：TargetPorts）フィールドのどちらかの値を消去し、【変更】をクリックします。2つのコンピュータ間の接続が終了します。その結果、次のようになります。
 - 追加の接続情報（【接続】（SQL名：Connection）フィールドで指定した情報）が消去されます。
 - 接続に使われていたポートが解放されます。



注意:

接続している片方のコンピュータの詳細画面の【ポート】タブページで☒ボタンをクリックすると、接続に使われているポート自体も削除されます。

接続しているコンピュータ資産を削除することによる影響

接続したコンピュータ資産を削除すると、Asset Managerにより次の処理が実行されます。

- コンピュータ資産に関連するすべての接続を削除する。
- コンピュータ資産のすべてのポートを削除する。
- 削除したコンピュータ資産に接続されていたすべてのコンピュータ資産のポートを解放する。

接続のポート割り当てを変更する

次の方法で、接続ポートの割り当てを変更できます。

- 完全にポートを解放します。解放されたポートは新しい接続に使用できます。
- ポートを別のポートに接続します。この場合は、元の接続先ポートが解放され、新しい接続に使用できるようになります。

モバイル機器

モバイル機器とは、携帯電話、PDAなどのコミュニケーション機器およびアクセサリのことです。

コンピュータ、モバイル機器などはポートフォリオ品目として格納されます。それらは [コンピュータ] テーブルに記録され、固有のフィールドを持っています。

ナビゲーションバーの [ポートフォリオ管理/IT/IT機器/コンピュータ/モバイル機器] リンクを通して、モバイル機器を表示できます。

モバイル機器は、サービスプロバイダ（例えば、電話事業者）とリンクさせることができます。

モバイル機器はさまざまな方法で管理できます。

- モバイル機器を手動で作成する [献 77]
- モバイル機器を自動的に作成する [献 81]

モバイル機器を手動で作成する

属性を作成する

モバイル機器属性が何も無い場合には、1つ以上を作成します。

- 1 属性を表示します（ナビゲーションバーの [ポートフォリオ管理/属性] リンク）。
- 2 属性を追加します。
特に、次のフィールドおよびリンクを入力します。

名前	SQL名	値
[全般] タブ		
作成	seBasis	ポートフォリオ品目
オーバーフローテーブル	OverflowTbl	[コンピュータ] (amComputer) テーブル
機器のタイプ	seComputerType	モバイル機器

ポートフォリオ品目に（そのモデルを通して）属性のタイプを関連付けることで、モバイル機器固有の情報をどのようにどの画面に表示するかを判断します。

属性を作成する方法については、▶ 属性 [献 27]を参照してください。

属性を手動で作成する代わりに、[ポートフォリオ - 専門分野] データがデータベースにインポートされた後であれば、その属性が使用できます。

[ポートフォリオ - 専門分野データ] をインポートする方法については▶ データベースにポートフォリオ - 専門分野データをインポートする [献 63]を参照してください。

専門分野データのインポートが完了すると、**【モバイル機器】**の属性が利用可能になります。

モバイル機器のモデルを作成する

ポートフォリオに追加されるモバイル機器を表すポートフォリオ品目を作成する際に必要なモデルを作成します。

モデルを作成する方法については、**▶モデル [献 29]**を参照してください。

モバイル機器のモデルを作成する手順は、他のモデルを作成する手順とまったく同じです (**▶モデル [献 29]**)。モデルを作成したら、モバイル機器の属性とリンクさせる必要があります (**▶属性を作成する [献 77]**)。

品目を分類するためにいくつかのモデルを作成することを推奨します。そして、ポートフォリオに追加されるモバイル機器モデルそれぞれについてモデルを作成して、分類モデルの1つとリンクさせます。

以下は、品目を分類するために使用するモデル階層の例です。

- モバイル機器
 - PDA
 - 携帯電話

手動でモデルを作成する代わりに、**【ポートフォリオ - 専門分野】**データがデータベースにインポートされた後であれば、そのモデルが使用できます。

【ポートフォリオ - 専門分野データ】をインポートする方法については、**▶データベースにポートフォリオ - 専門分野データをインポートする [献 63]**を参照してください。

専門分野データをインポートした後は、次のように分類されたモデル構造が利用できます。

- ITおよび通信
 - 通信デバイスおよびアクセサリ
 - **モバイル機器**
 - PDA
 - 携帯電話

ポートフォリオのモバイル機器に対応するモデルを、このモデル構造のモデルの1つとリンクさせることができます。

モバイル機器を作成する

- 1 モバイル機器を表示します (ナビゲーションバーの**【ポートフォリオ管理 / IT / IT機器 / モバイル機器】**リンク)。
- 2 モバイル機器を追加する。
モバイル機器モデルを選択して**【モデル】** (Model) リンクを入力します (**▶モバイル機器のモデルを作成する [献 78]**)。

次のフィールドおよびリンクは、モバイル機器に固有のもです。

名前	SQL名
モバイル機器のステータス	MDStatus
[ハードウェア] タブ	
ROM	IROMMb
外部RAM	IExternalRAMMb
[ネットワーク] タブ	
電話番号	PhoneNum
[サービスプロバイダ] タブ	
サービスプロバイダへのリンクを示します。モバイル機器のレコードから直接 [リソース] を更新することはできません。そのためには、 [クライアント-リソース関係] にアクセスする必要があります (▶ ビジネスサービスに従事するクライアントとリソースを作成する [献 102]) 。	

サービスプロバイダモデルを作成する

サービスプロバイダそれぞれについてモデルを作成する必要があります。このモデルは、サービスプロバイダを表すポートフォリオ品目を作成する場合に選択されます。

モデルのリンク先となる属性に関して特別な制約はありません。

サービスプロバイダを作成する

サービスプロバイダを作成するには：

- 1 ポートフォリオ品目を表示します (ナビゲーションバーの **[ポートフォリオ管理/ポートフォリオ品目]** リンク) 。
- 2 ポートフォリオ品目を追加します。

サービスプロバイダモデルを選択して **[モデル]** (**Model**) リンクを入力します (▶ **サービスプロバイダモデルを作成する [献 79]**) 。

クライアント-リソース関係のタイプを作成する

Asset Managerはクライアント-リソース関係を使用して、モバイル機器とサービスプロバイダの間に存在するリンクを表します。

クライアント-リソース関係を正確に記述するには、正しいクライアント-リソース関係のタイプ (例えば、**[キャリアのネットワークを使用]**) を使用する必要があります。

クライアント-リソース関係のタイプを作成するには：

- 1 クライアント-リソース関係のタイプを表示します (ナビゲーションバーの **[ポートフォリオ管理/ビジネスサービス/クライアント-リソース関係のタイプ]** リンク) 。
- 2 クライアント-リソース関係のタイプを追加します。

ビジネスサービスを詳細に管理するつもりでなければ、必須のフィールドを入力するだけで十分です (▶ **ビジネスサービス [献 99]**) 。

モバイル機器をサービスプロバイダにリンクする

モバイル機器をサービスプロバイダにリンクするには：

- 1 クライアント-リソース関係を表示します（ナビゲーションバーの【ポートフォリオ管理／ビジネスサービス／クライアント-リソース関係】リンク）。
- 2 クライアント-リソース関係を追加します。
特に、次のフィールドおよびリンクを入力します。

名前	SQL名	値
クライアント	クライアント	モバイル機器を選択
関係のタイプ	CRType	モバイル機器とサービスプロバイダの間に存在するクライアント-リソース関係のタイプを選択します
リソース	リソース	サービスプロバイダを選択

▶サービスプロバイダにリンクする方法の例については、実用例：モバイル機器を作成する [献 84]を参照してください。

モバイル機器に入っているソフトウェアのインストールモデルを作成する

モバイル機器で使われているソフトウェア（ウイルス対策ソフトウェア、GPSナビゲータなど）のインストールを表すポートフォリオ品目を作成する際に必要となるモデルを作成します。

モバイル機器に入っているソフトウェアのインストールモデルを作成する手順は、他のモデルを作成する手順とまったく同じです（▶モデル [献 29]）。

次の手順に従うことを推奨します。まず、【モバイル機器用ソフトウェア】モデルを作成し、ソフトウェアのインストール属性にリンクします。次に、モバイル機器に入っているソフトウェアアプリケーションそれぞれについてソフトウェアインストールのモデルを作成します。その後、それらのモデルを【モバイル機器用ソフトウェア】モデルへとリンクします。

モデル階層の例は次のとおりです。

- モバイル機器用ソフトウェア
 - Cyberon VoiceCommander
 - Google Maps
 - Norton Antivirus

ここで、【ソフトウェアのインストールまたは使用】（amSoftInstall）テーブルにレコードを作成できます（ナビゲーションバーの【ポートフォリオ管理／IT／ソフトウェアのインストール】リンク）。そして、それらをモデルにリンクすると同時に、ソフトウェアがインストールされたモバイル機器を【IT機器】（ParentPortfolio）フィールドで指定します。

 **注意:**

HP Discovery and Dependency Mapping Inventoryを使ってモバイル機器の棚卸をしており、それらのモバイル機器にソフトウェアがインストールされている場合、「edac-mobiledevices.scn」 HP Connect-Itシナリオ（▶ [モバイル機器を自動的に作成する \[献 81\]](#)）が自動的に [モバイル機器用ソフトウェア] モデルを作成します。

これにより、次のように分類されたモデル構造が利用できます。

- ITおよび通信
 - ソフトウェア
 - ソフトウェアのインストール
 - モバイル機器用ソフトウェア

モバイル機器に入っているソフトウェアのインストールに必要な親モデルは、「edac-mobiledevices.scn」 HP Connect-Itのシナリオ（▶ [モバイル機器を自動的に作成する \[献 81\]](#)）によって自動的に作成され、 [モバイル機器用ソフトウェア] モデルへとリンクされます。

HP Connect-Itでは、ポートフォリオ品目に自動的に関連付けられる [ソフトウェアのインストールまたは使用]（amSoftInstall）テーブルでレコードを作成および更新します。

モバイル機器を自動的に作成する

モバイル機器のポートフォリオのステータスを反映する最も効率的で信頼性の高い方法は、HP Discovery and Dependency Mapping Inventoryのような自動ネットワーク棚卸ツールを使用することです。

 **注意:**

他の棚卸ツールも使用できます。必要な変更をHP Connect-Itシナリオに加えて、Asset Manager Automated Process Managerモジュールがその棚卸ソフトウェアと連動するようにします。

それらのツールは、ポートフォリオに入っているモバイル機器およびそれらのデバイスにインストールされているソフトウェアを識別するために使われます。モバイル機器が棚卸されると、情報がAsset Managerデータベースへと転送されます。

前提条件

モバイル機器のデータをインポートする前に、 [ポートフォリオ - 専門分野] データをインポートします。

- ▶ データベースにポートフォリオ - 専門分野データをインポートする [献 63]

この手順は必ず実行してください。HP Connect-Itの「edac-mobiledevices.scn」シナリオには、[ポータフォリオ - 専門分野] データに含まれる属性およびモデルの情報が必要です。

インポートされた属性（[モバイル機器]）またはモデル（[モバイル機器]、[PDA] および[携帯電話]）は削除しないでください。

インポートされたモデルの、属性「コード」（Code）フィールドの値、または「バーコード」（BarCode）フィールドの値は変更しないでください。

下記で指定されたものと異なる属性およびモデルを作成する場合には、「edac-mobiledevices.scn」HP Connect-Itシナリオを修正する必要があります。

HP Discovery and Dependency Mapping Inventoryを使用して、作成された棚卸データベースをインポートするよう環境設定する

- 1 HP Discovery and Dependency Mapping Inventoryを使ってモバイル機器の棚卸を実行します。Asset Manager 5.2に付属のHP Connect-Itサポート一覧表で指定されたバージョンを使用します（www.hp.com/go/hpsupportを参照）。
- 2 Asset Manager 5.2で提供されるバージョンのHP Connect-Itをインストールします。
- 3 HP Connect-It scenario builderを起動します。
- 4 「edac-mobiledevices.scn」シナリオを開きます（[File/Open]メニュー）。

このシナリオは、HP Connect-Itインストール先フォルダの

「scenario\ed\ed<HP Discovery and Dependency Mapping Inventoryバージョン番号>\ed<HP Discovery and Dependency Mapping Inventoryバージョン番号>ac<Asset Managerバージョン番号>」サブフォルダにあります。

例：「C:\Program Files\HP\Connect-It<バージョン番号><言語>\scenario\ed\ed25\ed25ac52」。

- 5 [Enterprise Discovery] コネクタを設定します（シナリオ方式でコネクタを選択し、ショートカットメニューの[Configure connector...]）。
[Select a connection type] ウィザードページで、接続タイプを選択してから、ウィザード内の関連ページに入力します。
- 6 Asset Managerコネクタを設定します（シナリオ方式でコネクタを選択、ショートカットメニュー[Configure connector]）。
設定ウィザードの[Define the connection parameters] ページを入力します。
- 7 変更内容を保存して、HP Connect-Itを終了します。
- 8 Asset Manager Automated Process Managerを開始します。
- 9 Asset Managerデータベースに接続します（[ファイル/データベースに接続]）。
- 10 モジュールを表示します（[ツール/モジュールの設定]メニュー）。

- 11 **Enterprise Discovery** 棚卸結果を使用してデータベースにあるモバイル機器を更新モジュール(EdAcMD)を選択します。
- 12 [有効] オプションを選択します。
- 13 [ユーザデータ] フィールドを次のように変更します。

```
"$connectit_exedir$/conitsvc.exe" -once -wpplog '$connectit_exedir$/./scenario/ed/ed2ac$version$/edac-mobiledevices.scn' -dc:'Asset Management.SERVER'=$cnx$ -dc:'Asset Management.LOGIN'=$login$ -dc:'Asset Management.TEXTPASSWORD'=$pwd$
```

数値**2**を、ご使用のHP Discovery and Dependency Mapping Inventoryのバージョン番号に置き換えてください。

- 14 **Enterprise Discovery** 棚卸結果を使用してデータベースにあるすべてのモバイル機器を更新モジュールの更新頻度を定義します（[検証スケジュール] フレーム）。
- 15 変更を保存します（[変更] ボタン）。
- 16 Asset Manager Automated Process Managerを終了します。

HP Discovery and Dependency Mapping Inventory 棚卸データベースをインポートする

棚卸データベースをインポートする

Asset Manager Automated Process Managerは、適切なモジュールが動作中にバックグラウンドで実行すると、HP Discovery and Dependency Mapping Inventory 棚卸データベースから情報を自動的にインポートします。

HP Discovery and Dependency Mapping Inventory 棚卸データベースからインポートされる情報

インポートされる情報	Asset Managerの結果
モバイル機器	ポートフォリオ品目+モデル
サービスプロバイダ	ポートフォリオ品目+モデル
モバイル機器とサービスプロバイダ間のリンク	クライアント-リソース関係+クライアント-リソース関係のタイプ
モバイル機器で使われているソフトウェアのインストール	[ソフトウェアのインストール] (amSoftInstall) テーブルの、モデル+品目

Asset Managerデータベースでのインポート結果

存在しないポートフォリオ品目、モデルおよびクライアント-リソース関係は、Asset Managerデータベースに追加されます。

すでに存在するものは更新されます。

[キャリアのネットワークを使用] クライアント-リソース関係のタイプが存在しない場合は作成されます。



警告:

HP Discovery and Dependency Mapping Inventoryデータベースから削除されたモバイル機器およびサービスプロバイダは、Asset Managerデータベースからは削除されません。

実用例：モバイル機器を作成する

この実用例では、電話事業者**AT&T Mobility (AT&T)**にリンクした**PDA HP iPAQ hx2790**のレコードを作成します。

この実用例は一連の手続きからなります。

前提条件

デモ用データベースを使用していない場合には、**[ポートフォリオ - 専門分野データ]**をインポートする必要があります (▶ データベースにポートフォリオ - 専門分野データをインポートする [献 63]) 。

手順1：電話事業者を作成する

ブランドを作成する

- 1 ブランドを表示します (ナビゲーションバーの **[ポートフォリオ管理/ブランド]** リンク) 。
- 2 新しいレコードを追加し、次のテーブルで指定されたフィールドとリンクに入力します。

名前	SQL名	値
名前	Name	000/AT&T

- 3 Windowsクライアントの場合は **[作成]** を、Webクライアントの場合は **[保存]** をクリックします。

モデルを作成する

- 1 モデルを表示します (ナビゲーションバーの **[ポートフォリオ管理/モデル]** リンク) 。
- 2 新しいレコードを追加し、次のテーブルで指定されたフィールドとリンクに入力します。

名前	SQL名	値
名前	Name	000/AT&T Mobility
ブランド	Brand	000/AT&T

名前	SQL名	値
[全般] タブ		
属性	Nature	標準資産

- 3 Windowsクライアントの場合は [作成] を、Webクライアントの場合は [保存] をクリックします。

ポートフォリオ品目を作成する

- 1 ポートフォリオ品目を表示します (ナビゲーションバーの [ポートフォリオ管理/ポートフォリオ品目] リンク)。
- 2 新しいレコードを追加し、次のテーブルで指定されたフィールドとリンクに入力します。

名前	SQL名	値
モデル	Model	000/AT&T Mobility
割り当て	seAssignment	使用中

- 3 Windowsクライアントの場合は [作成] を、Webクライアントの場合は [保存] をクリックします。

手順2 : モバイル機器を作成する

ブランドを作成する

- 1 ブランドを表示します (ナビゲーションバーの [ポートフォリオ管理/ブランド] リンク)。
- 2 新しいレコードを追加し、次のテーブルで指定されたフィールドとリンクに入力します。

名前	SQL名	値
名前	Name	000/Hewlett Packard

- 3 Windowsクライアントの場合は [作成] を、Webクライアントの場合は [保存] をクリックします。

モデルを作成する

- 1 モデルを表示します (ナビゲーションバーの [ポートフォリオ管理/モデル] リンク)。
- 2 新しいレコードを追加し、次のテーブルで指定されたフィールドとリンクに入力します。

名前	SQL名	値
名前	Name	000/HP iPAQ hx2790
親モデル	Parent	PDA
ブランド	Brand	000/Hewlett Packard
〔全般〕 タブ		
属性	Nature	モバイル機器

- 3 Windowsクライアントの場合は〔作成〕を、Webクライアントの場合は〔保存〕をクリックします。

モバイル機器を作成する

- 1 モバイル機器を表示します（ナビゲーションバーの〔ポートフォリオ管理／IT／IT機器／モバイル機器〕リンク）。
- 2 新しいレコードを追加し、次のテーブルで指定されたフィールドとリンクに入力します。

名前	SQL名	値
〔全般〕 タブ		
モデル	モデル	000/HP iPAQ hx2790
Windowsクライアントの場合は〔作成〕をクリックします		
〔全般〕 タブ		
割り当て	seAssignment	使用中
〔ハードウェア〕 タブ		
ROM	lROMMb	192
外部RAM	lExternalRAMMb	1000
〔ネットワーク〕 タブ		
電話番号	PhoneNum	555-9635
Windowsクライアントの場合は〔変更〕を、Webクライアントの場合は〔保存〕をクリックします。		

手順3：クライアント-リソース関係を作成する

クライアント-リソース関係のタイプを作成する

- 1 クライアント-リソース関係のタイプを表示します（ナビゲーションバーの〔ポートフォリオ管理／ビジネスサービス／クライアント-リソース関係のタイプ〕リンク）。
- 2 新しいレコードを追加し、次のテーブルで指定されたフィールドとリンクに入力します。

名前	SQL名	値
名前	Name	000/プロバイダのネットワークを使用

- 3 Windowsクライアントの場合は **【作成】** を、Webクライアントの場合は **【保存】** をクリックします。

クライアント-リソース関係を作成する

- 1 クライアント-リソース関係を表示します（ナビゲーションバーの **【ポートフォリオ管理/ビジネスサービス/クライアント-リソース関係】** リンク）。
- 2 新しいレコードを追加し、次のテーブルで指定されたフィールドとリンクに入力します。

名前	SQL名	値
【全般】 タブ		
クライアント	Client	000/Hewlett Packard 000/HP iPAQ hx2790 レコードを選択します。
関係のタイプ	CRType	000/プロバイダのネットワークを使用
リソース	Resource	000/AT&T 000/AT&T Mobility レコードを選択します

- 3 Windowsクライアントの場合は **【作成】** を、Webクライアントの場合は **【保存】** をクリックします。

モバイル機器が作成されたことをチェックする

- 1 モバイル機器を表示します（ナビゲーションバーの **【ポートフォリオ管理/IT/IT機器/モバイル機器】** リンク）。
- 2 **000/HP iPAQ hx2790**レコードを選択します。
- 3 **【サービスプロバイダ】** タブに、**000/AT&T 000/AT&T Mobility**リソースが表示されることを確認します。

仮想環境

概要

Asset Managerにより、次の仮想環境を記述することができます。

仮想環境コンポーネントには以下が含まれます。

- 仮想マシン
- 仮想マシンのホスト：仮想マシン管理ソフトウェアをインストールしている物理コンピュータ

例：ESXサーバ、Solarisゾーン機能

- 仮想マシン管理ソフトウェア：仮想マシンのホストにインストールされているソフトウェアで、仮想マシンの管理用ソフトウェア
- 仮想環境管理サーバ：仮想環境管理ソフトウェアをインストールしている物理コンピュータ

例：VMWare VirtualCenter

- 仮想環境管理ソフトウェア：仮想マシンのホストにインストールされているソフトウェアで、仮想環境の管理用ソフトウェア

これらのコンポーネントのいくつかの関係を以下に説明します。

- 仮想マシンと仮想マシンのホストの間：ポートフォリオ品目（amPortfolio）テーブル内の親レコード（Parent）リンク、およびVMの管理（ManagesVm）クライアント-リソース関係のタイプを持つクライアント-リソースの関係を使用
- 仮想マシンのホストと仮想環境管理サーバの間：**Manages VM host**（ManagesVmHost）クライアント-リソース関係のタイプを持つ、クライアント-リソース関係を使用

ビジネスサービスが作成され、クライアント-リソース関係がそれぞれに関連付けられます。

- 仮想マシンのホスト
- 仮想環境管理サーバ

仮想環境コンポーネントは、手動で、またはHP Connect-Itを使用するHP Discovery and Dependency Mapping Inventoryからのデータインポートを実行することで作成できます。

このセクションの内容は、次のとおりです。

- 準備タスク [献 88]
- HP Discovery and Dependency Mapping Inventoryから仮想環境をインポートする [献 91]
- 仮想マシンを手動で作成する [献 93]
- 仮想マシンのホストを手動で指定する [献 93]
- 仮想環境でダッシュボードを表示する [献 93]
- 仮想環境管理サーバを表示する [献 94]

準備タスク

Asset Managerで仮想環境を作成するには事前に、手動で、またはHP Connect-Itを使用するHP Discovery and Dependency Mapping Inventoryインポートを通して、このセクションで説明する準備タスクを実行する必要があります。

データベースに仮想化 - 専門分野データをインポートする

専門分野データには以下が含まれます。

- クライアント-リソース関係のタイプ：
 - VMホストの管理 (ManagesVmHost)
 - VMの管理 (ManagesVm)
- 属性：
 - 仮想マシン (CPUVM)
 - ビジネスサービス (BIZSVC)
- モデル：
 - 仮想マシン (VMCPU)
 - VMware ESXサーバ (SIESX)
 - VMware VirtualCenter (SIVC)
 - VMware ESXサーバ (ESXSERVER)
 - VirtualCenter サーバ (VCSERVER)
 - 仮想マシン管理ソフトウェア (SIVM)
- ダッシュボードタイプのアクション
 - ダッシュボード：Virtualization (BstVirtualizDashBoard)
- 統計：
 - 物理コンピュータと仮想マシンの内訳 (StdStatVirtPhys_virt)
 - オペレーションシステム別の仮想マシンの内訳 (StdStatVirtOS_virt))
 - ステータス別の仮想マシンの内訳 (StdStatVirtStatus_virt)
 - CPU速度別の仮想マシンの内訳 (StdStatVirtCPUSpeed_virt)
 - 割り当て別の仮想マシンの内訳 (BstStatVMsByAssignment_virt)

データベース作成時に専門分野データをインポートする

『管理』ガイドの「**Asset Manager**データベースの作成、変更、削除」、
「**Asset Manager Application Designer**を使ってデータベース構造を作成する」の章に記述されている手順に従います。

[インポートするデータ] ページで、[仮想化 - 専門分野データ] オプションを選択します。

専門分野データの既存データベースへのインポート

次の操作を行います。

- 1 Asset Manager Application Designerを実行します。
- 2 [ファイル/開く] メニュー項目を選択します。
- 3 [データベース記述ファイルを開く (新規データベースの作成)] オプションを選択します。
- 4 Asset Managerインストールフォルダのconfigサブフォルダにある、gbbase.xml ファイルを選択します。

- 5 データベース作成ウィザードを開始します（[アクション/データベースの作成] メニュー）。
- 6 次のようにウィザードのページを入力します（ウィザードページを移動するには、[次へ] または [前へ] ボタンを使用します）。
[SQLスクリプトの生成/データベースの作成] ページ：

フィールド	値
データベース	専門分野データのインポート先にするデータベースへの接続を選択します。
作成	専門分野データをインポート
高度な作成オプションを使用	このオプションは選択しないでください。

[作成パラメータ] ページ：

フィールド	フィールドの値
パスワード	管理者パスワードを入力します。
注意: Asset Managerデータベース管理者は、[名前] (Name) フィールドが Admin に設定された [従業員と部署] (amEmplDept) テーブル内のレコードです。 データベース接続ログインが [ユーザ名] (UserLogin) フィールドに保存されています。管理名は Admin です。 パスワードは [パスワード] (LoginPassword) フィールドに格納されます。	

[インポートするデータ] ページ:

フィールド	フィールドの値
使用可能なデータ	[仮想化 - 専門分野データ] オプションを選択します
エラー発生時にインポートを中止	インポートの途中で問題が発生したら、このオプションを選択してインポートを中止します。
ログファイル	エラーと警告を含む、すべてのインポート操作が記録されるファイルのフルネーム。

- 7 ウィザードを使用して定義したオプションを実行します（[完了] ボタン）。

HP Discovery and Dependency Mapping Inventoryから仮想環境をインポートする

このセクションでは、HP Connect-Itを使用してHP Discovery and Dependency Mapping InventoryからAsset Managerにデータをインポートする方法を説明します。

サポートされる製品バージョン

HP Discovery and Dependency Mapping Inventoryはバージョン7.50以降である必要があります。

HP Connect-Itはバージョン3.90以降である必要があります。

統合の概要

Asset ManagerおよびHP Discovery and Dependency Mapping Inventoryの統合は、HP Connect-Itに付属するHP Connect-Itシナリオに基づきます。

これらのシナリオは、マップされるフィールド内のデータを転送可能にするために、HP Discovery and Dependency Mapping InventoryからAsset Managerへの一方向の統合をサポートしています。

▶転送される仮想環境コンポーネントおよびこれらのコンポーネントの間の関係については、概要 [献 87]を参照してください。

統合を有効にする

統合では、**仮想化 - 専門分野データ**に含まれるコンポーネントが既にAsset Managerにインポートされていることを前提とします。

▶準備タスク [献 88].

HP Connect-Itシナリオは、**仮想化 - 専門分野データ**からインポートされた属性、モデル、およびクライアント-リソース関係のタイプにリンク可能なデータを転送できます。

適切なHP Connect-Itシナリオを使用する

「<HP Connect-It installation folder>\scenario\ed\ddmi<HP Discovery and Dependency Mapping Inventory version>\ddmi<HP Discovery and Dependency Mapping Inventory version>am52>」の下には、次のシナリオファイルがあります。

- ddmiac.scn
- ddmiac-hpovcmse.scn
- ddmiac-reconc.scn
- ddmi-swnorm.scn

転送を実行するには、これらのシナリオの1つを選択する必要があります。

どのシナリオもすべて仮想環境コンポーネントと関係を同じように転送します。

これらのシナリオの違いは、仮想環境の転送方法以外のその他の条件に関係しません。

▶どのシナリオを選択するかを理解するには、HP Connect-Itドキュメントを参照してください。

HP Discovery and Dependency Mapping Inventoryによる仮想マシンの識別方法

HP Discovery and Dependency Mapping Inventoryはマシンが仮想マシンであり物理マシンでないことを識別するために以下のいずれかの方法を使用します。

- マシンは**VirtualDevice**リンクを使用して別のマシンにリンクされています。
- このようないリンクがない場合、HP Discovery and Dependency Mapping Inventoryマシンの【名前】フィールドの値はマップテーブルに表示されません。



注意:

標準手順では、Asset Managerへの転送中などにすべての仮想マシンにフラグを設定します。ただし、何らかの理由によりマシンに正しくフラグが設定されない場合は、以下の回避策を使用してください。

- 1 HP Connect-ItScenario Builderを実行します。
- 2 使用するシナリオを開きます。
- 3 【**Scenario/ Maptables...**(シナリオ/マップテーブル...)】メニューを選択します。
- 4 **ddmi.mpt**マップテーブルを選択します。
- 5 **MapTable UnmanagedVMTypes**を検索します。
- 6 仮想マシンとして転送するマシン名をAsset Managerに追加します。
マシンに、HP Discovery and Dependency Mapping Inventory内の【名前】フィールドの値を使用します。

コンピュータが仮想マシンのホストであるかV仮想環境管理サーバであるかをDDMIで識別する方法

仮想マシンのホストと仮想環境管理サーバは、**VirtualLink**リンクにより別のコンピュータにリンクされているコンピュータです。

参照ドキュメント

Asset Manager、HP Connect-It、およびHP Discovery and Dependency Mapping Inventoryには、包括的なインストールガイド、ユーザガイド、およびリファレンスガイドが用意されています。このセクションで説明する概念の詳細については、必要に応じてこれらのガイドを参照してください。

仮想マシンを手動で作成する

- 1 仮想マシンを表示します（ナビゲーションバーの **[ポートフォリオ管理/IT/IT機器/仮想マシン]** リンク）。
 - 2 仮想マシンを追加します。
仮想マシンモデルを選択して **[モデル]**（Model）リンクに入力します（▶準備タスク [献 88]）。
- 次のフィールドおよびリンクは、仮想マシンに固有のものです。

名前	SQL名
ホスト	sysCoreVMParent
このフィールドは参照専用です。特殊フィールドは、仮想マシンがインストールされるホストマシンを表します。	
[全般] タブ	
インストールフォルダ	Folder
シリアル番号	SerialNo
[ハードウェア] タブ	
仮想タイプ	VmType
仮想マシンのステータス	VmStatus
最大CPU数	fMaxCpu
最少CPU数	fMinCpu
最大RAM	lMaxMemory
最少RAM	lMinMemory

仮想マシンのホストを手動で指定する

仮想マシンのホストは、ナビゲーションバーの **[ポートフォリオ管理/IT/IT機器/仮想マシン]** リンクによって表示される画面で直接選択することができません。仮想マシンがインストールされるホストマシン（**[コンピュータ]**（amComputer）テーブル内の要素）を指定するには：

- 1 ポートフォリオ品目を表示します（ナビゲーションバーの **[ポートフォリオ管理/ポートフォリオ品目]** リンク）。
- 2 仮想マシンの詳細画面を表示します。
- 3 **[親レコード]**（Parent）リンクで、ホストコンピュータを選択します。
- 4 変更を保存します。

仮想環境でダッシュボードを表示する

ナビゲーションバーの **[Portfolio management/ IT/ IT equipment/ Dashboard: Virtualization]**（ポートフォリオ管理/IT/IT機器/ダッシュボード：仮想化）リンクをクリックします。

仮想環境管理サーバを表示する

- 1 ナビゲーションバーの [**Portfolio management/ IT/ IT equipment/ Dashboard: Virtualization**(ポートフォリオ管理/IT/IT機器/仮想環境管理サーバ)] リンクをクリックします。

4 電話機

Asset Managerでは、電話機は「ポートフォリオ品目」として処理されます。電話機を資産として管理する場合は、[電話] テーブルにレコードを作成することもできます。

電話機と機能

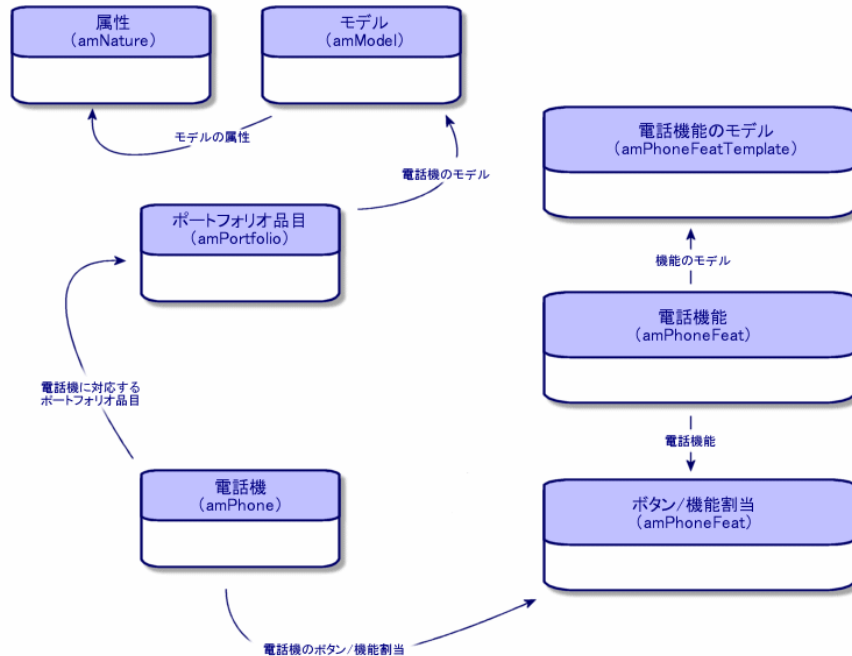
電話機の説明には、すべての管理タイプを使用できます (▶ 個別管理 (資産別) [献 16]) 。

電話機管理で使用されるAsset Managerのテーブルは、次のとおりです。

- [属性] テーブル
このテーブルでは、ポートフォリオ品目のモデルは、[資産] テーブルと[電話] テーブルにレコードを作成することを指定します。
- [モデル] テーブル
このテーブルでは、[資産] テーブルと[電話機] テーブルにレコードを作成するポートフォリオ品目のモデルを作成します。
- [電話機] テーブル
このテーブルには、電話機に対応するレコードが含まれます。
- [ボタン/機能割り当て] テーブル
このテーブルでは、電話機のボタンに機能を割り当てます。
- [電話機能のモデル] テーブル
このテーブルでは、電話機能のモデルを作成します。

- 「電話機能」テーブル

このテーブルでは、会社の電話機で使用する電話機能のリストを表示できます。



電話機の管理

Asset Managerで電話機を管理するには、次の手順を実行します。

- 「電話機」テーブルに電話機を登録する。
- 機能をボタンに関連付ける。

以下の方法で、「電話機」テーブルのレコードの詳細画面を表示できます。

- 電話機を表示します（ナビゲーションバーの「ポートフォリオ管理/テレフォニ/電話」リンク）。
- 「資産」テーブルで電話機に対応するレコードを選択して、「電話機」タブページをクリックします。



警告:

電話機のモデルの属性で、[オーバーフローテーブル] フィールドで [電話機] を選択されていない限り、[電話機] タブページは表示されません。

電話機を作成する

電話機を作成するには：

- 1 電話機の属性を作成します。[作成] フィールドで [ポートフォリオ品目] を選択し、[オーバーフローテーブル] フィールドで [電話] を選択します。
▶ ポートフォリオ品目の属性を作成する [献 28]
- 2 電話機のモデルを作成します。
- 3 電話機に対応するレコードを [資産] テーブルで作成します。
このレコードは、[電話] テーブルにもレコードを作成します。
- 4 [電話機] タブを選択します。
- 5 電話機の内線番号を入力します。
- 6 必要に応じて、[ボイスメール] オプションと [スピーカ] オプションを選択します。
- 7 転送先の電話機を [転送先] リンクに入力します。このリンクは、[電話機] テーブルの他のレコードに向けられています。
- 8 [コールラインID] フィールドに電話機のCLI (コマンドラインインタフェース) 番号を入力します。
- 9 [作成] をクリックして、作成を確定します。

機能をボタンに関連付ける

ある機能をボタンに関連付ける前に、まず機能のモデルおよび機能自体を作成する必要があります。

機能のモデルを作成する



注意:

この操作は、Windowsクライアントでのみ実行できます。

機能を作成するには：

- 1 [管理/画面一覧] メニューを使って、電話機能のモデルのリストを表示します。
- 2 [説明] フィールドに入力して、機能のモデルを作成します。

機能を作成する



注意:


この操作は、Windowsクライアントでのみ実行できます。

機能を作成するには：

- 1 [管理／画面一覧] メニューを選択して、電話機能のリストを表示します。
- 2 [新規作成] をクリックします。
- 3 [説明] フィールドに入力します。
- 4 上記で作成した電話機能のモデルを [モデル] リンクで選択します。
- 5 特定のコードを使って機能をオン／オフにできる場合は、 [トグル動作] オプションを選択します。また、このコードを選択すると表示されるフィールドに適切なコードを入力します。
- 6 機能を使用するためにIDコードが必要な場合は、 [IDコード要] オプションを選択します。

機能をボタンに関連付ける

機能をボタンに関連付けるには：

- 1 ポートフォリオ品目を表示します (ナビゲーションバーの [ポートフォリオ管理／ポートフォリオ品目] リンク)。
- 2 電話機のレコードを選択します。
- 3 [電話機] タブを選択します。
- 4 [機能] タブページを選択します。
- 5  をクリックします。
- 6 機能が割り当てられている最初のボタンの番号を [最初のボタン] フィールドに入力します。最初のボタンは通常「1」または「0」です。最初のボタンが「0」の場合、機能が割り当てられているボタンの合計数は、「n + ボタン 0」です。

最初のボタンが「0」の場合、ボタン「5」は6番目のボタンに相当します。

- 7 [ボタン数] フィールドに、機能を割り当てることのできるボタンの数を入力します。 [最初のボタン] フィールドの値が「0」の場合、ボタン「5」は6番目のボタンに相当します。
- 8 [用途] リンクでボタンに関連付ける機能を選択します。

5 ビジネスサービス

Asset Managerにおけるビジネスサービスとは、ユーザ向けのグローバルなサービス展開の枠組みの中で、クライアントとリソースをリンクさせるキーとなる関係のすべてを指します（例えば、ITアプリケーション、ネットワークシステム）。リソースとクライアントは、さまざまな関係タイプによって関連付けられたポートフォリオ品目です。リソースはクライアントに対してビジネスサービスの展開に貢献する固有のサービスを提供しています。

サービスをビジネスサービスとして管理することにより、ユーザはクライアントとリソース間の複雑な関係を把握し、展開のコストとビジネスサービスの失敗による影響を評価します。

Asset Managerにより、次のことができます。

- ビジネスサービスに関連するクライアント-リソース関係を作成します。
- ビジネスサービスのリソースによるダウンタイムを管理し、その影響を分析します。
- ビジネスサービスの展開に関連するコストを算出します。

クライアント-リソース関係

クライアント-リソース関係は、ビジネスサービスの主たるコンポーネントです。ビジネスサービスの展開に関連するさまざまなポートフォリオ品目と、それらをリンクさせるさまざまな関係のタイプについて分かりやすく示します。クライアント-リソース関係は、ビジネスサービスの展開に関わるコストを分析し予測するために重要な情報を示します。

クライアントとそのリソースは、関係タイプ（関係タイプは、リソースによって提供されたサービスをクライアントが使用する方法）によって関連付けられます。

例：

- **【接続先】**：アプリケーション（クライアント）とそのデータベース（リソース）を関連付けるのに使います。
- **【IT機器の使用】**：アプリケーション（クライアント）とそのホストコンピュータ（リソース）を関連付けるのに使います。
- **【ホスト共有アプリケーション】**：共有するWebアプリケーションをホストするWebサーバ（クライアント）を関連付けるのに使います。

クライアントとリソースは、次のようにさまざまな方法で関連付けることができます。1クライアントに対し1リソース、1クライアントに対し複数のリソース、複数のクライアントに対し1リソース、複数のクライアントに対し複数のリソース。

ビジネスサービスにおけるクライアント-リソース関係のすべてが、「ビジネスサービスの機能的表現」と呼べるものを作り上げています。この表現は、ビジネスサービスを作り上げているクライアント-リソース関係のダイアグラムを作成するため、そして（サービスの展開に関係する）内部要素を外部要素から区別するために使われます。

注意:

Asset Managerでは、ビジネスサービスの展開に関係するクライアントを、エンドユーザクライアント（ビジネスサービスを利用しているクライアント）と明確に区別することはできません。ビジネスサービスに関連付けられたクライアント-リソース関係のクライアントは、ビジネスサービスに対して内部的であると自動的に見なされます。

Asset Managerにおけるビジネスサービスの表現

Asset Managerでは、ビジネスサービスは資産として管理されます。この資産は、ビジネスサービスのクライアント-リソース関係が集中する場所では一般的な要素です。この資産は経費明細を持ち、契約とユーザを関連付けることができます。ビジネスサービスに従事するクライアントとリソースは、ハードウェアまたはソフトウェアタイプのポートフォリオ品目（または資産）です。

Asset Managerでビジネスサービスを表現するには：

- 1 ビジネスサービスを表現する資産を作成します。
- 2 ビジネスサービスに従事するクライアントとリソースを作成します。
- 3 ビジネスサービスのクライアント-リソース関係を作成します。

前提条件：ビジネスサービスの属性とモデル

- ビジネスサービスに関連付けられた属性がAsset Managerに存在しない場合、動作が「ビジネスサービス」である資産を作成できるようにする必要があります。
 - 1 属性を表示します（ナビゲーションバーの【ポートフォリオ管理／属性】リンク）。
 - 2 【新規作成】をクリックします。
 - 3 以下の値について、フィールドとリンクに属性の詳細を入力します。

フィールドまたはリンク	値
【全般】 タブ	
作成 (seBasis)	ポートフォリオ品目
【オーバーフローテーブル】 (OverflowTbl)	(テーブルなし)
注意:	または
このフィールドはWindowsクライアントでのみ入力できます。	ソフトウェアのインストールまたは使用 (amSoftInstall)
管理条件 (seMgtConstraint)	固有資産タグ
ビジネスサービス (bSystem)	このボックスをチェックします。

- 4 Windowsクライアント：【作成】 ボタンをクリックします。
Webクライアント：【保存】 ボタンをクリックします。
- ビジネスサービスに関連付けられたモデルには、特別な機能はありません。適切な属性に関連付けられているだけだということを確認してください。Asset Managerにこのモデルが存在しない場合、次の操作を行います。
 - 1 モデルを表示します（ナビゲーションバーの【ポートフォリオ管理／モデル】リンク）。
 - 2 【新規作成】をクリックします。
 - 3 フィールドとリンクにモデルの詳細を入力します。
 - 4 Windowsクライアント：【作成】 ボタンをクリックします。
Webクライアント：【保存】 ボタンをクリックします。

ビジネスサービスを表現する資産を作成する

- 1 資産を表示します（ナビゲーションバーの【ポートフォリオ管理／資産】リンク）。
- 2 【新規作成】をクリックします。
- 3 フィールドとリンクに資産の詳細を入力します。

ヒント:

資産のモデルを入力すると、[ビジネスサービス] タブが表示されます（モデルに関連付けられた属性の詳細で [ビジネスサービス] の動作が有効になります）。このタブは、資産によって表されたビジネスサービスのために定義されたクライアント-リソース関係を表示します。

- 4 Windowsクライアント：[作成] ボタンをクリックします。
Webクライアント：[保存] ボタンをクリックします。

ビジネスサービスに従事するクライアントとリソースを作成する

ビジネスサービスのクライアントとリソースは、ポートフォリオ品目（または資産）です。これはすでに要素として **Asset Manager** に保存されている可能性があります。保存されていない場合は、作成してください。▶ [ポートフォリオ品目 \[献 27\]](#)

注意:

ビジネスサービスのリソースは、資産として定義する必要があります。アプリケーションには属性が必要であり、それにより固有資産タブを持つソフトウェアインストールとして管理ができます。これにより、以下を実行することができます。

- 経費明細を関連付ける
- 障害の発生時にダウンタイムを管理する▶ [ビジネスサービスのリソースのダウンタイム \[献 104\]](#)
- ビジネスサービスのTCOを計算する際に、すべてのコストを考慮に入れる▶ [ビジネスサービスのTCO \[献 110\]](#)

ビジネスサービス用のクライアント-リソース関係を作成する

必要に応じてクライアント-リソース関係を作ることができ、ビジネスサービスの展開を構成する交換を適切に記述できます。

- クライアント-リソース関係を、コンテキストに適合した明確な方法で定義します。
- 関係タイプの名称には、簡潔で明確なものを使用します。

ベストプラクティスの例

- ポートフォリオ品目、リソースのクライアントは、他のクライアントのリソースとなることもできます。
- ビジネスサービスに従事するアプリケーションは、インストールされたホストハードウェア（サーバ、PC）に常に関連付けられている必要があります。

このクライアント-リソース関係では、アプリケーションはクライアントであり、そのホストはリソースです。ホストは、ビジネスサービスのフルリソースと見なすことができます。これは、次の理由で重要です。

- サーバのダウンタイムを管理する方が、サーバ上でホストされているアプリケーションのダウンタイムを管理するよりも容易です。アプリケーションがダウンする場合、そのホストはダウンしません。もしホストがダウンすれば、アプリケーションもまたダウンします。
- 財務のインパクトは、アプリケーションをホスティングしているハードウェアが1つのビジネスサービス専用であるか、または複数のビジネスサービスによって使用されているかによって異なります。専用のサーバでは、すべてのハードウェア、ソフトウェアライセンスおよびメンテナンスコストはサーバに直接に賦課されます。これにより、ビジネスサービスの総費用の評価が簡略化します。その他すべてケースにおいて、コストはさまざまなビジネスサービスとの関わり方によって、サーバに結びついたクライアントとリソースに分配されます。
- リソースとそのクライアントを、同じホストハードウェアでホスティングする場合もあります。

クライアント-リソース関係のタイプを作成する

- 1 クライアント-リソース関係のタイプを表示します（ナビゲーションバーの [ポートフォリオ管理/ビジネスサービス/クライアント-リソース関係のタイプ] リンク）。
- 2 [新規作成] をクリックします。
- 3 フィールドとリンクに関係するタイプの詳細を入力します。
 - [ダウンタイムのインパクト] (pClientImpact) : そのクライアントにおける、リソースのダウンタイムがもたらすインパクトの評価。
 - [財務のインパクトの計算方法] (seFinImpactCalc) : ビジネスサービスのレベルで、リソースのTCOの再配分に使用する計算方法。

重要項目:

クライアント-リソース関係タイプの詳細に関するさまざまなフィールドとリンクの背後にあるロジックを理解することは重要です（[使用可能な代替リソース] (seFailOver)、[デフォルトでは1リソースを定義できます] (bDefault)、および [1クライアントにつき1単一リソース] (bResourceUnicity) フィールドも参照してください）。ビジネスサービスの内部に関連するクライアント-リソース関係は複雑で、技術的（パフォーマンス）および/または財務的（コスト）の面で影響を及ぼす自動メカニズムを作り上げます。詳細については、Asset Managerのフィールドとリンクの状況依存ヘルプを参照してください（フィールドまたはリンク上で、キーボードの [Shift+F1] キーを押します。）。

- 4 Windowsクライアント: [作成] ボタンをクリックします。

Webクライアント：[保存] ボタンをクリックします。

クライアント-リソース関係を作成する

方法1：[クライアント-リソース関係を作成...] ウィザードを使用する

- 1 [クライアント-リソース関係を作成...] (sysCreateClientsResource) ウィザードを実行して入力します([ポートフォリオ管理/ビジネスサービス/クライアント-リソース関係を作成...] ブラウザリンク)。
- 2 このウィザードにより、1回の操作でリソースを1つ以上のクライアントにリンクして、関連付けられたクライアント-リソース関係を作成できます。
また、各クライアント-リソース関係に対してパラメータを定義できます。

方法2：手動

- 1 クライアント-リソース関係を表示します (ナビゲーションバーの [ポートフォリオ管理/ビジネスサービス/クライアント-リソース関係] リンク)。
- 2 [新規作成] をクリックします。
- 3 フィールドとリンクにクライアント-リソース関係の詳細を入力します。
- 4 Windowsクライアント：[作成] ボタンをクリックします。
Webクライアント：[保存] ボタンをクリックします。

クライアント-リソース関係を表示する

ビジネスサービスに関連付けられたクライアント-リソース関係を表示するには、次の手順に従います。

- ビジネスサービスを表す資産の詳細 (ナビゲーションバーの [ポートフォリオ管理/資産] リンク) から、[ビジネスサービス] タブを選択します。
- クライアント-リソース関係の一覧 (ナビゲーションバーの [ポートフォリオ管理/ビジネスサービス/クライアント-リソース関係] リンク) から。このウィンドウは、すべてのクライアント-リソース関係 (ビジネスサービスの枠組みの中で定義されていないものも含む) を表示します。
- ビジネスサービスの一覧 (ナビゲーションバーの [ポートフォリオ管理/ビジネスサービス/ビジネスサービス] リンク) から：ビジネスサービスの詳細画面の [ビジネスサービス] タブで、使用するクライアント-リソース関係のタイプに基づいて、クライアント-リソース関係がグループ化されます。

ビジネスサービスのリソースのダウンタイム

ビジネスサービスのリソースのダウンタイムは、予定済 (サーバメンテナンス) または予定外 (ネットワーク障害) です。ダウンタイムの長さによって、クライ

アントに対するリソースの一部または全体が利用不可能になります。これは、ビジネスサービスの全体的なパフォーマンスに影響を与える可能性があります。

ビジネスサービスに対して外部的なポートフォリオ品目に依存するリソース

ビジネスサービスへの関わりから独立しているリソースは、依存している他のポートフォリオ品目や、ビジネスサービスの機能表現には表れない他のポートフォリオ品目にリンクさせることができます。それらのポートフォリオ品目がビジネスサービスには直接関わっていない場合でも、ビジネスサービスに関わるリソースのためのリソースとしての重要な役割を持っています。

例：アプリケーションをホストしているサーバに接続するためのネットワークスイッチは、ビジネスサービスのためのリソースとして機能しています。スイッチとサーバの関係は、ビジネスサービスのクライアント-リソース関係として表示される必要はありません。

それらの関係は、ビジネスサービスのリソースのダウンタイムを管理する場合に考慮する必要があるかもしれません。それらの関係がビジネスサービスの中で明確に定義されていない場合でも、リソースダウンタイムによる影響を分析するプロセスは、リソースが使用しているポートフォリオ品目についても明らかにする必要があります。そのためには、それらの関係に相当するようなクライアント-リソース関係を、以下の特性で作成する必要があります。

- ビジネスサービスのリソースがクライアントとして機能している
- ビジネスサービスにとって外部的なリソースが依存しているポートフォリオ品目で、リソースとして機能している
- 関係と関連付けられているビジネスサービスは無い

クライアント-リソース関係を作成するには▶ [クライアント-リソース関係を作成する \[献 104\]](#)。

関係タイプが存在しない場合▶ [クライアント-リソース関係のタイプを作成する \[献 103\]](#)。

以下を行うと、ビジネスサービスのリソースが依存するポートフォリオ品目のダウンタイムを作成できます。ポートフォリオ品目がビジネスサービスに対して外部的な場合でも、このダウンタイムがビジネスサービス全体に対して与える影響を表示することができます。


ダウンタイムを作成するには▶ [リソースダウンタイムを作成する \[献 105\]](#)。

ダウンタイムによる影響を表示するには▶ [インパクト分析ウィザード \[献 108\]](#)

リソースダウンタイムを作成する

方法1：導入作業指示を使用する

作業指示のダウンタイムを指定するには：

- 1 作業指示を表示します（ナビゲーションバーの [ポートフォリオ管理/拡張ポートフォリオ/作業指示/作業指示] リンク）。
- 2 ダウンタイムの指定の対象の作業指示を選択します。
- 3 作業指示の詳細画面の [ダウンタイム] タブ上の  アイコンをクリックします。
[作業指示からダウンタイムを作成...] (sysWOCreateDownTime) ウィザードが実行されます。
- 4 [資産] フィールドに使用不可能にするリソースを指定して、[作業指示からダウンタイムを作成...] ウィザードに入力します。

ヒント:

作成したダウンタイムが [ダウンタイム] のテーブルに表示されます（ナビゲーションバーの [ポートフォリオ管理/ビジネスサービス/ダウンタイム] リンク）。

方法2：手動

リソースのダウンタイムを作成するには：

- 1 [ダウンタイム] を表示します（ナビゲーションバーの [ポートフォリオ管理/ビジネスサービス/ダウンタイム] リンク）。
- 2 [新規作成] をクリックします。
- 3 フィールドとリンクにダウンタイムの詳細を入力します。

ヒント:

リソースは、複数のビジネスサービスと関わる可能性があり、リソースのダウンタイムによるビジネスサービスへの影響については入力する必要はありません。そのダウンタイムは、自動的にすべての適切なビジネスサービスに対して配分されます。

- 4 Windowsクライアント： [作成] ボタンをクリックします。
Webクライアント： [保存] ボタンをクリックします。

リソースダウンタイムのインパクト

リソースのダウンタイムによる影響を測定するために、Asset Managerは2つのフィールドから得られる値を使用します。

- リソースダウンタイムの詳細画面上の [資産の実際の可用性] (pAvail) フィールドの値。
- リソースをそのクライアントへとリンクさせる、関係タイプの詳細における [ダウンタイムのインパクト] (pClientImpact) フィールドの値。

以下は、インパクトを計算するのに使う数式です。

$$\begin{aligned} & \% \text{ リソースダウンタイムのインパクト} \\ & = \% \text{ 実際のリソースダウンタイム} * \% \text{ 関係タイプへのダウンタイムのインパクト} \\ & = (100\% - \% \text{ リソースの実際の可用性}) * \% \text{ 関係タイプへのダウンタイムのイン} \\ & \text{パクト} \end{aligned}$$

可用性は次のように計算されます。

- リソースのクライアントに対して

$$\% \text{ クライアントレベルにおける可用性} = 100\% - \% \text{ リソースダウンタイムの影響}$$

- ビジネスサービスに対して

$$\% \text{ ビジネスサービスの可用性} = \text{クライアントレベルの可用性の合計} / \text{影響を受けるクライアントの数}$$

注意:

- クライアントが複数のリソースダウンタイムの影響を受けるような場合、クライアントレベルにおける可用性の合計は、ダウンしているそれぞれのリソースに対して計算されたすべての可用性の中で最小のものに相当します。
- リソースダウンタイムはクライアントにとって連鎖的です。これは、もしリソースがダウンした場合、関係するクライアントも連鎖的に影響を受けることになります。ビジネスサービスの可用性は、影響を受けたクライアントで他のクライアントのリソースでないものについてのみ計算されます。

ダウンタイムの影響：例

- 1 リソースは60%だけ利用可能です。このリソースをそのクライアントへとリンクする関係タイプは、ダウンタイムの影響を40%と評価しています。
 - リソースダウンタイムの影響は、次の式で求められます： $(100\% - 60\%) * 40\% = 16\%$
 - クライアントレベルにおける可用性は次の式で求められます： $100\% - 16\% = 84\%$
- 2 アプリケーションは2つの異なるデータベースに接続します。**DB1**と**DB2**です。ネットワーク問題により、データベースはそれぞれ40%のみ利用可能です。DB1をそのクライアントへとリンクする関係タイプは、ダウンタイムの影響を100%と評価しています。DB2をそのクライアントへとリンクする関係タイプは、ダウンタイムの影響を80%と評価しています。
 - **DB1**のダウンタイムの影響は、次の式で求められます。 $(100\% - 40\%) * 100\% = 60\%$

- **DB1**のアプリケーションレベルにおける可用性は次の式で求められます。
 $100\% - 60\% = 40\%$
- **DB2**のダウンタイムの影響は、次の式で求められます。 $(100\% - 40\%) * 80\% = 48\%$
- **DB2**のアプリケーションレベルにおける可用性は次の式で求められます。
 $100\% - 48\% = 52\%$

アプリケーションレベルにおける可用性の合計は、40%です。

- 3 アプリケーションはビジネスサービスとして管理されます。ビジネスサービスには次の関係があります。

データベース（クライアント）は、**Server 2** コンピュータハードウェア（リソース）を使用します。

アプリケーション（クライアント）は、**Server 1** コンピュータハードウェア（リソース）を使用します。

アプリケーション（クライアント）は、データベース（リソース）に接続します。

「接続先」関係タイプのダウンタイムの影響は90%と評価されます。「コンピュータハードウェアの使用」関係タイプのダウンタイムの影響は95%と推定されます。

一定期間、データベースサーバは20%のみ利用可能です。結果は次のようになります。

- データベースの可用性は24%です。
- データベースのクライアント（アプリケーション）もまた影響を受けます。クライアントレベルにおける可用性は31.6%です。

インパクト分析ウィザード

[ビジネスサービスへのダウンタイムのインパクト...]

(BstImpactAnalysis_Simul) ウィザード (ナビゲーションバーの [ポートフォリオ管理/ビジネスサービス/ビジネスサービスへのダウンタイムのインパクト...] リンク) により、与えられた日時のリソースダウンタイムをシミュレーションして、ビジネスサービスとそのリソースの広範囲の可用性を視覚化できます。

ウィザードには以下のものが表示されます。

- 上のフレームには：クライアントレベルの可用性
- 下のフレームには：
 - リソースの可用性。
 - リソースが依存しているポートフォリオ品目のダウンタイムと、依存関係と同等なクライアント-リソース関係としてAsset Managerで作成されたポートフォリオ品目のダウンタイム。



警告:

[ビジネスサービスのダウンタイムのインパクト...] (BstImpactAnalysis_Simul) ウィザードは、[ビジネスサービス - ビジネスデータ] の専門分野データの一部です。ウィザードを使用する前に、このデータのインポートを完了させてください。

▶ 専門分野データのインポートの例については、『調達』ガイド、「概要」の章、「使用前の準備」のセクションの「既存のデータベースへの専門分野データのインポート」の項を参照してください。

ビジネスサービスにリンクしたコスト

ビジネスサービスに関わるリソースとクライアントのコストに起因する、ビジネスサービスの展開にリンクしたコストです。

- ハードウェア資産の調達
- アプリケーションのインストールと、関連するソフトウェアライセンスの調達
- メンテナンス契約など

これらのコストを評価するには、Asset Managerの調達、契約およびファイナンスモジュールを適切に使用する必要があります。

ライセンスと契約

これらの要素は、ビジネスサービスに対して重要な財務的インパクトを与えるものとして考慮に入れることができます。

例えば、あるライセンスは1つのビジネスサービス専用であるのに対し、ハードウェアリソースに付随するライセンスはビジネスサービスに部分的にのみ関係しています。2種類のケースは区別できます。

- ビジネスサービスリソースとして100%専用のアプリケーションについては、その関連付けられたソフトウェアライセンスを、アプリケーションをホスティングしているハードウェアリソースの従属資産として直接に定義できます。この方法では、資産のTCOの計算において資産とその関連する従属資産を考慮に入れ、ハードウェアリソースの財務的インパクトが100%であると見積もられる場合には、そのソフトウェアライセンスは全額が計算に含まれます。
- ライセンスを受けたアプリケーションをホストするハードウェアリソースが複数のビジネスサービスによって共有される場合、そのライセンスはビジネスサービスのリソースとして従事するポートフォリオ品目（他のポートフォリオ品目に従属しない項目）として定義できます。このライセンスは、もっぱら財務的な関係によってビジネスサービスに直接関連付けられます。財務

のインパクトは100% (クライアント-リソースの関係の詳細の [財務のインパクト] (pFinImpact) フィールド) と予測され、技術的なインパクトが0% (クライアント-リソース関係タイプの詳細の [ダウンタイムのインパクト] (pClientImpact) フィールド) と予測されます。

契約のコストは、その契約に関連付けられた資産に対し、選択された配賦方法 (契約の詳細の [賃貸料] タブの [賃貸料の比例配分] (seProrateRule) フィールド) を基準として直接に配賦されます。それらの関連付けられた資産は、ビジネスサービスに関わる必要があります。

ビジネスサービスのTCO

ビジネスサービスの総所有コスト (TCO) を以下に示します。

- クライアント-リソース関係の詳細画面 ([年間総所有コスト(TCO)] ([amAsset] テーブルの [mAvgYearlyTco] フィールド))
- ビジネスサービス詳細画面の [ROI] タブ ([年間総所有コスト(TCO)] フィールド (mAvgYearlyTco))

計算の合計：

- ビジネスサービス (およびその従属資産) を表す資産のTCO
- ビジネスサービスに関係するリソースのTCO

ビジネスサービスのリソースのTCOの計算は、クライアント-リソース関係の [財務のインパクトの計算方法] (seFinImpactCalc) によって異なります。

- この計算方法を「なし」に設定した場合：ビジネスサービスのリソースのTCO値が使用されます。
- 計算方法を「関係の財務面でのインパクト」に設定した場合：ビジネスサービスのリソースのTCO値に財務のインパクト (クライアント-リソースの関係の [財務のインパクト] (pFinImpact) フィールド) の値が乗じられます。

注意:

関係タイプの詳細の [財務のインパクトの計算方法] (seFinImpactCalc) フィールドの値が、 [関係の財務面でのインパクト] に設定されている場合、クライアント-リソース関係の [財務のインパクト] (PFinImpact) フィールドのみが表示されます。

- この計算方法を「均一に細分化」に設定した場合：ビジネスサービスのリソースのTCO値に次の値が乗じられます。

$$\frac{[1-I]}{N}$$

ここで、

- Iは、クライアント-リソース関係の財務のインパクトの計算が「**関係の財務面でのインパクト**」に設定されているリソースに対する財務のインパクトの合計を表します。
- Nは、クライアント-リソース関係の財務のインパクトの計算方法が「**均一に細分化**」に設定されているリソースの数量を表します。

この計算は、リソースの使用が数回の場合でも、**各クライアント-リソース関係**に対して行われます。

クライアントのTCOは考慮されていません。

TCOの詳細（主概念、計算、ビジネスサービスのTCO）については、▶『**ファイナンス**』ガイドの「**TCO（総所有コスト）**」の章を参照にしてください。

実用例

ビジネスサービスの管理を説明するために、**Asset Manager Web**をビジネスサービスとして見ていきます。**Asset Manager Web**の場合、**Asset Manager Web**は、**Asset Manager**アプリケーションの**Web**インタフェースへのユーザのアクセスを可能にするサービスです。このビジネスサービスの展開に関わる主要な要素は次のとおりです。

- ソフトウェア要素：
 - Oracleデータベースのインスタンス
 - Apache Tomcat Webサーバ
 - Asset Manager Web ServiceのWebアプリケーション
 - Asset Manager Web TierのWebアプリケーション

Asset Managerユーザライセンスを挿入するためにAsset Manager Application Designerプロセスが追加され、監視システム（アラーム、ワークフローなど）を管理するため、およびAsset Manager Webからのアクションを自動的にトリガするためにAsset Manager Automated Process Managerプロセスが追加されます。
- ハードウェア要素：
 - OracleデータベースがインストールされたCompaq HP dx6050サーバ。
 - Asset Manager Web ServiceとAsset Manager Web TierアプリケーションがTomcat Webサーバを通して導入されたHP Deskpro dc7700サーバ。
 - Asset Manager Automated Process ManagerとAsset Manager Application DesignerアプリケーションがインストールされたHP Deskpro dc8000サーバ。

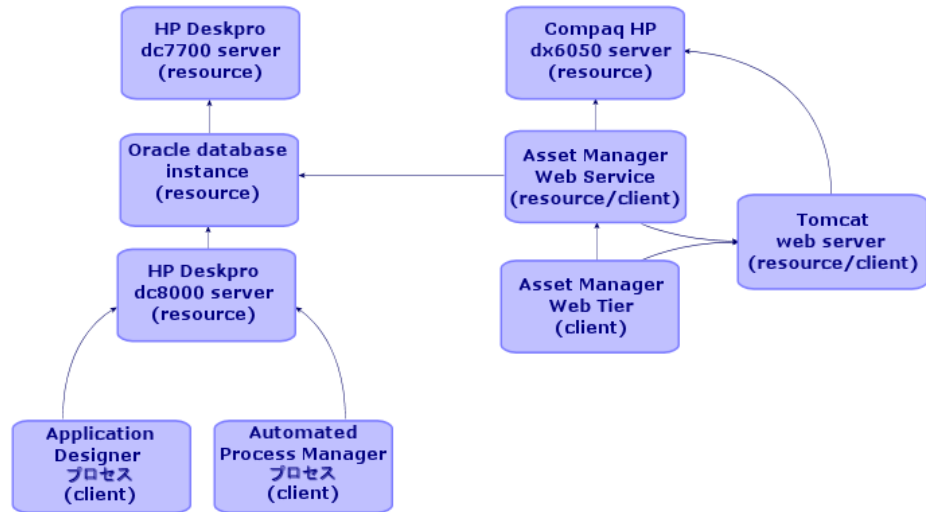
Asset Manager Webサービスを導入する（そして、ユーザのWebブラウザを通して利用可能にするなど）には次の要件が必要です。

- Asset Manager Web Serviceが、Oracleデータベースのインスタンスに接続している。

- Asset Manager Web TierがAsset Manager Web Serviceに接続している。
- Asset Manager Automated Process ManagerとAsset Manager Application Designerが、Oracleデータベースのインスタンスに接続している。

このビジネスサービスは次の図で表すことができます。

図 5.1. 実用例 - 「Asset Manager Web」 ビジネスサービスの機能的表現



Compaq HP dx6050サーバは、月例のメンテナンス作業が行われています。その間、サーバは20%のみ利用可能です。

この実用例の目標は、次のとおりです。

- 1 クライアント-リソース関係を作成することによってビジネスサービスを定義する。
- 2 Compaq HP dx6050サーバのダウンタイムをシミュレートし、ビジネスサービスの全体的な可用性へのインパクトを分析する。
- 3 ビジネスサービスのさまざまなコンポーネントによる財務のインパクトを分析する。

この事例の手順は次のとおりです。

- 1 ビジネスサービスを表現する資産を作成します。
- 2 ビジネスサービスに従事するクライアントとリソースを作成します。
- 3 クライアント-リソース関係のタイプを作成します。
- 4 ビジネスサービスのクライアント-リソース関係を作成します。
- 5 Compaq HP dx6050サーバのダウンタイムをシミュレートします。
- 6 財務のインパクトを分析します。

手順1：ビジネスサービスを表現する資産を作成します。

属性の作成方法

- 1 属性を表示します（ナビゲーションバーの [ポートフォリオ管理/属性] リンク）。
- 2 下の表に示すフィールドとリンクに記入して、レコードを作成します。

フィールドまたはリンク	値
名前 (Name)	PC_Businessサービス
[全般] タブ	
作成 (seBasis)	ポートフォリオ品目
[オーバーフローテーブル] (OverflowTbl)	(テーブルなし)
管理条件 (seMgtConstraint)	固有資産タグ
ビジネスサービス (bSystem)	このボックスをチェックします。

モデルを作成する

- 1 モデルを表示します（ナビゲーションバーの [ポートフォリオ管理/モデル] リンク）。
- 2 下の表に示すフィールドとリンクに記入して、レコードを作成します。

フィールドまたはリンク	値
名前 (Name)	PC_Asset Manager Webのビジネスサービス

フィールドまたはリンク	値
[全般] タブ	
属性 (Nature)	PC_Businessサービス

資産を作成する

- 1 資産を表示します (ナビゲーションバーの [ポートフォリオ管理/資産] リンク)。
- 2 下の表に示すフィールドとリンクに記入して、レコードを作成します。

フィールドまたはリンク	値
モデル (Model)	PC_Asset Manager Webのビジネスサービス

手順2: ビジネスサービスの展開に従事するクライアントとリソースを作成する

属性を作成する

注意:

これらの属性はWindowsクライアントからのみ作成できます。なぜなら、[オーバーフローテーブル] フィールドはWebクライアントからは入力できないからです。

- 1 属性を表示します (ナビゲーションバーの [ポートフォリオ管理/属性] リンク)。
- 2 次の表に示すようにフィールドとリンクに値を入力してレコードを作成します。

フィールドまたはリンク	値
名前 (Name)	PC_Hostサーバ
[全般] タブ	
作成 (seBasis)	ポートフォリオ品目
[オーバーフローテーブル] (OverflowTbl)	[コンピュータ] (amComputer) テーブル
管理条件 (seMgtConstraint)	固有資産タグ
ソフトウェアをインストール (bHasSoftInstall)	このボックスをチェックします。
機器のタイプ	コンピュータ

フィールドまたはリンク	値
名前 (Name)	PC_ITアプリケーション
[全般] タブ	

フィールドまたはリンク	値
作成 (seBasis)	ポートフォリオ品目
[オーバーフローテーブル] (OverflowTbl)	ソフトウェアのインストールまたは使用 (amSoftInstall)
管理条件 (seMgtConstraint)	固有資産タグ

モデルを作成する

- 1 モデルを表示します (ナビゲーションバーの [ポートフォリオ管理/モデル] リンク)。
- 2 次の表に示すようにフィールドとリンクに値を入力してレコードを作成します。

フィールドまたはリンク	値
名前 (Name)	PC_Compaq HP dx6050サーバ
[全般] タブ	
属性 (Nature)	PC_Hostサーバ

フィールドまたはリンク	値
名前 (Name)	PC_HP Deskpro dc7700サーバ
[全般] タブ	
属性 (Nature)	PC_Hostサーバ

フィールドまたはリンク	値
名前 (Name)	PC_HP Deskpro dc8000サーバ
[全般] タブ	
属性 (Nature)	PC_Hostサーバ

フィールドまたはリンク	値
名前 (Name)	PC_Oracleインスタンス
[全般] タブ	
属性 (Nature)	PC_ITアプリケーション

フィールドまたはリンク	値
名前 (Name)	PC_Asset Manager Web Service
[全般] タブ	
属性 (Nature)	PC_ITアプリケーション

フィールドまたはリンク	値
名前 (Name)	PC_Asset Manager Web Tier
[全般] タブ	

フィールドまたはリンク	値
属性 (Nature)	PC_ITアプリケーション

フィールドまたはリンク	値
名前 (Name)	PC_Apache Tomcatサーバ
[全般] タブ	
属性 (Nature)	PC_ITアプリケーション

フィールドまたはリンク	値
名前 (Name)	PC_Serverプロセス
[全般] タブ	
属性 (Nature)	PC_ITアプリケーション

フィールドまたはリンク	値
名前 (Name)	PC_Administratorプロセス
[全般] タブ	
属性 (Nature)	PC_ITアプリケーション

リソースに対応する資産を作成する

ヒント:

ビジネスサービスのリソースは、必要に応じてダウンタイムを作成するために資産として管理されます。

- 1 資産を表示します (ナビゲーションバーの [ポートフォリオ管理/資産] リンク)。
- 2 次の表に示すようにフィールドとリンクに値を入力してレコードを作成します。

フィールドまたはリンク	値
モデル (Model)	PC_Compaq HP dx6050サーバ

フィールドまたはリンク	値
モデル (Model)	PC_HP Deskpro dc7700サーバ

フィールドまたはリンク	値
モデル (Model)	PC_HP Deskpro dc8000サーバ

フィールドまたはリンク	値
モデル (Model)	PC_Oracleインスタンス

フィールドまたはリンク	値
■ Windowsクライアント：	
1 [作成] ボタンをクリックします。	
2 [ポートフォリオ] タブを表示します。	
■ Webクライアント：	
1 [保存] ボタンをクリックします。	
2 [ポートフォリオ] タブを表示します。	
3 PC_Oracle Instanceリンクをクリックします。	
4 [変更] をクリックします。	
[ポートフォリオ] タブ	
親レコード (Parent)	PC_Compaq HP dx6050サーバ
Webクライアント：	
1 [保存] ボタンをクリックします。	
2 Back to main documentリンクをクリックします。	

フィールドまたはリンク	値
モデル (Model)	PC_Apache Tomcatサーバ
■ Windowsクライアント：	
1 [作成] ボタンをクリックします。	
2 [ポートフォリオ] タブを表示します。	
■ Webクライアント：	
1 [保存] ボタンをクリックします。	
2 [ポートフォリオ] タブを表示します。	
3 PC_Apache Tomcat serverリンクをクリックします。	
4 [変更] をクリックします。	
[ポートフォリオ] タブ	
親レコード (Parent)	PC_HP Deskpro dc7700サーバ
Webクライアント：	
1 [保存] ボタンをクリックします。	
2 Back to main documentリンクをクリックします。	

フィールドまたはリンク	値
モデル (Model)	PC_Asset Manager Web Service

クライアントに対応するポートフォリオ品目を作成する

- 1 ポートフォリオ品目を表示します (ナビゲーションバーの [ポートフォリオ管理/ポートフォリオ品目] リンク)。
- 2 次の表に示すようにフィールドとリンクに値を入力してレコードを作成します。

フィールドまたはリンク	値
モデル (Model)	PC_Asset Manager Web Tier

フィールドまたはリンク	値
モデル (Model)	PC_Serverプロセス
[全般] タブ	
親レコード (Parent)	PC_HP Deskpro dc8000サーバ

フィールドまたはリンク	値
モデル (Model)	PC_Administratorプロセス
[全般] タブ	
親レコード (Parent)	PC_HP Deskpro dc8000サーバ

手順4：クライアント-リソース関係のタイプを作成する

- 1 クライアント-リソース関係のタイプを表示します (ナビゲーションバーの [ポートフォリオ管理/ビジネスサービス/クライアント-リソース関係のタイプ] リンク)。
- 2 次の表に示すようにフィールドとリンクに値を入力してレコードを作成します。

フィールドまたはリンク	値
名前 (Name)	PC_Usesデータベース
[全般] タブ	
ダウンタイムのインパクト (pClientImpact)	90%
1クライアントにつき1単一リソース (bResourceUnicity)	このオプションをクリアします
財務のインパクトの計算方法 (seFinImpactCalc)	関係の財務のインパクトを使用

フィールドまたはリンク	値
名前 (Name)	展開されたPC_Is
[全般] タブ	
ダウンタイムのインパクト (pClientImpact)	100%
1クライアントにつき1単一リソース (bResourceUnicity)	このオプションをクリアします
財務のインパクトの計算方法 (seFinImpactCalc)	関係の財務のインパクトを使用

フィールドまたはリンク	値
名前 (Name)	PC_Connects先
[全般] タブ	
ダウンタイムのインパクト (pClientImpact)	95%

フィールドまたはリンク	値
1クライアントにつき1単一リソース (bResourceUnicity)	このオプションをクリアします
財務のインパクトの計算方法 (seFinImpactCalc)	関係の財務のインパクトを使用

フィールドまたはリンク	値
名前 (Name)	PC_Usesコンピュータハードウェア
[全般] タブ	
ダウンタイムのインパクト (pClientImpact)	100%
1クライアントにつき1単一リソース (bResourceUnicity)	このオプションをクリアします
財務のインパクトの計算方法 (seFinImpactCalc)	関係の財務のインパクトを使用

手順5：ビジネスサービスのクライアント-リソース関係を作成する

- 1 [クライアント-リソース関係を作成...] (sysCreateClientsResource) ウィザードを実行します(ナビゲーションバーの [ポートフォリオ管理/ビジネスサービス/クライアント-リソース関係を作成...] リンク)。
- 2 次の表に示すように [クライアント-リソース関係を作成...] ウィザードに入力します。

フィールドまたはリンク	値
[選択したビジネスサービスのリソースを選択]	ページ
ビジネスサービス	PC_Asset Manager Webのビジネスサービス
リソース	PC_Compaq HP dx6050サーバ
[次へ] をクリックします。	
[選択したビジネスサービスのクライアントを選択]	ページ
クライアント	PC_Oracleインスタンス
[次へ] をクリックします。	
[クライアント-リソース関係のパラメータを定義]	ページ
[PC_Oracleインスタンス] を選択します	
関係のタイプ	PC_Usesコンピュータハードウェア
財務のインパクト	40
[選択したすべてのクライアントに適用] をクリックします	
[次へ] をクリックします。	
[概要] ページ	
[完了] をクリックしてから、[クライアント-リソース関係を作成] ウィザードを再実行します。	このボックスをチェックします。
[完了] をクリックします	
[OK] をクリックします	

フィールドまたはリンク	値
[選択したビジネスサービスのリソースを選択]	ページ

フィールドまたはリンク	値
ビジネスサービス	PC_Asset Manager Webのビジネスサービス
リソース	PC_Oracleインスタンス
[次へ] をクリックします	
[選択したビジネスサービスのクライアントを選択] ページ	
クライアント	<ul style="list-style-type: none"> ■ PC_Serverプロセス ■ PC_Administratorプロセス ■ PC_Asset Manager Web Service
[次へ] をクリックします	
[クライアント-リソース関係のパラメータを定義] ページ	
[PC_Serverプロセス] を選択します	
関係のタイプ	PC_Usesデータベース
財務のインパクト	20
[選択したすべてのクライアントに適用] をクリックします	
[PC_Administratorプロセス] を選択します	
関係のタイプ	PC_Usesデータベース
財務のインパクト	15
[選択したすべてのクライアントに適用] をクリックします	
[PC_Asset Manager Web Service] を選択します	
関係のタイプ	PC_Usesデータベース
財務のインパクト	8
[選択したすべてのクライアントに適用] をクリックします	
[次へ] をクリックします	
[概要] ページ	
[完了] をクリックしてから、 [クライアント-リ	このボックスをチェックします
ソース関係を作成] ウィザードを再実行します。	
[完了] をクリックします	
[OK] をクリックします	

フィールドまたはリンク	値
[選択したビジネスサービスのリソースを選択] ページ	
ビジネスサービス	PC_Asset Manager Webのビジネスサービス
リソース	PC_HP Deskpro dc7700サーバ
[次へ] をクリックします	
[選択したビジネスサービスのクライアントを選	
択] ページ	
クライアント	PC_Apache Tomcatサーバ
[次へ] をクリックします	
[クライアント-リソース関係のパラメータを定義] ページ	
[PC_Apache Tomcatサーバ] を選択します	
関係のタイプ	PC_Usesコンピュータハードウェア
財務のインパクト	35
[選択したすべてのクライアントに適用] をクリックします	
[次へ] をクリックします	
[概要] ページ	

フィールドまたはリンク	値
[完了] をクリックしてから、[クライアント-リソース関係を作成] ウィザードを再実行します。	このボックスをチェックします
[完了] をクリックします	
[OK] をクリックします	

フィールドまたはリンク	値
[選択したビジネスサービスのリソースを選択] ページ	
ビジネスサービス	PC_Asset Manager Webのビジネスサービス
リソース	PC_Apache Tomcatサーバ
[次へ] をクリックします	
[選択したビジネスサービスのクライアントを選択] ページ	
クライアント	<ul style="list-style-type: none"> ■ PC_Asset Manager Web Service ■ PC_Asset Manager Web Tier
[次へ] をクリックします	
[クライアント-リソース関係のパラメータを定義] ページ	
[PC_Asset Manager Web Service] と [PC_Asset Manager Web Tier] を選択します	
関係のタイプ	展開されたPC_Is
財務のインパクト	10
[選択したすべてのクライアントに適用] をクリックします	
[次へ] をクリックします	
[概要] ページ	
[完了] をクリックしてから、[クライアント-リソース関係を作成] ウィザードを再実行します。	このボックスをチェックします
[完了] をクリックします	
[OK] をクリックします	

フィールドまたはリンク	値
[選択したビジネスサービスのリソースを選択] ページ	
ビジネスサービス	PC_Asset Manager Webのビジネスサービス
リソース	PC_Asset Manager Web Service
[次へ] をクリックします	
[選択したビジネスサービスのクライアントを選択] ページ	
クライアント	PC_Asset Manager Web Tier
[次へ] をクリックします	
[クライアント-リソース関係のパラメータを定義] ページ	
[PC_Asset Manager Web Tier] を選択します	
関係のタイプ	PC_Connects先
財務のインパクト	100
[選択したすべてのクライアントに適用] をクリックします	
[次へ] をクリックします	
[変更] ページ	
[完了] をクリックします	

[OK] をクリックします

ビジネスサービスのクライアント-リソース関係をすべて表示するには：

- 1 ビジネスサービスを表示します（ナビゲーションバーの [ポートフォリオ管理/ビジネスサービス/ビジネスサービス] リンク）。
- 2 ビジネスサービスの詳細の [PC_Asset Manager Webビジネスサービス] の [ビジネスサービス] タブで、クライアント-リソース関係のタイプ別に記載されているすべてのビジネスサービスのクライアント-リソース関係を表示できます。

手順6：Compaq HP dx6050サーバのダウンタイムをシミュレートする

- 1 [インパクト分析：シミュレーション] ウィザードを表示します（ナビゲーションバーの [ポートフォリオ管理/ビジネスサービス/ビジネスサービスのダウンタイムのインパクト...] リンク）。
- 2 ウィザードの最初のページで次の操作を行います。
 - 1 [PC_Asset Manager Webビジネスサービス] Webビジネスサービスを選択します。
 - 2 [次へ] をクリックします。
すべてのリソースの可用性が**100%**に設定されます。
 - 3 [可用性] 列で、「PC_Compaq HP dx6050サーバ」の可用性を**20**に設定して [完了] をクリックします。

ウィザードはシミュレーションの結果を表示します。

- PC_Oracleインスタンスは、PC_Compaq HP dx6050サーバのクライアントなので影響を受けます。その可用性は現在**20%**です。
- PC_Asset Manager Web Service、PC_ServerプロセスおよびPC_Administratorプロセスは、PC_Oracleインスタンスのクライアントなので影響を受けます。それらクライアントのそれぞれの可用性は**28%**に低下します。
- PC_Asset Manager Web Tierは、PC_Asset Manager Web Serviceのクライアントなので影響を受けます。このクライアントの可用性は**31.6%**に低下します。
- ビジネスサービスの可用性の合計は、他のクライアントのリソースではないが影響を受けるクライアントを考慮に入れて計算されます。それらが、PC_Asset Manager Web Tier、PC_ServerプロセスおよびPC_Administratorプロセスです。ビジネスサービスの可用性は次の式で求められます。

$$\% \text{ availability PC_Asset Manager Web Tier} + \% \text{ availability PC_Server process} + \% \text{ availability PC_Administrator process} / 3 = 29.2\%.$$

手順7：財務のインパクトを分析する

Asset Managerの調達、契約、およびファイナンスモジュールで利用可能な機能により、ユーザはビジネスサービスにリンクするコストをもたらずさまざまな費用を評価できます。それには以下のものが含まれます。

- ホストサーバの調達：経費明細は調達のたびに生成されます。
- Asset Managerライセンスおよび関連するメンテナンス契約の費用：
Asset Managerライセンス（Asset Manager Webの導入に役立ちます）は完全にビジネスサービス専用です。そのコストはすべてビジネスサービスに振り替えられます。ライセンスは、財務に限られたクライアント-リソース関係（財務のインパクトが100%で、ダウンタイムのインパクトが0%）により、ビジネスサービスに直接関連付けられたリソースとして作成されます。賃貸料を、このライセンスに付随するメンテナンス契約に関連付けることは重要です。これにより、契約によって生成された経費明細がライセンスへと確実に振り替えられ、最終的にビジネスサービスのTCOに振り替えられます。
- PC_Oracleインスタンスに関連するOracleライセンスのコスト：このライセンスのコストは、PC_Oracleインスタンスリソースの財務のインパクトは30%に過ぎないため、一部分が振り替えられます。
- サーバとアプリケーションの運用コスト：インストール、内部の経費付替えプロセスなどにより作成されます。

ビジネスサービスのTCOは、PC_Asset Manager Webビジネスサービス資産（ビジネスサービスを表す資産）のTCOと、ビジネスサービスのリソースのTCOの合計であり、クライアント-リソース関係それぞれについて評価された財務のインパクトが考慮に入れられます。

6 作業指示

ポートフォリオ品目は、作業指示の対象となることがあります（例：メンテナンス）。また、プロジェクトでポートフォリオ品目を使用することもあります（例：長期研修プログラムでコンピュータを使用する）。

作業指示は、問題を解決するためにポートフォリオ品目に対して実行される処置です。修理、ユーザの援助、インストール、および移動などがあります。

作業指示のリストを表示するには、ナビゲーションバーの **[ポートフォリオ管理 / 拡張ポートフォリオ / 作業指示]** リンクをクリックします。

作業指示に追加業務を関連付けるなど、階層構造（ツリー構造）を設定して管理することができます。作業指示には複数の追加業務を割り当てることができます。作業指示は、テンプレートに基づいて作成できます。このテンプレートでは、一般的な作業指示または標準的な作業指示手順を定義します。テンプレートで定義された情報は、作業指示の詳細情報に使用されます。

追加業務も作業指示とみなされます。追加業務として定義することで1つの作業指示をさらに基本的な作業指示に細分化することができます。1つの作業指示を完了するには、その作業指示を構成するすべての追加業務を実行する必要があります。

作業指示の追加業務は、1つずつ、または複数と同時に実行できます。 **[作業順序]**（SQL名：lSequenceNumber）フィールドで、追加業務の順序を指定できます。このフィールドから次のことがわかります。

- 2つの作業指示に同じ順番が設定されている場合は、2つの作業指示を同時に実行できることを示しています。
- 数値が小さいほど、作業指示および追加業務の優先順位が高いことを示します。

作業指示のタイプ

作業指示の詳細画面の【全般】タブページにある【タイプ】（SQL名：seType）フィールドは、作業指示のタイプを示します。このフィールドは、システムのリストデータに関連付けられています。

このフィールドで選択した作業指示のタイプによって、作業指示の詳細画面の【トラッキング】タブページの内容が次のように異なります。

内部メンテナンス

【トラッキング】タブページ／【技術者】サブタブページの【内部技術者】（SQL名：Technician）フィールドと【グループ】（SQL名：EmplGroup）フィールドで、技術者とグループを指定できます。

契約メンテナンス

一般に、契約内で実行されるすべての作業指示用に請求書は発行されません。

- 【トラッキング】タブページ／【技術者】サブタブページ／【契約】フィールドで、作業指示に関連する契約を選択できます。このフィールドのドロップダウンリストには、作業指示の対象となるポートフォリオ品目に関連する契約のみが表示されます。
- 【トラッキング】タブページ／【技術者】サブタブページの【外部技術者】（SQL名：Contact）フィールドと【会社】（SQL名：Supplier）フィールドで、技術者と会社を選択できます。【会社】フィールドに先に入力すると、【外部技術者】フィールドのドロップダウンリストには、その会社の技術者名（連絡先）のみが表示されます。

契約外メンテナンス

このタイプの作業指示は、既存のメンテナンス契約の範囲を超える作業指示か、または契約していない会社によって実行される作業指示です。一般に、このような場合は請求書が発行されます。

- 既存のメンテナンス契約の範囲を超える作業指示の場合は、【トラッキング】タブページ／【技術者】サブタブページ／【契約】（SQL名：Contract）フィールドで契約を指定できます。このフィールドのドロップダウンリストには、作業指示の対象となるポートフォリオ品目に関連する契約のみが表示されます。
- 作業指示の詳細画面にある【トラッキング】タブページ／【技術者】サブタブページ／【外部技術者】（SQL名：Contact）フィールドで、すべての業者の連絡先リストから技術者を選択できます。【会社】（SQL名：Supplier）

フィールドに先に入力した場合は、その会社だけの連絡先リストから選択できます。

作業指示のプロセス

作業指示のライフサイクル

作業指示のライフサイクルは、次のとおりです。

図 6.1. 作業指示のライフサイクル



このサイクルの各過程は、特定の日付に発生するか、または予定された日に実行されます。特定の段階に進むと、[ステータス] (SQL名: seStatus) フィールドが変更します。

表 6.1. 作業指示時のステータス


段階	ステータス
問題発生 の報告 (作業指示依頼の通知)	[通知済]
作業指示の開始	[進行中]
作業指示の終了	[クローズ済]

作業指示の詳細画面の [トラッキング] タブページ / [スケジュール] サブタブページでは、作業指示を依頼した日付、開始予定日、実際の作業開始日など、さまざまな段階の日付を指定できます。

作業指示のステータスと自動処理機能

作業指示の詳細画面上部にある [ステータス] (SQL名: seStatus) フィールドには、その作業指示のステータスが表示されます。このフィールドは、作業指示

伝票の【トラッキング】タブページ／【カレンダー】サブタブページで指定された日付や、ユーザがコマンドボタンをクリックして実行したアクションによって、自動的に計算されます。

- デフォルトでは、作業指示のステータスは【通知済】になります。
- 【開始予定日】（SQL名：dtSchedFixStart）フィールドに入力すると、ステータスは【作業日確定済】に変わります。
- 次の場合は、ステータスが【進行中】に変わります。
 - 【作業開始日】（SQL名：dtActualFixStart）フィールドに入力した場合。
 - ユーザが  ボタンをクリックした場合。
 - 作業指示のいずれかの追加業務のステータスが【進行中】になった場合。
- 次の場合は、作業指示のステータスが【クローズ済】に変わります。
 - ユーザが【クローズ】ボタンをクリックした場合。
 - 作業指示のすべての追加業務のステータスが【クローズ済】になった場合。

作業指示のトラッキング

作業指示の詳細画面の【トラッキング】タブページを使うと、作業指示のスケジュールと実行を正確に管理できます。

このタブページは、さらに次のタブページに分かれています。

- 【技術者】タブページ：作業指示のタイプ、作業指示の担当者に関する情報を入力できます。
- 【追加業務】タブページ：作業指示を複数の追加業務に分割して、階層構造にすることができます。これらの追加業務は、各追加業務の【作業順序】（SQL名：lSequenceNumbe）フィールドの値に従って、同時または順番に実行することもできます。
- 【カレンダー】タブページ：作業指示の実行スケジュールを入力します。解決予定日、実際の作業日、業者に連絡した日付（【契約メンテナンス】または【契約外メンテナンス】タイプの契約の場合）などを指定できます。作業指示の各作業の実行日と制限時間を計算するのに使用する業務用カレンダーも選択できます。
- 【クローズ】タブページ：作業指示の終了に関連する情報を入力します。

作業指示の管理

注意:

この操作は、Windowsクライアントでのみ実行できます。


使いやすくするために、[作業指示] テーブルの [資産] フィールドに関連するリンクをカスタマイズし、仮想階層を作成することをお勧めします。

資産に関連するリンクの表示をカスタマイズするには：

- 1 [資産] フィールドを右クリックします。
- 2 [リンクエディタのプロパティ/グループ/グループ分けを選択] を選択します。
- 3 表示されるウィンドウで、資産に関連するモデルを選択します（[モデル] リンク）。

資産のリストが、関連するモデルに応じて階層的に表示されます。

問題が報告されたら、次の2つの方法のいずれかを使って作業指示レポートを作成します。

- 作業指示のリストを表示します（ナビゲーションバーの [ポートフォリオ管理/拡張ポートフォリオ/作業指示] リンク）。そして [新規作成] をクリックします。
- 資産の詳細画面で [メンテナンス] タブページを選択してから  をクリックし、作業指示レポートを追加します。

技術者は、適切なフィルタ（[技術者]（SQL名：Contact）、[会社]（SQL名：Supplier）、[メンテナンス業者番号]（SQL名：MaintNumber）、[ステータス]（SQL名：seStatus）、[優先度]（SQL名：Priority）などのフィールドを組み合わせたフィルタ）を使ってビューまたは作業指示リストを表示し、自分に関係のある作業指示を見つけることができます。

管理者は、次のようなビューやフィルタを使うと、進行中の作業を定期的に分析できます。

- まだ予定が組まれていない作業指示：ステータス = [通知済]
- 遅れている作業指示：ステータス = [作業日確定済] と [開始予定日]（SQL名：dtSchedFixStart） < 今日の日付
- 進行中の作業指示：ステータス = [進行中]
- ステータスが [進行中] の、技術者、業者、または契約別作業指示リスト。

管理者は、ビューまたはフィルタを使って、完了した作業を定期的に分析できます。

- 見込作業時間と実作業時間の差
- 依頼内容の解決に要した時間の分析


- メンテナンス業者に連絡した日付と最初に作業指示を依頼した日付の差（契約に指定されている日付との比較）

7 プロジェクト

プロジェクトでは、プロジェクトに関わる資産や従業員のグループに関する情報を入力できます。

プロジェクトを作成する

プロジェクトを作成するには：

- 1 **【ポートフォリオ／プロジェクト】** メニューを選択して、プロジェクトのリストを表示します。
- 2 **【新規作成】** ボタンをクリックして、新しいプロジェクトを作成します。
- 3 **【全般】** タブページのフィールド、特に、プロジェクトの終了日を入力し、必要に応じてアラーム  を設定します。
- 4 **【資産】** タブページで、プロジェクトで使う資産を追加します。
- 5 **【従業員】** タブページで、プロジェクトに関連する従業員を指定します。
- 6 プロジェクトに他の資産を追加する必要がある場合は、追加する資産の詳細画面の **【プロジェクト】** タブページ、またはプロジェクトの詳細画面の **【資産】** タブページで追加します。
- 7 現在のプロジェクトのステータスを定期的にチェックします。フィルタとビューを使うと、この作業を簡単に行うことができます。**【開始】**（SQL名：dStart）、**【終了】**（SQL名：dEnd）、および**【ステータス】**（SQL名：Status）フィールドを組み合わせて、現在進行中のプロジェクトや遅れているプロジェクトなどを表示できます。

HP Project and Portfolio Managementからのプロジェクトデータを同期する

はじめに

顧客は、Asset ManagerおよびHP Project and Portfolio Managementソフトウェアソリューションを活用することで、IT組織が提供している価値を測定し、IT組織がサポートしているビジネスにその価値を伝達することが可能になります。

Asset ManagerとHP Project and Portfolio Managementを統合することで、運用と戦略のためのIT投資すべてに対する統合ポータルが提供され、これによりマネージャは最適な投資の選択が容易になり、運用上のITによるコスト削減を実現できるようになります。プロジェクトに関連付けられた人件費および人件費以外のコストは、Asset Managerで一元管理されます。

HP Project and Portfolio Managementは、最適化されたプロジェクトとポートフォリオ管理への第一歩に必要な最良の実践のためのテンプレートとプロセスを提供します。HP Project and Portfolio Managementによって、ITデマンド管理から財務管理、時間管理、リソース管理、さらにはプロジェクト管理、プログラム管理にまで及ぶ、IT作業負荷をもたらす独立した要素すべてが統合され、一元管理されることで、すべてのIT活動をリアルタイムで把握できるようになります。また、HP Project and Portfolio Managementは、プロジェクト管理プロセスの自動化を可能にする強力なワークフロープロセスエンジンの上に構築されます。これらの機能により、HP Project and Portfolio Managementはプロジェクトマネジメントオフィスに対し、ITサービスをビジネス目標に整合させるために必要な可視性、制御、柔軟性を提供できるようになります。

組織は、Asset Managerの持つ強力なITILとの整合性のある財務管理機能と堅牢なコンピューティングエンジンによって、調達から除却までの資産のライフサイクル全体を管理し、コストを把握し、これらのコストをあらゆる種類の資産に対してレポートし、サービスの利用に対する請求を行い、ビジネス上の意思決定を行う経営幹部がこの情報を利用できるようになります。

前提条件

統合前には、次の製品をインストールする必要があります。

- Asset Manager 5.20
- HP Project and Portfolio Management 7.5
- HP Connect-It (Asset Manager サポート一覧表に定義されたサポートされているバージョン)

統合手順

このセクションでは、Asset ManagerとHP Project and Portfolio Managementの間の第一レベルの統合をインプリメントする方法について説明します（プロジェクト管理の要件に応じて、さらに拡張できます）。

Project and Portfolio Management Centerと呼ばれる専用のHP Connect-Itコネクタによって、Asset Managerは（コネクタの2つのインスタンス経由で）2つのHP Project and Portfolio Management Webサービスにアクセスできます。

- **Project Service**（プロジェクトに関する情報を取得）
- **Finance Service**（プロジェクトの実際のコストを取得）

HP Project and Portfolio Managementアプリケーションサーバへのリンクを設定するには、次の手順に従います。

- 1 [管理/アプリケーションサーバのURLアドレスの編集...] ナビゲーションバーリンクを選択します。
- 2 [アプリケーションサーバのプロパティの追加/変更] 画面で、**PPM**アプリケーションサーバを選択します（または、この選択項目がリストにない場合は、エントリを追加します）。
- 3 [サーバのURLアドレス] 列の対応するフィールドをクリックします。
- 4 HP Project and Portfolio ManagementのURLを入力します。たとえば、「**http://localhost:8082**」と入力します。
- 5 [次へ] をクリックし、[完了] をクリックします。

HP Connect-Itシナリオとコネクタを設定するには、次の手順に従います。

- 1 HP Connect-Itを実行します。
- 2 「<HP Connect-It installation folder>\scenario\ppm\ppm75am52\ppmam.scn」シナリオを開きます。
- 3 2つのコネクタインスタンス（**PPM 7.5 Project Service**と**PPM 7.5 Finance Service**）をそれぞれ右クリックして、ウィザードに従うことで、これら2つのコネクタインスタンスを設定します。赤く強調表示されたラベルが付いたパラメータは必須です。

必要に応じて、[**Define connection parameters(接続パラメータの定義)**]画面でサーバとポート詳細を入力または適用します。

HP Connect-Itを使用してHP Project and Portfolio Management から Asset Managerにデータを転送する

シナリオを実行する（定期的にプログラムによって、または手動で）場合にのみデータが転送されます。

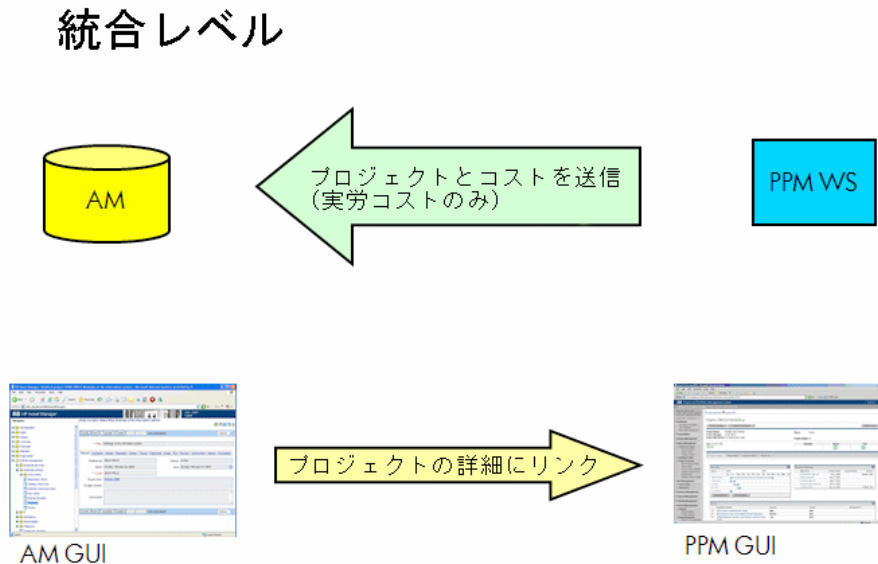
HP Connect-Itは、プロジェクトの経費明細、コストタイプ、プロジェクトに関連付けられた予算からの実際の人件費、プロジェクトステータス、目的、複数通貨の各詳細などのプロジェクトをHP Project and Portfolio ManagementからAsset Managerにインポートします。新規のプロジェクトの詳細は、

Asset ManagerのWindowsクライアントバージョンとWebクライアントバージョンの両方で使用できます。

統合がもたらすもの

概要

次の図は統合がもたらすメリットを簡単に示したものです。



プロジェクトを一覧する

HP Project and Portfolio Managementデータベースからのすべてのプロジェクトは、**PPM**が前に付いた【リファレンス】（Ref）と共に、Asset Managerデータベースに追加されます。したがって、HP Project and Portfolio Managementからのプロジェクトのみを表示するには、状況依存メニューオプション【このフィールドで検索】を使用し、【LIKE】演算子と値**PPM%**を選択して、【リファレンス】（Ref）フィールドでフィルタ処理します。

Asset Manager内のプロジェクトを一覧すると、特殊フィールドはプロジェクトTCO：

【プロジェクト**TCO**】（総所有コスト）を表現します（【コスト】と【ROI】タブに表示されます）。この図は、プロジェクトにアタッチされた経費明細の合計

であり、その経費明細のステータスは発生済または発生済および変更不可のいずれかです。

 **注意:**

このフィールドでの計算結果には、必要に応じて、定義済みの元の通貨から基本通貨1への変換が含まれます。計算結果を変更すると、強制手動更新に従って反映されます。

HP Connect-It統合シナリオには、PPM通貨名とAsset Manager通貨コード間のマッピングテーブルが含まれています。したがって、HP Project and Portfolio Managementからインポートされたコストを的確に表現、または変換できます。

例

British Pound		GBP
---------------	--	-----

これは、「<HP Connect-It installation folder>\scenario\ppm\ppm75am52\ppmam.scn」ファイルに保存されています（また、マッピングテーブルファイルには、互換性を維持するために前のバージョンのシナリオで使用されていたHP Project and Portfolio Management地域と通貨間の対応付けも維持されています）。

Asset Managerからの詳細プロジェクトコストを表示する

Asset Managerは、プロジェクトコストなどのすべてのITコストをフェデレートします。Asset Managerで各プロジェクトのすべてのコストを参照できます（以下の画面例では、PPMから派生したコストにはそれぞれの名前の作業が含まれています）。したがって、Asset Managerは、IT機器コスト、契約コスト、人件費などのプロジェクトの総所得コストに必要なものを提供します。

Asset Managerからのプロジェクトの運用ビューを表示する

[全般] タブの [**Display the detail in Project Portfolio Management(プロジェクトポートフォリオ管理の詳細の表示)**] リンクをクリックすると、

Asset ManagerからHP Project and Portfolio Managementを起動し、作業に焦点を合わせて表示することができます。

Project: Partner Management System ■ Green

Project Settings Configure Participants Delete Project

Project Status: Detailed Project Definition Phase: Project
 Project Manager: Nicole Smith
 Project Plan Period: January 2008 to June 2008 Project Region: US

Status: Nov 3, 2008
■ Green

Schedule	Issues	Cost
	■	■

Project Summary Project Details References

Work Plan

Name	January 2008	February 2008	March 2008	April 2008
Partner Man...	[Gantt bar]			
I. Requirem...	[Gantt bar]			
II. Solutio...	[Gantt bar]			
III. Protot...	[Gantt bar]			
IV. Purchas...	[Gantt bar]			

Edit Work Plan View Baselines

Milestone Summary

Milestone	Sched Finish	Actual Finish	Owners
Requirements Sign-Off	Jan 16, 2008		
Design Approval	Jan 29, 2008		
Prototype Sign-Off	Jan 29, 2008		
Purchases - Capitalized	Jan 7, 2008		
Purchases - Expensed	Jan 7, 2008		

Issues

Req#	Description	Priority	Status	Assigned To
30271	More filters to report	High	New	
30278	Acceptance criteria undefined	High	New	
30261	Change in support hours	Normal	New	
30249	Report layout needs change	Normal	New	
30245	Inventory balance is wrong	Normal	New	

Log Issue Show Full List

Risks

Req#	Description	Status	Probability	Impact Level	Assigned To
30122	Training schedule	New	Unlikely (0-40%)	High	
30126	Missing Key Inputs on Requirements from remote sales offices	New	Unlikely (0-40%)	Low	
30046	Glitches in building move during testing	New	Unlikely (0-40%)	Low	
30095	Patch release incompatibility with desktop publishing SW	New	Unlikely (0-40%)	Low	

Show Full List

インポートされるコストの種類（予定コスト、実際のコスト）

- 実際のコストのみがインポートされます。以下に示すプロジェクト予算例の場合、**[Plan(予定)]** (planned) コストはインポートされません。

This Budget is for **Asset - Corporate Help Desk**, actuals are **entered manually**. This Budget occurs in **Region - US**, Cost are entered in **United States Dollar**. This Budget has capitalized costs.

Start Period: January 2007 Finish Period: December 2008 [Change Periods](#)

Asset Budget Summary			
Planned Budget		Actual Budget	
Total Planned Capital	\$240,000	Total Actual Capital	\$52,000
Total Planned Operating	\$1,152,000	Total Actual Operating	\$56,000
Total Planned Budget:	\$1,392,000	Total Actual Budget:	\$138,000

Asset Budget Breakdown			
Budget Status:	Approved	Rework Plan	
Show:	Plan Only	Plan and Actuals	
View Lines In:	Months	Quarters	

Breakdown from January 2007 to December 2008 (Numbers in Table in 000s)												
	Q1 2007						Q2 2007					
	Jan 07		Feb 07		Mar 07		Apr 07		May 07		Jun	
Capital	Plan	Act	Plan	Act	Plan	Act	Plan	Act	Plan	Act	Plan	
Training Non-Labor <input type="checkbox"/>	10	20	10	20	10	5	10	4	10	3	10	
Capital Total	\$10	\$20	\$10	\$20	\$10	\$5	\$10	\$4	\$10	\$3	\$10	
Operating	Plan	Act	Plan	Act	Plan	Act	Plan	Act	Plan	Act	Plan	
Employee Labor <input type="checkbox"/>	48	24	48	36	48	12	48	14	48	36	48	
Operating Total	\$48	\$24	\$48	\$36	\$48	\$12	\$48	\$14	\$48	\$0	\$48	
Month Total	\$58	\$44	\$58	\$56	\$58	\$17	\$58	\$18	\$58	\$3	\$58	
Quarter Total												
	Plan: \$174 Actual: \$117						Plan: \$174 Act					

「ppmam.scn」シナリオをカスタマイズする

HP Connect-It Scenario Builderを使用して「ppmam.scn」シナリオを変更する場合、「.xml」シナリオファイルをチェックして、次の<ATTRIBUTE Name="mDebit" Type="Double"/>属性を、以下のセクションの<ATTRIBUTE Name="DebitCur" Type="String"/>属性の前に置くようにする必要があります。

```
<PifFormat Version="3.0" FormatId="Project - used to add expense lines">
<STRUCTURE Name="amProject">
<COLLECTION Name="ExpenseLines">
<STRUCTURE Name="CostCategory">
<ATTRIBUTE Name="Name" Type="String"/>
<ATTRIBUTE Name="seExpenseType" Type="Short"/>
</STRUCTURE>
<ATTRIBUTE Name="Title" Type="String"/>
<ATTRIBUTE Name="dBilling" Type="Date"/>
```

```
<ATTRIBUTE Name="mDebit" Type="Double"/>
<ATTRIBUTE Name="DebitCur" Type="String"/>
<ATTRIBUTE Name="seStatus" Type="Short"/>
<ATTRIBUTE Name="sePurpose" Type="Short"/>
<ATTRIBUTE Name="tsAccrualPeriod" Type="Long"/>
</COLLECTION>
<ATTRIBUTE Name="Title" Type="String"/>
</STRUCTURE>
</PifFormat>
```

そうでない場合、コストは正しい総額でインポートされますが、デフォルトの通貨に関連付けられます（これは、定義された場合、**HP Project and Portfolio Management**からデータを転送するのに使用されるログインに関連付けられたものです。それ以外の場合、これはデータベースのデフォルト通貨です）。

8 調整項目

調整項目とは、特定のレコードの1つまたは複数のフィールドを調整するためのレコードです。

調整項目とターゲット項目

調整項目は、1つまたは複数のターゲット項目のフィールドを調整します。以下のタイプの調整項目があります。

- ポートフォリオ品目
- 作業指示
- 契約
- 研修
- ケーブル

ターゲット項目は、調整項目に関連付けられています。

例：レコード「モニタ」（調整項目）は、これにリンクされているコンピュータ（ターゲット項目）のモニタ数を更新します。

調整項目のモデルで調整タイプを指定します。以下の3つの調整タイプが使用可能です。

- 追加
例：ポートフォリオで「256 MBのRAM」を作成すると、このRAMがインストールされているコンピュータの【メモリ】フィールドの値に**256**が加算されます。

- 削減

例：ある資産に対して10時間の作業指示が作成されると、同資産の最初の作業指示の【期間】フィールドの値から「10」が引かれます。
 - 交換

例：資産に関連する契約を新たに作成すると、古い契約が交換されます。
- 調整プロセスで主に使用されるテーブルは、次のとおりです。
- 【属性】テーブル (amNature)

このテーブルでは、調整項目のモデルの属性を定義します。
 - 【モデル】テーブル (amModel)

このテーブルでは、調整項目のモデルを定義します。調整タイプはこれらの各モデルを定義しています。
 - 【調整タイプ】テーブル (amFieldAdjustTempl)

調整タイプには、以下の情報が含まれます。

 - 調整項目のテーブル (ポートフォリオ品目、作業指示、契約、研修、ケーブル)
 - 調整項目からターゲット項目へのリンク (このリンクが調整をトリガします)

例：調整項目をその親項目にリンクする (プリンタをコンピュータにリンクする)
 - ターゲット項目で変更するフィールド

ターゲット項目のレコードに含まれているフィールド、またはターゲット項目のレコードに直接/間接的にリンクされているフィールドを選択できます。
 - フィールドを調整する値を指定するスクリプト
 - 【被調整フィールド】テーブル (amFieldAdjustment)

被調整フィールドのレコードには、以下の情報が含まれています。

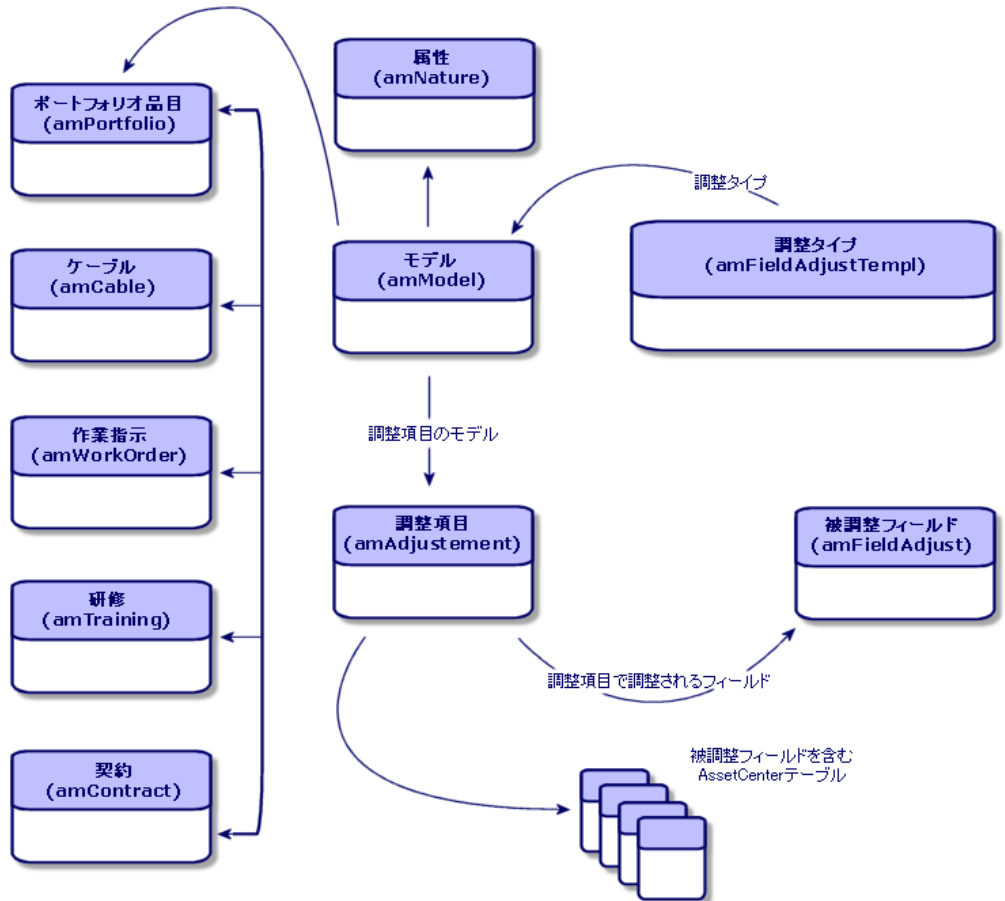
 - 調整日
 - 調整前の値
 - 調整後の値
 - ターゲットレコードのテーブルからアクセス可能な一連のリンク
 - 【調整項目】テーブル (amAdjustment)

このテーブルには、データベースに作成された調整項目が含まれます。

 - 【ポートフォリオ】、【ケーブル】、【作業指示】、【研修】、【契約】テーブル

これらのテーブルには、調整項目になり得る項目のレコードが含まれます。
 - Asset Managerのテーブルすべて

これらのテーブルは、調整のターゲット項目を含んでいます。直接リンクまたは間接リンクを使って、調整項目のレコードは、Asset Managerの全テーブルの全フィールドを調整できます。



調整項目を使用する

調整項目を使ってフィールドを調整するには、以下の手順に従います。

- 1 調整項目のモデルを作成する。
- 2 このモデルで調整タイプを定義する。
- 3 調整項目を作成する。
- 4 調整をトリガするリンクを作成する。

調整項目のモデルを作成する


- ▶ ポートフォリオ品目のモデルを作成する [献 30]

注意:

属性で何も作成しないと定義されているモデル（属性の詳細画面の [作成] フィールドで [なし] が選択されている）以外のすべてのモデルが調整項目のモデルになり得ます。

調整タイプを定義する

調整項目があるフィールドを調整するよう設定するためには、調整項目のモデルで、同フィールドの調整タイプを定義する必要があります。調整タイプを定義するには：

- 1 モデルを表示します（ナビゲーションバーの [ポートフォリオ管理/モデル] リンク）。
- 2 調整項目のモデルを選択します。
- 3 [調整タイプ] タブをクリックします。
- 4  をクリックします。
- 5 [被調整フィールド] フィールドに以下の値を入力します。
 - ターゲット項目へのリンク（フィールドの調整をトリガするリンク）
 - 被調整フィールドを指定する完全パス（リンクまたは一連のリンク）

例：ポートフォリオの調整項目に対しては、[ターゲット] フィールドに以下のように入力します。

```
Parent.Computer.LMemorySizeMb
```

「**Parent**」は調整をトリガするリンクです。具体的には、調整項目を [ポートフォリオ品目] テーブルの親レコード（ターゲット項目）にリンクします。

「**Computer.LMemorySizeMb**」は、被調整フィールド [LMemorySizeMb] へのパスを指定します。

- 6 [処理] フィールドで調整タイプ（交換、追加、または削減）を選択します。
- 7 [ソース] フィールドに調整値を返すスクリプトを入力します。

例：追加の場合、このスクリプトは、調整項目のモデルの「**fv_memory_module**」フィールドの値が被調整フィールドに追加されるよう指示します。

```
RetVal = [Model.fv_memory_module]
```

- 8 [追加] ボタンをクリックして、調整タイプの作成を確定します。

調整項目を作成する

▶ 資産を作成する [献 33]

ここでは、資産に対応するポートフォリオ品目を作成する方法について説明します。

ポートフォリオ品目以外の調整項目を作成する方法については、その他のガイドを参照してください（例えば、契約が調整項目となる場合は、『**契約**』ガイドを参照します）。

調整をトリガするリンクを作成する

フィールドを調整するには、調整タイプでリンクを作成する必要があります。

調整項目がポートフォリオ品目であり、調整をトリガするリンクが**[親レコード]**（**Parent**）リンクである場合、次の操作を実行します。

- 1 [ポートフォリオ品目] テーブルから調整項目を選択します。
- 2 [全般] タブを選択します。
- 3 [親レコード] リンクを入力または作成します。
- 4 ターゲット項目のフィールドが適切に調節されたことを確認します。

フィールドを調整する - 例

ここでは、調整項目（256 MBのRAM）を使って、コンピュータレコードの**[メモリ]** フィールドを調整する方法を説明します。

[ポートフォリオ品目] テーブルの**[親レコード]**（**Parent**）リンクを使って、コンピュータとRAM間のリンクを作成すると、コンピュータの**[メモリ]** フィールド（SQL名：**IMemorySizeMb**）の値に256 MBのメモリが追加されます。


例の詳細

調整項目	[ポートフォリオ品目] テーブルの「 256 MBのRAM 」レコード
ターゲット項目	[ポートフォリオ品目] テーブルの「 ターゲットコンピュータ 」レコード
被調整フィールド	「 ターゲットコンピュータ 」レコードの [メモリ] （ IMemorySizeMb ）フィールド
調整タイプ	RAMの値をコンピュータのメモリに追加


1 - ターゲット項目を作成する

- 1 属性を表示します (ナビゲーションバーの [ポートフォリオ管理/属性] リンク)。
- 2 [新規作成] をクリックします。
- 3 [名前] (**Name**) フィールドに「コンピュータ」と入力します。
- 4 [オーバーフローテーブル] (**seOverflowTbl**) フィールドで [コンピュータ] を選択します。
属性の作成方法: ▶ コンピュータの属性を作成する [献 57]
- 5 [作成] をクリックします。
- 6 モデルを表示します (ナビゲーションバーの [ポートフォリオ管理/モデル] リンク)。
- 7 [新規作成] をクリックします。
- 8 [名前] (**Name**) フィールドに「ターゲットコンピュータ」と入力します。
- 9 [属性] (**Nature**) リンクで「コンピュータ」を選択します。
モデルの作成方法: ▶ コンピュータのモデルを作成する [献 58]
- 10 [作成] をクリックします。
- 11 ポートフォリオ品目を表示します (ナビゲーションバーの [ポートフォリオ管理/ポートフォリオ品目] リンク)。
- 12 [新規作成] をクリックします。
- 13 [モデル] (**Model**) リンクで「ターゲットコンピュータ」を選択します。
- 14 [作成] をクリックします。
オーバーフローテーブル: ▶ オーバーフローテーブル [献 18]
コンピュータの作成方法: ▶ コンピュータを手動で作成する [献 59]
モデルがコンピュータであるポートフォリオ品目を作成すると、[コンピュータ] テーブルにもレコードが同時に作成されます。
- 15 [コンピュータ] タブにある [ハードウェア] サブタブを選択します。
- 16 [メモリ] (**IMemorySizeMb**) フィールドに「256」と入力します。
- 17 [変更] をクリックします。

2 - 任意管理項目「RAM」を[モデル]テーブルに追加する

- 1 任意管理項目を表示します（ナビゲーションバーの[管理/任意管理項目/任意管理項目]リンク）。
- 2 [新規作成] をクリックします。
- 3 [タイトル] (**TextLabel**) フィールドに「RAM」と入力します。
- 4 [入力] タブを選択します。
- 5 [入力タイプ] (**seDataType**) フィールドで[数値] を選択します。
- 6 [作成] をクリックします。
- 7 [パラメータ] タブを選択します。
- 8  をクリックします。
- 9 [テーブル] (SQL名: **TableName**) フィールドで「モデル (**amModel**)」を選択します。
- 10 [制限] タブを選択します。
- 11 [使用可能] (**seAvailable**) フィールドで[はい] を選択します。
- 12 [追加] をクリックします。
- 13 任意管理項目のリストが再度表示されます。
- 14 [変更] をクリックします。

3 - 調整項目を作成する

- 1 属性を表示します（ナビゲーションバーの[ポートフォリオ管理/属性]リンク）。
- 2 [新規作成] をクリックします。
- 3 [名前] (**Name**) フィールドに「調整」と入力します。
- 4 [作成] (**seBasis**) フィールドで「ポートフォリオ品目」が選択されていることを確認します。
属性の作成：ポートフォリオ品目の属性を作成する [献 28]
- 5 [作成] をクリックします。
- 6 モデルを表示します（ナビゲーションバーの[ポートフォリオ管理/モデル]リンク）。
- 7 [新規作成] をクリックします。
- 8 [名前] (**Name**) フィールドに「256 MBのRAM」と入力します。
- 9 [属性] (**Nature**) リンクで「調整」を選択します。
- 10 [任意管理項目] タブを選択します。
- 11  をクリックします。

- 12 任意管理項目 **memory_module (fv_ram)** を表示されるウィンドウで選択します。
- 13 **[OK]** をクリックします。
- 14 この任意管理項目の値を「**256**」に指定します。
- 15 **[作成]** をクリックします。
- 16 ポートフォリオ品目を表示します (ナビゲーションバーの **[ポートフォリオ管理/ポートフォリオ品目]** リンク)。
- 17 **[新規作成]** をクリックします。
- 18 **[モデル] (Model)** リンクで「**256 MBのRAM**」を選択します。
- 19 **[作成]** をクリックします。

4 - 調整項目のモデル用の調整タイプを作成する

- 1 モデルを表示します (ナビゲーションバーの **[ポートフォリオ管理/モデル]** リンク)。
- 2 モデル「**256 MBのRAM**」を選択します。
- 3 **[調整タイプ]** タブをクリックします。
- 4  をクリックします。
- 5 **[被調整フィールド] (TargetField)** フィールドに「**Parent.Computer.IMemorySizeMb**」と入力します。
 を使って、**[コンピュータ]** テーブルの **[メモリ] (IMemorySizeMb)** フィールドへの同リンクを見つけることも可能です。
- 6 スクリプトの **[ソース] (memScript)** フィールドに「**RetVal=[Model.fv_memoire_barrette]**」と入力します。
- 7 **[処理] (seOperation)** フィールドで **[追加]** を選択します。
- 8 **[追加]** をクリックします。
- 9 **[変更]** をクリックします。


5 - 調整をトリガする

- 1 ポートフォリオ品目を表示します (ナビゲーションバーの **[ポートフォリオ管理/ポートフォリオ品目]** リンク)。
- 2 「**256 MBのRAM**」レコードを選択します。
- 3 **[全般]** タブを選択します。
- 4 **[親レコード]** リンクで、調整の対象となる「**ターゲットコンピュータ**」レコードを選択します。
- 5 **[変更]** をクリックします。

6 - 調整を確認する

- 1 コンピュータを表示します（ナビゲーションバーの [ポートフォリオ管理 / IT / IT機器 / コンピュータ] リンク）。
- 2 「ターゲットコンピュータ」レコードを選択します。
- 3 [ハードウェア] タブをクリックします。
- 4 [メモリ] (**IMemorySizeMb**) フィールドの値が「512」（256 + 256）であることを確認します。

7 - 被調整フィールドに関する詳細情報

- 1 コンピュータを表示します（ナビゲーションバーの [ポートフォリオ管理 / IT / IT機器 / コンピュータ] リンク）。
- 2 「ターゲットコンピュータ」レコードを選択します。
- 3 [被調整フィールド] タブを選択します。
- 4 [メモリ] (**IMemorySizeMb**) フィールドに対応するレコードを選択します。
- 5  をクリックして、被調整フィールドに関する以下のような詳細情報を確認します。
 - 調整日
 - 調整前のフィールド値
 - その他

9 用語解説

この章では、ポートフォリオ管理で使用される用語を解説します。

 **注意:**

下記の用語は、五十音順で記載されていません。

ポートフォリオ品目

属性

〔属性〕テーブルのレコードは、モデルを基にして作成されるレコードのタイプを特定します。モデルを作成する際には、モデルの基になる属性を指定しなくてはなりません。

属性は以下のモデルで使用できます。

- ポートフォリオ品目
- 作業指示
- 契約
- 研修
- ケーブル

属性を作成するときに特定のパラメータを設定すると、この属性を基にするモデルに影響します。例えば、〔管理条件〕（seMgtConstraint）フィールドで〔個

別管理しない] を選択すると、[資産] テーブルにレコードを持たないポートフォリオ品目のモデルを作成できます。

モデル

[モデル] テーブルのレコードを使うと、以下のテーブルにレコードを作成できます。

- ポートフォリオ品目
ポートフォリオ品目が作成されると、以下のオーバーフローテーブルにもレコードが同時作成される場合があります。
 - [資産] テーブル
 - [コンピュータ] テーブル
 - [電話機] テーブル
 - [ソフトウェアのインストール] テーブル
- 作業指示
- 契約
- 研修
- ケーブル

ポートフォリオ品目を作成する時、この品目の基になるモデルを必ず指定する必要があります。モデル用に入力したデータは、ポートフォリオ品目のレコードに自動的にコピーされます。例えば、コンピュータのプロセッサのタイプ、適用される税率、契約の期間などの情報がコピーされます。

[モデル] テーブルの階層構造に基づいて、ポートフォリオは構成されます。一般モデルを作成し、そこに詳細な従属モデルを含めることをお勧めします（例：プリンタ/レーザプリンタ/Laserjet 8000DN）。

ポートフォリオ品目

ポートフォリオ品目は、その基になるモデルの特質を継承します。各ポートフォリオ品目の価値に応じて、モデルの属性で管理条件を指定します。管理条件を指定すると、資産、トラッキングするロット、またはトラッキングしないロットとしてポートフォリオ品目が作成されます。ポートフォリオ品目の基になるモデルの属性でオーバーフローテーブルを指定すると、このポートフォリオ品目を作成する時に、オーバーフローテーブルにもレコードが同時作成されます。以下のオーバーフローテーブルが存在します。

- [資産] テーブル
- [コンピュータ] テーブル
- [電話機] テーブル
- [ソフトウェアのインストール] テーブル

資産

[資産] テーブルのレコードは、高価値のポートフォリオ品目のことを指し、個別にトラッキングされます。各資産には、2つのレコードがリンクされます（[ポートフォリオ品目] テーブルのレコードと [資産] オーバーフローテーブルのレコード）。ポートフォリオ品目の基になるモデルの属性の画面にある【**管理条件**】（seMgtConstraint）フィールドで【**固有資産**】タグを選択すると、ポートフォリオ品目が作成されるのと同時に、[資産] テーブルにもレコードが作成されます。

すべての資産はポートフォリオ品目ですが、すべてのポートフォリオ品目が資産であるとは限りません。

オーバーフローテーブル

あるテーブルにレコードが作成されると、別のテーブルにもレコードが同時に作成される場合があります。後者のテーブルを、「オーバーフローテーブル」と呼びます。

Asset Managerでは、ポートフォリオ品目の基になるモデルの属性を作成する際に、オーバーフローテーブルを指定できます。[ポートフォリオ品目] テーブルにレコードを作成すると、オーバーフローテーブルにもレコードが同時作成されます。以下のオーバーフローテーブルが存在します。

- [資産] テーブル
- [コンピュータ] テーブル
- [電話機] テーブル
- [ソフトウェアのインストール] テーブル

ロット

ロットは、複数の同一な品物から構成されます。ロットの数量は、品数（椅子100脚のロット）で表記される場合と、単位（砂1トンのロット）で表現される場合があります。1ロットを作成すると、リンクされるレコードが2つ作成されます。つまり、[ポートフォリオ品目] テーブルと [資産] テーブルの各々にレコードが作成されます。ポートフォリオでは1つのロットを複数のロットに分割することができます。例えば、分割されたロットを異なる場所に割り当てることが可能です。分割が行われると、2番目のロットのレコードが作成されます。元のロットのレコードの数量は、2番目のロットに含まれる数量分減少します。例えば、椅子100脚のロットから椅子10脚が別の部署に移動されたらと仮定します。元のロットの数量は90脚に減少し、作成された2番目のレコードには椅子10脚が含まれます。

トラッキングしないロット

トラッキングしないロットは、[資産] テーブルで対応するレコードを持ちません。トラッキングしないロットを作成するには、ロットの属性で管理条件「個別管理しない」を選択する必要があります。低価値のポートフォリオ品目（消耗品やサプライ品）をトラッキングしないロットとして指定します。トラッキングしないロットに関するトラッキング情報は記録されません。トラッキングしないロットをトラッキングするロットに変換するには、[資産] テーブルに対応するリンクレコードを作成します（[ポートフォリオ品目] テーブルで【タグ】 ボタンを使用する）。

消耗品

消耗品は、ポートフォリオ品目です。消耗品を作成するためには、基になるモデルの属性で【消耗品】 オプションを選択します。

管理条件

ポートフォリオ品目の管理条件は、その属性のレコードで指定されます。どの管理条件を選択するかにより、ポートフォリオ品目に資産タグが割り当てられるかどうかが決まります。資産タグの付いたポートフォリオ品目は、[ポートフォリオ品目] テーブルと[資産] テーブルに自動的に登録されます。

3種類の管理条件が用意されています。

- 固有資産タグ
この制限条件は、ポートフォリオの資産に適用されます。資産には固有資産タグが割り当てられます。
- 資産タグ
この制限条件は、トラッキングするロットに適用されます。トラッキングするロットが作成されると、これに資産タグが割り当てられます。あるロットとその従属ロットは同一の資産タグを共有します（親ロットと従属ロットは、[資産] テーブルで同じレコードを参照します）。
- 個別管理しない
この制限条件は、トラッキングしないロットに適用されます。トラッキングしないロットには作成時に資産コードが割り当てられません。トラッキングしないロットは、[資産] テーブルでレコードを参照しません。トラッキングしないロットに資産コードを割り当てて、トラッキングするロットに変換することは常時可能です。

管理タイプ

Asset Managerでは、ポートフォリオ品目の管理タイプが3つ存在します。

- 個別管理

資産用に使用されます。各資産は、個別にトラッキングされます。

- 一括管理
ロットに使用されます。ロットに含まれる品物は、[資産] テーブルで個別ではなく、ロット単位でトラッキングされます。例えば、ロットの取得価格は、ロットに含まれる各品物ごとの価格ではなく、ロット全体の価格です。
- 非個別管理
トラッキングしないロットに使用されます。トラッキングしないロットは、[ポートフォリオ品目] テーブルのみに記録されます。しかし、トラッキングしないロットに資産タグを割り当てると、トラッキングするロットとして集合的に管理できます。また、ロットに1品しか含まれていない場合は、資産として個別に管理することも可能です。

トラッキング

[資産] テーブルのレコードは、以下の3つの分野でトラッキングされます。

- 技術情報のトラッキング
例：コンピュータのハードウェア情報
- 財務情報のトラッキング
例：資産の減価償却方法
- 契約情報
例：サーバのメンテナンス契約

在庫

在庫は、割り当て待ちのポートフォリオ品目を含みます。Asset Managerに在庫規則を関連付けると、再補充が必要な場合に購入依頼が自動的にトリガされます。

割り当て

ポートフォリオ品目の割り当ては、ポートフォリオにおけるポートフォリオ品目のステータスを指定します。Asset Managerでは、次の割り当てステータスが使用可能です。[使用中]、[在庫中]、[除却済]、[納品待ち]、[メンテナンスのため返却]、[サプライヤに返却]、[紛失]

数量

数量は、ロット単位で管理するポートフォリオ品目数量を記述するために設けられています。ロットの数量は、品数（椅子100個のロット）で表記される場合と、

単位（砂1トンのロット）で表現される場合があります。ロットのモデルを使用すると、数量を指定して異なる複数のロットを作成できます。

プロジェクト

プロジェクト

プロジェクトは、ポートフォリオ品目や従業員に関連付けられています（例：ある部署を複数の部署に分割する）。Asset Managerでは、企業のあらゆるプロジェクトを正確にトラッキングできます。各プロジェクトは、契約や作業指示を使用できます。

索引

- アプリケーションサーバのURLアドレスの編集... (ウィザード) , 67 , 64
- アプリケーションサーバの追加 (ボタン) , 64
- インシデント
 - HP Service Managerデータベースで表示, 66
- オーバーフロー - テーブル, 18
- コンピュータ, 57
 - オーバーフローテーブル, 20
 - モデル, 58
 - 作成
 - HP Discovery and Dependency Mapping Inventory, 61
 - 自動, 60
 - 手動, 59
 - 属性, 57
- コンピュータの標準セット, 69
- サービスプロバイダ
 - クライアント-リソース関係, 79
 - モデル, 79
 - 作成, 79
- ソフトウェア
 - オーバーフローテーブル, 20
 - ソフトウェアのインストール
 - オーバーフローテーブル, 20
 - データベース
 - 準備, 88 , 66 , 63
 - 専門分野データ - インポート
 - 既存データベース, 89
 - 既存のデータベース, 63
 - 新しいデータベース, 89
 - 新規データベース, 63
- データモデル, 18
- トラッキング, 153
- トラッキングしないロット, 40
 - トラッキングするロットへの変換, 42
 - 作成, 40
 - 定義, 152
 - 非個別管理, 16
 - 分割, 41
- ビジネスサービス, 99
 - Asset Managerにおけるビジネスサービスの表現, 100
 - クライアント-リソース関係, 99
 - ビジネスサービスのTCO, 110

- リソースのダウンタイム, 104
 - インパクト, 106
 - インパクト分析ウィザード, 108
 - 作成, 105
 - 例, 107
- プロジェクト
 - HP Project and Portfolio Managementとの同期, 132
 - 作成, 131
 - 定義, 154
- ポート, 70
 - 変更, 76
- ポートフォリオ - 専門分野データ, 66
- ポートフォリオ品目, 27-56, 17
 - (参考 トラッキングしないロット)
 - (参考 モデル)
 - (参考 ロット)
 - (参考 在庫)
 - (参考 資産)
 - (参考 属性)
- オーバーフローテーブル, 18
- コンテキスト情報の指定, 47, 21
- サプライヤに返却, 49
- トラッキング, 22
- 移動, 46
- 管理, 15
 - タイプ, 15
 - 一括管理, 16
 - 個別管理, 16
 - 非個別管理, 16
- 業者に委託, 50
- 寿命, 49
- 値, 15
- 定義, 150
- 紛失, 50
- 予約, 47

- モデル, 25, 16
 - コンピュータ, 58
 - サービスプロバイダ, 79
 - ポートフォリオ品目, 29
 - モバイル機器, 78
 - 作成, 30
 - 単位, 30
 - 定義, 150
- モバイル機器, 77
- インポート, 83, 62
- クライアント-リソース関係
 - クライアント-リソースの事例, 86
 - リンク, 79
 - 作成, 79
- ソフトウェアのインストール, 80
- モデル, 78
- 作成, 84, 78
 - HP Discovery and Dependency Mapping Inventory, 82
 - 自動, 81
 - 実用例, 85
 - 手動, 77
- 実用例, 84
- 属性, 77
- 電話事業者
 - 作成, 84
- ロット
 - 一括管理, 16
 - 作成, 36
 - 単位, 30
 - 定義, 151
 - 分割, 38
- ロットの単位, 30
- ロットの分割 (ウィザード), 39
- 仮想マシン, 87
 - ホスト, 93
 - 作成, 93
- 仮想マシンのホスト, 87
- 仮想環境, 87
- 割り当て, 153
- 管理タイプ, 152
- 管理条件, 152
- 契約
 - 資産, 50
 - 取得方法, 43
- 減価償却, 44
- 固定資産, 44
- 在庫, 51
 - 管理, 54
 - 規則, 52
- 再発注レベル - 前提条件, 52
- 再発注依頼, 53
- 再発注制限のチェック - 頻度, 53
- 使用可能品目, 53

- 資産の予約, 49
- 資産 - 在庫からの出庫, 55
- 定義, 153
- 品目の追加, 54
- 作業指示, 125
 - サイクル, 127
 - ステータス, 127
 - タイプ, 126
 - トラッキング, 128
 - 管理, 129
 - 自動処理機能, 127
- 残存価額 (フィールド) , 45
- 資産, 33 , 17
 - (参考 コンピュータの標準セット)
 - オーバーフローテーブル, 19
 - コスト, 44
 - 契約, 50
 - 個別管理, 16
 - 固定資産, 44
 - 在庫, 55
 - 財務情報のトラッキング, 42
 - 取得契約, 43
 - 取得方法, 42
 - 定義, 151
- 資産のコスト, 44
- 消耗品, 41
 - 定義, 152
- 数量, 153
- 接続, 70
 - コンピュータ, 72
 - ポート, 70
 - 管理, 75
 - 作成, 71
 - 削除, 76
 - 影響, 76
 - 接続数, 75
 - 宣言, 73
 - 前提条件, 70
- 専門分野データ, 89 , 89 , 63 , 63
- 属性, 23 , 16
 - コンピュータ, 57
 - ポートフォリオ品目, 27
 - モバイル機器, 77
 - 作成, 28 , 23
 - 定義, 149

- 動作オプション, 24
 - 例, 28
- 単位, 30
 - 作成, 30
 - 表示, 31
- 調整, 139-147
 - 調整項目, 139
 - 例, 143
 - 調整項目
 - ターゲット項目, 139
 - フィールド調整をトリガするリンク, 143
 - モデル, 142
 - 作成, 143
 - 使用, 141
 - 調整タイプ, 142
- 電話機, 95-98
 - オーバーフローテーブル, 20
 - テーブル, 95
 - ボタン, 97
 - 管理, 96
 - 機能, 95
 - 追加, 97
 - 作成, 97
- 変更
 - HP Service Managerデータベースで表示, 66 , 66
 - [Enterprise Discoveryの詳細を表示]メニュー, 65

A

Asset Manager Application Designer

- 専門分野データ - インポート
 - 既存データベース, 89
 - 既存のデータベース, 63
 - 新しいデータベース, 89
 - 新規データベース, 63

- Asset Manager Automated Process Manager
 - 在庫, 52

E

- edac.scn (シナリオ) , 61
- edac-mobiledevices.scn (シナリオ) , 82

H

HP Connect-It, 81 , 60

HP Discovery and Dependency Mapping
Inventory

Asset Managerでコンピュータを表示, 65
, 62

HP Service Manager

インシデント、変更および問題を表示, 66

I

ITポートフォリオ

(参考 コンピュータ)

(参考 コンピュータの標準セット)

(参考 モバイル機器)

(参考 仮想環境)

(参考 接続)